



取扱説明書

COMMUNICATIONS RECEIVER
IC-R6

Icom Inc.

株式会社エクセリ 東京都中央区日本橋浜町2-30-1 / 大阪府大阪市中央区久太郎町1-9-5 URL:<https://www.exseli.com/>



はじめに

このたびは、IC-R6をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

IC-R6は、0.100～1309.995MHzの広帯域をカバーする、超小型・軽量の受信機です。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いいただきますようお願い申し上げます。

お読みになったあとも、いつでも読めるように大切に保管してください。

本製品について

◎BTL回路と大型スピーカー搭載により、屋外運用に最適な大音量で聞き取りやすくなっています。

◎クローニング機能により、本製品の設定やメモリーの内容を本製品と同じ受信機に書き込みできます。(別売品が必要です)
(※P101)

使用後はリサイクルへ



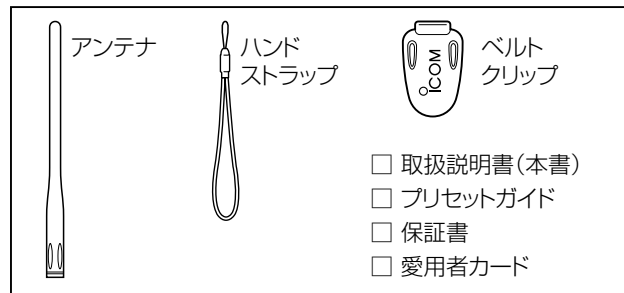
この製品は充電式電池使用機器です。

希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、端子部分をテープで絶縁し、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

充電式電池リサイクル協力店については、一般社団法人JBRCのホームページでご確認ください。

JBRCホームページ <http://www.jbrc.com/>

付属品について



※シリアル番号が「11XXXXXX」(はじめの2桁が11)のものには、上図の付属品に加えてバッテリーチャージャーとニッケル水素電池を付属しています。
シリアル番号は、本製品背面のシリアルシールでご確認ください。

バッテリーチャージャー(BC-196)

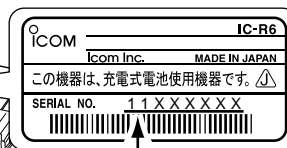
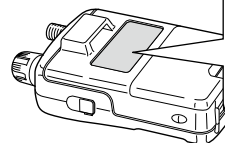
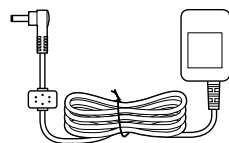
入力電圧: AC100V、50/60Hz

出力電圧: DC4.5V、0.3A

ニッケル水素電池

(充電式電池)

(1400mAh ×2本)



シリアル番号

メモリーチャンネルのプリセットについて

本製品は、工場出荷時、よく使用される周波数をメモリーチャンネルにプリセットしています。

本書の説明は、メモリーチャンネルがプリセットされていることを前提に説明しています。

【ご注意】

オールリセットすると、出荷時にプリセットされたメモリーチャンネルがすべて消去されますので、ご注意ください。

【ご参考】

プリセットメモリーのデータは、弊社ホームページよりダウンロードできます。

CS-R6(別売品:クローニングソフトウェア)を使用すると、ダウンロードしたプリセットメモリーのデータを本製品に書き込みできます。

取り扱い上のご注意

- ◎ アンテナを持って製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。
- ◎ 本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。
- ◎ 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手のままで電池やアンテナを付けたり、はずしたりしないでください。

- ◎ 受信機本体や充電器の各端子(充電端子、および電源ジャック)にゴミやホコリが付着すると、正常に動作しないことがあります。
乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。
- ◎ 磁気カードを本製品に近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎ 本製品をお買い上げいただいたときや、6か月以上充電しなかったときは、必ずニッケル水素電池を充電してください。
- ◎ 本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により、逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ◎ 外部アンテナを使用するときは、テレビなどのアンテナや、電灯線からはなして設置してください。
- ◎ BC-196またはCP-18を接続したときに、スプリアスや雑音を受信することがあります。
できるだけBC-196またはCP-18から本製品をはなして使用してください。
- ◎ 本製品の内部回路の構成上、受信できなかつたり、雑音を生じさせたりする周波数もありますが、故障ではありません。

防水性能についてのご注意

この製品は、防水構造ではありませんので、絶対に水につけないでください。

水につけると故障の原因になります。

はじめに

電波法についてのご注意

電波法第59条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」と通信の秘密について定められています。

※受信機の取り扱いには十分配慮して、電波法を守ってください。

※使用できるのは、日本国内に限られています。

自動車運転時のご注意

- ◎安全運転のため、運転中に本製品を操作したり、表示部を注視（表示部を見つづける行為）したりしないでください。
- ◎受信機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
- ◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。
- ◎安全運転のため、受信機を身体に付けた状態で運転しないでください。

電磁ノイズについて

以下に示すようなインバーター内蔵の電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

【インバーター内蔵のおもな電子機器】

- ◎LED照明器具
- ◎電磁調理器
- ◎自動車に搭載された電子機器
- ◎太陽光発電装置

ユーザー登録について

本製品のユーザー登録は、アイコムホームページでお受けしています。

インターネットから、<http://www.icom.co.jp/> にアクセスしていただき、ユーザー登録用フォーム（サポート情報→ユーザー登録）にしたがって必要事項を入力してください。

個人情報の取り扱いについて

弊社が個人情報を利用する場合、事前に明確にした利用目的達成の必要範囲内で利用し、範囲を超えての利用はいたしません。弊社の個人情報保護方針については、弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

はじめに

本書の見かた

(記載例)

5 メモリーを使う

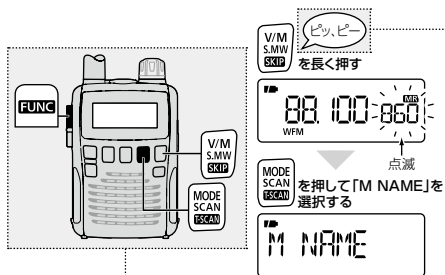
1. **名前**を書き込みたいメモリーチャンネルを呼び出します。

- **バンク**名を書き込みたい場合は、対象の**バンク**を選択します。

2. **[S.MW]** **[V/M]**を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押して、**セレクトメモリーライト**状態にします。

メモリーチャンネル表示部が点滅します。

※「ピッ、ピー、ピビ」と鳴るまで押したときは、メモリーチャンネルの内容を VFO モードに転送する操作になります。 (※Pxx)



【番号付きの太字】は操作内容を表します。

【●】は操作する際のヒントや、選択肢がある場合などを表します。

【**[S.MW]** **[V/M]**】はボタンを表します。



・【**[V/M]**】はボタンの1段目の操作を表します。

(例：VFO モード / メモリーモード切り替え)

2 段目
3 段目
・【**[S.MW]** **[V/M]**】、【**SKIP** **[V/M]**】のように [] が付いているものは、ボタンの2段目、3段目の操作を表します。
(例：セレクトメモリーライト、スキップ)

【細字】は操作を行った結果を表します。

【※】は操作する際の注意事項を表します。

【Pxx】は参照するタイトルタイトル名や参照ページを表します。

イラスト中の「ピッ、ピー」は、ボタンを長く押す場合の操作音を表します。

本体のイラストは、使用するボタンの位置を表します。

充電しよう

ご使用前に、付属のニッケル水素電池を充電しましょう。

※付属のニッケル水素電池は、出荷時の状態では十分な充電が
されていません。ご使用前に必ず充電してください。

※充電時間は約15時間です。

△危険

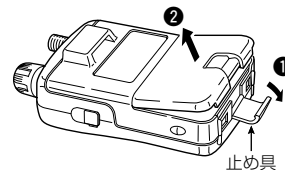
- ◎ 付属のニッケル水素電池以外を充電しないでください。
- ◎ 付属のバッテリーチャージャー(BC-196)、別売のシガレットライターケーブル(CP-18)、バッテリーチャージャースタンド(BC-194)以外で充電しないでください。

△注意

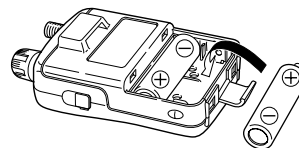
- ◎ ニッケル水素電池を完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
長期間電池を保管する場合は、電池を半分程度使用した状態で、本製品から取りはずして保管してください。
保管期間と温度範囲については、P5をご覧ください。
- ◎ 付属のニッケル水素電池以外は使用しないでください。
付属のニッケル水素電池以外では動作保証できません。

■電池の入れかた

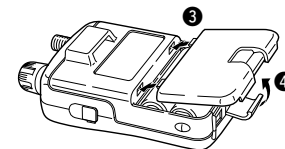
1. 電池カバーの止め具をはずして、電池カバーをはずします。



2. 電池の+(プラス)、-(マイナス)の向きを確かめて、電池(2本)を入れます。



3. 電池カバーを取り付け、止め具を元に戻します。



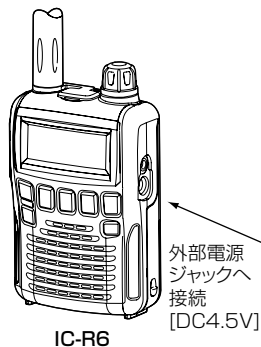
■ 充電をはじめると(充電設定)

充電する際、ニッケル水素電池を充電するための充電設定が必要です。一度設定すると2回目以降は自動的に充電がはじまります。

※ただし下記の場合は充電設定がリセットされますので、再設定してください。

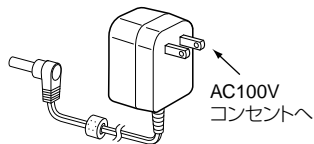
- ニッケル水素電池を取りはずした場合
- 電池残量が大幅に減ってから、再度充電する場合
☞【電池選択画面が表示されないときは】(P9)

【接続図】

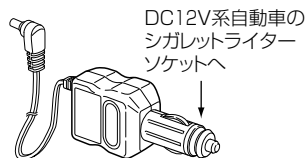


※バッテリーチャージャースタンド(BC-194)についてはP11を参照してください。

●バッテリーチャージャー (BC-196)



●シガレットライターケーブル (CP-18) (別売品)



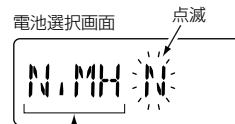
下記の手順1～3(充電設定)は10秒以内に操作する必要があります。

操作を開始する前に、手順を一とお読みください。操作に10秒以上かかると充電設定できず、充電がはじまりません。(画面が消灯します)

その場合は外部電源をはずし、電池1本を取りはずします(2秒以上)。再度電池を入れて、手順1から操作してください。

1. 左の接続図を参考にして、外部電源ジャックに外部電源(BC-196、CP-18)を接続します。

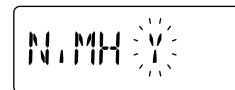
ディスプレイに電池選択画面『NiMH N』が表示され、『N』が点滅します。



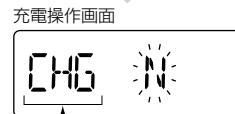
「NiMH(ニッケル水素電池)」

【ニッケル水素電池】を選択する

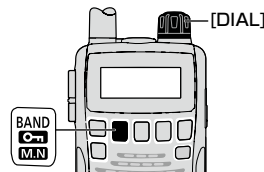
2. [DIAL]を回して『NiMH Y』を選択し、[BAND]を押します。ディスプレイに充電操作画面『CHG N』が表示され『N』が点滅します。



「Y(はい)」を選択

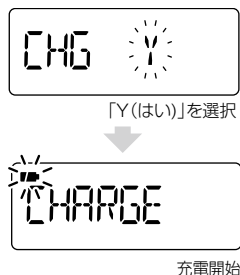


「CHARGE(充電)」

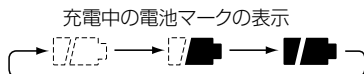


「充電」をはじめる


3. [DIAL]を回して[CHG Y]を選択し、[BAND]を押します。ブープ音(ピピッ)が鳴り、充電を開始します。



- 充電中は下記のように電池マークが点滅します。



- 約15時間で自動的に充電を停止します。充電が完了すると、電池マークと『CHARGE』が消灯します。

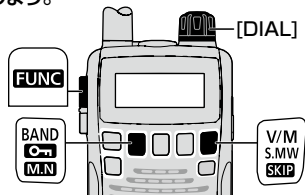
充電しながら操作することもできます。その場合は、電源キー[]を1秒以上押して、電源を入れてください。充電中は電池マークが点滅し、充電が完了すると電池マークが消灯します。

■ 充電を終わる

外部電源(BC-196、CP-18)を取りはずします。

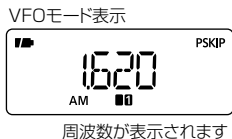
FMラジオを受信しよう

地元のFM放送を受信してみましょう。



1. **[V/M]** を短く押して、VFOモードにします。

☞【VFOモードとメモリーモードについて】(P20)



周波数が表示されます

受信バンドを選択する

2. **[BAND]** を短く数回押して、FM放送(76~107MHz)バンドを選択します。

☞【受信バンド(周波数帯)について】(P21)

- **[BAND]** を押しながら **[DIAL]** を回しても選択できません。
- ※ FM放送を受信するときは、受信モードが『WFM』になっていることを確認してください。

☞【受信モード(電波型式)を設定する】(P22)

※ FMステレオ放送には対応していません。

FM放送(76M)バンド
76.000MHz~107.995MHz



(初期設定:76.000MHz)

周波数を設定する

3. **[DIAL]** を回して、受信したい周波数に設定します。

☞【受信する周波数を設定する】(P22)

- **[FUNC]** を押しながら **[DIAL]** を回すと、周波数が大きく変わります。

- FM補完放送を受信する場合は、チューニングステップを変更してください。

☞【周波数を小刻みに変える】(P24)



(例)

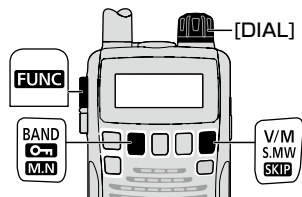
受信すると、ラジオ放送が聞こえます。



プリセットされたメモリーチャンネルを呼び出そう

プリセットされたメモリーチャンネルを呼び出して、受信しましょう。

※各手順の内容についての詳細は、【メモリーを使う】(P32)を参照してください。



《例》プリセットガイドに記載されている
『バンクC 東京国際空港(バンクネーム:RJTT)』の
バンク番号『C02』を呼び出す

【プリセットガイド (別紙)】

バンクチャンネル バンクネーム
バンクC 東京国際空港 (バンクネーム: RJTT)

バンク番号	メモリーネーム	周波数	モード	備考	バンク番号	メモリーネーム	周波数
C00	TT-CL1	121.8250	AM	CLR	C14	TT-AP1	119.1000
C01	TT-CL2	121.8750	AM	CLR	C15	TT-AP2	119.7000
C02	TT-GN1	118.2250	AM	GND	C16	TT-AP3	121.5000

バンク番号

1. **V/M** を短く押して、メモリーモードにします。
 【VFOモードとメモリーモードについて】(P20)

メモリーモード表示

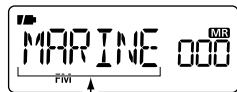


点灯

バンクネーム表示にする

2. **FUNC** を押しながら **BAND** を押して、**[B NAME]** を選択します。

約1秒後にバンクネームを表示します。



バンクネーム

バンクチャンネルを選択する

3. **BAND** を短く数回押して、**[RJTT]** を選択します。
 - **BAND** を押しながら **[DIAL]** を回しても選択できます。



東京国際空港を選択

バンク番号を選択する

4. **[DIAL]** を回して、バンク番号 **[C02]** を選択します。
 『C02』に登録されている
 『118.225MHz』を受信します。



バンク番号

IC-R6を使いこなそう

信号の出ている周波数を探したい

VFOモードでスキャンする …………… P57

よく聴く周波数を登録したい

メモリーチャンネルに登録する …………… P37

メモリーをジャンル別に振り分けたい

メモリーバンクを使う…………… P44

登録した周波数に名前を付けたい

ネームを使う…………… P49

はじめに	i	■ バッテリーチャージャースタンド(BC-194)を使う	11
本製品について	i	■ 外部電源を使用する	12
付属品について	i	■ シガレットライターソケット(CP-18)について	13
メモリーチャンネルのプリセットについて	ii	3 各部の名称と機能	14
取り扱い上のご注意	ii	■ 正面/側面パネル	14
防水性能についてのご注意	ii	■ ディスプレイ	18
電波法についてのご注意	iii	4 基本操作について	20
自動車運転時のご注意	iii	■ VFOモードとメモリーモードについて	20
電磁ノイズについて	iii	■ 受信バンド(周波数帯)について	21
ユーザー登録について	iii	■ 受信モード(電波型式)を設定する	22
個人情報の取り扱いについて	iii	■ 受信する周波数を設定する	22
登録商標/著作権について	iv	■ 音量を調整する	23
本書の見かた	v	■ スケルチレベルを調整する	23
充電しよう	vi	■ 各種機能の設定を変える(応用)	24
FMラジオを受信しよう	ix	5 メモリーを使う	32
プリセットされたメモリーチャンネルを呼び出そう	x	■ メモリーの種類	33
IC-R6を使いこなそう	xi	■ メモリーモードの基本操作	34
安全上のご注意(必ずお読みください)	1	■ ネームで呼び出す	36
■ 本製品について	1	■ メモリーチャンネルに登録する	37
■ ニッケル水素電池について	3	■ プログラムスキャン用チャンネルに登録する	40
■ 充電器について(BC-196)	5	■ メモリーを消去する	43
1 ご使用の前に	7	■ メモリーバンクを使う	44
■ 付属品の取り付けかた	7	■ ネームを使う	49
2 電源について	8	■ 各機能をメモリーチャンネル、 メモリーバンクに書き込む	53
■ ニッケル水素電池の充電について	9		

もくじ

6 スキャン機能を使う	55	9 その他の便利な機能	100
■ スキャンの基本操作	55	■ ボイススケルチコントロール機能について	100
■ スキャン中にできる操作	56	■ クローニングについて	101
■ スキャンに便利な設定	56	■ CI-V(リモート)について	102
■ VFOモードのスキャンについて	57	■ CI-Vの基本フォーマットについて	103
■ VFOモードのスキップ設定について	63	■ コマンド一覧表	104
■ オートメモリーライトスキャンを使う	64	10 困ったときは	106
■ メモリーモードのスキャンについて	66	■ リセットするには	106
■ メモリーチャンネルごとにスキップを 指定/解除する	70	■ 故障かな?と思ったら	107
■ プライオリティースキャンについて	71	■ アフターサービスについて	108
7 SETモードの設定	80	11 別売品について	109
■ SETモードの設定方法	80	■ 別売品についてのご注意	109
■ 設定項目の一覧表	81	■ 別売品一覧	109
■ 設定項目の詳細について	82	12 用語集	110
8 各種の交信を受信するために	94	13 定 格	112
■ デュプレックス通信を受信する	94	■ 一般仕様	112
■ トーン/DTCSを使った通信を受信する	96	■ 受信部	112
■ DTCS位相反転機能について	98	さくいん	113
■ トーン/DTCSコードスキャンのしかた	99		

安全上のご注意(必ずお読みください)

安全にご使用いただくために、
必ずお読みください。

- ◎ 使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
- ◎ 次の『△危険』『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから、本文をお読みください。
- ◎ お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

△危険

これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

△警告

これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

△注意

これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

【免責事項について】

お客様または第三者が、取扱説明書記載の使用法とは異なる使用法で本製品を使用したことにより生じた故障、ならびに本製品の違法な使用により生じた故障につきましては、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。本製品の使用により本製品以外に生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

■ 本製品について

△危険

- ◎ 引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。引火、火災、爆発の原因になります。
- ◎ 液晶パネルが破損した場合は、液もれした液に触れないでください。液もれした液が目に入ったり、皮膚や衣服に付着したりしたときは、こすったり、触ったりしないでください。失明、皮膚障害のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- ◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。
 - 本製品底部の端子にハンダ付けをしないでください。
 - 本製品底部の端子間を針金などの金属類で接続しないでください。

安全上のご注意

■ 本製品について(つづき)

⚠ 警告

- ◎ 民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
- ◎ 電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- ◎ 線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 指定以外の電池を使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ アンテナやハンドストラップを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。
本人や他人に当たって、けがや故障、破損の原因になります。
- ◎ 大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- ◎ 製品の分解や改造は、絶対にしないでください。
また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

- ◎ 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常がある場合は、使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
- ◎ 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
感電、けがの原因になります。

⚠ 注意

- ◎ 直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には放置しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- ◎ 製品の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。
落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ 製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナーやベンジンなど)を絶対使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

- ◎ **本製品を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。**
故障の原因になることがあります。
- ◎ **本製品をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。**
落ちたり、倒れたりして、火災、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ **指定以外の別売品を使用しないでください。**
故障の原因になることがあります。
- ◎ **ハンドストラップやベルトクリップは確実に取り付けてください。**
落下によるけが、本製品の破損の原因になることがあります。
- ◎ **アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。**
変形や破損の原因になることがあります。
- ◎ **針金などの細い棒でスピーカー一部の穴に触れないでください。**
故障の原因になることがあります。
- ◎ **-10℃～+60℃以外の環境では使用しないでください。**
記載の温度範囲以外でのご使用は、故障の原因になることがあります。
- ◎ **長期間で使用にならないときは、本製品の電源を切り、電池を取りはずしてください。**
本製品を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。

■ ニッケル水素電池について

アルカリ乾電池については、乾電池に記載されている注意事項をご覧ください。

△ 危険

- ◎ **火の中に投入したり、加熱したりしないでください。**
ニッケル水素電池内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。
- ◎ **火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。**
ニッケル水素電池の性能や寿命が低下、保護装置が動作して充電できなくなったり、保護装置が破損したりして、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。
- ◎ **コンクリートなどの堅い床に落としたりするなど、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。**
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◆ **ニッケル水素電池をご使用の際に、異常と思われたときは、使用しないで買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。**

安全上のご注意

■ ニッケル水素電池について

⚠ 危険 (つづき)

◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。

- ニッケル水素電池の端子にハンダ付けをしないでください。
- ニッケル水素電池の端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- 鍵などの金属類とニッケル水素電池をいっしょに持ち運んだり、放置したりしないでください。
- ニッケル水素電池は、水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 弊社指定の充電器での充電、および受信機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の受信機や充電器で使用したり、それ以外の用途には使用したりしないでください。
- ニッケル水素電池からもれ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。
失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- ニッケル水素電池は、絶対に分解や改造をしないでください。

⚠ 警告

◎ ニッケル水素電池の使用や充電中、または保管中などに、いつもより発熱しているなど異常と感じられたときは、使用を中止してください。

使用をつづけると、ニッケル水素電池の破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。

◎ ニッケル水素電池を電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。

破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎ 指定の充電時間以上、充電しないでください。

指定の充電時間を経過しても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。

破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎ 満充電後、すぐに再充電を繰り返さないでください。

過充電になり、ニッケル水素電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。

◎ ニッケル水素電池からもれ出した液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。

皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

◎ ニッケル水素電池は、ぬれた状態で弊社指定の受信機に装着しないでください。

受信機の電源端子接点部に水や海水が付着すると、故障の原因になります。

◎ 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。

発熱、感電、けが、故障の原因になります。

◎ テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。

ニッケル水素電池内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。

△ 注意

◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。

- ニッケル水素電池を完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。

長期間ニッケル水素電池を保管する場合は、ニッケル水素電池を満充電にしてから、本製品から取りはずし、下記の温度範囲で湿気の少ない場所に保管してください。

- ・1ヵ月以内 : -20～+45℃
- ・6ヵ月以内 : -20～+35℃
- ・約1年 : -20～+25℃*

*6ヵ月ごとに充電することをおすすめします。

- 0℃～40℃範囲外の環境で充電しないでください。
- -5℃～+60℃範囲外の環境で使用しないでください。
- 寒い屋外や冷えた状態で充電しないでください。
- 本製品を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。

◎ 付属のニッケル水素電池以外は使用しないでください。

付属のニッケル水素電池以外は動作保証できません。

■ 充電器について(BC-196)

BC-196(バッテリーチャージャー)はIC-R6専用の充電器です。

△ 危険

◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。

- 付属のニッケル水素電池以外を充電しないでください。
- 分解や改造をしないでください。
また、ご自分で修理しないでください。

△ 警告

◎ 下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。
また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。
- 電源ケーブルの上に重い物を載せたり、挟んだりしないでください。
- 電源ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 電源ケーブルに傷がある、またはACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。

安全上のご注意

■ 充電器について

⚠ 警告 (つづき)

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常がある場合は、使用しないでください。
すぐにACコンセントから電源ケーブルを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げ販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

⚠ 注意

- ◎ **下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。**
- 電池を満充電したあとも連続で充電したり、短時間使用後の再充電を繰り返したりしないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 電源ケーブルを抜き差しするときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから充電器(BC-196)を抜いてください。
- 直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。

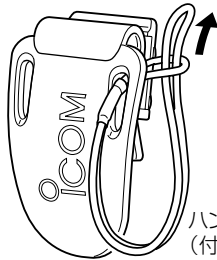
- ◎ **清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。**
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

■ 付属品の取り付けかた

◇ ハンドストラップを取り付ける

受信時や持ち歩くときに手首に通しておくことで、落下を防止します。

ベルトクリップ(付属品)



ハンドストラップ
(付属品)

⚠ 警告

アンテナやハンドストラップを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。

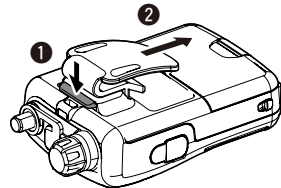
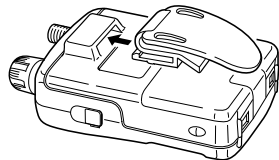
本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。

◇ ベルトクリップを取り付ける

「カチッ」と音がするまで、本体背面の取り付け部にはめ込んでください。

取りはずすときは、レバーを【1】の方向に押し下げ、【2】の方向にスライドさせます。

ベルトクリップ



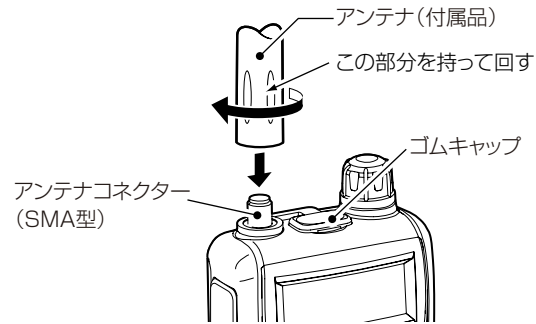
◇ アンテナを取り付ける

取り付けるときは、アンテナ(付属品)の根元を持って時計まわりに手で締まる程度まで回します。

取りはずすときは、アンテナの根元を持って反時計まわりに回します。

※ゴムキャップの上から取り付けてください。

※別売品のAD-92SMAを使用すれば、BNCコネクタの外部アンテナも接続できます。(P109)



【ご参考】

アンテナコネクタは、SMA型を使用しています。付属のアンテナでも十分な受信感度がありますが、低い周波数帯や運用する場所により受信しにくい場合があります。受信したい周波数にあった市販のアンテナをご使用になると受信性能がよくなる場合がありますので、販売店にご相談ください。

本製品は、付属の充電式電池(単3型ニッケル水素電池)、乾電池(単3型アルカリ乾電池)、外部電源が使用できます。

- 付属のバッテリーチャージャー(BC-196)、別売のシガレットライターケーブル(CP-18)、バッテリーチャージャースタンド(BC-194)を使用して、充電しながら受信することもできます。

◇ 電池の運用時間について

- ニッケル水素(単3形)電池は、連続受信で約15時間使用できます。
- アルカリ(単3形)乾電池は、連続受信で約19時間使用できます。

(FMラジオ受信時で、音声出力約50mWで使用した場合)

使用条件やアルカリ乾電池の種類(製造元など)により、使用時間が異なることがありますので、ご注意ください。

※アルカリ乾電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。

◇ 電池の交換時期について

電池の容量が残り少なくなると、電池マークが半分にになります。

さらに容量が少なくなると、表示が消えたり(電源が切れたり)、ディスプレイ全体が点滅、または表示が全体的に薄くなってきます。

このようなとき、ニッケル水素電池の場合は充電してください。また、アルカリ乾電池の場合はすべて同じ種類の新しいアルカリ乾電池と交換してください。



【ご参考】

電池は、気温が低下するほど容量の減少が著しくなります。使用できる温度の下限は、一般的に-10℃とされています。寒冷地でご使用になる場合は、電池を十分に保温しながらご使用ください。

◇ 電池を正しくご使用いただくために

- ◎ 電池の極性(⊕と⊖)に、ご注意ください。
- ◎ 電池を交換するときは、必ず電源を切ってください。
- ◎ ニッケル水素電池、アルカリ乾電池は、同一容量のものを使用してください。
- ◎ 電池の電圧が、本製品の動作範囲以下になると、電源が切れます。
- ◎ 電池端子部にゴミやホコリが付着すると、正常に動作しないことがあります。
各端子は、乾いた布などで定期的にふいてください。
- ◎ 使用しないときは、電池を取りはずして保管してください。
- ◎ ニッケル水素電池は消耗品です。充電と放電を繰り返す回数が多くなってくると運用時間が短くなります。
運用時間が極端に短くなったときや、電源が入らなくなったときは、寿命ですので、新しいニッケル水素電池をご購入ください。ご購入については、販売店またはサポートセンターにお問い合わせください。(※P108)

【お願い】

使用済みの充電式電池は、⊕(プラス)と⊖(マイナス)の端子にテープなどを貼り、絶縁してから、充電式電池のリサイクル協力店にご持参ください。

【ご参考】

接触不良を防ぐために、電池の端子を乾いた布などで定期的に清掃されることをおすすめします。

■ ニッケル水素電池の充電について

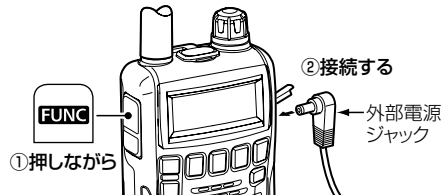
付属のニッケル水素電池は、出荷時の状態では十分な充電がされていません。ご使用の前に必ず充電してください。

充電(充電設定)のしかたは、viページの【充電しよう】を参照してください。

◇ 電池選択画面が表示されないときは

外部電源を接続してもディスプレイに電池選択画面が表示されないときは、以下の操作をしてください。

1. 外部電源をはずし、電池1本を本製品から取りはずします(2秒以上)。
2. 再度電池を入れます。
3. **FUNC**を押しながら外部電源を接続します。
ディスプレイに『NiMH N』が表示され、『N』が点滅します。



4. **[DIAL]**を回して**[NiMH Y]**を選択し、**BAND**を押します。
ディスプレイに『CHG N』が表示され、『N』が点滅します。
5. **[DIAL]**を回して**[CHG Y]**を選択し、**BAND**を押します。
ビープ音(ピピッ)が鳴り、充電を開始します。

※本製品は、約15時間の充電完了後から微量電気の消費を防ぐため、少しずつ充電して常に満充電の状態にする充電方法を初期設定しています。(P92)

この場合は、約15時間の充電完了後から、電池マークと**「CHARGE」**(電源OFF時)、または電池マーク(電源ON時)は表示しません。

※充電機能は、電源の**「ON/OFF」**に関係なく動作します。

※本体から電池をはずすことなく2回目以降の充電をする場合は、充電設定(viiページ)をしなくても充電が開始されます。

※本製品をオールリセット(P106)した場合の充電は、viiページの手順1から操作してください。

※充電中に外部電源(BC-196、CP-18、BC-194)がはずれた場合、約1分以内であれば、再度外部電源を接続すると継続して充電を再開します。

なお、1分以上経過すると充電時間をリセットして、充電を再開します。

※充電中に接続した外部電源(BC-196、CP-18、BC-194)が一時的に電圧低下したときも、約1分以内であれば、継続して充電を再開します。


なお、1分以上経過すると充電時間をリセットして、充電を再開します。

※充電時間は、約15時間ですが、充電温度範囲(0℃~40℃)外になると、電池マーク全体が点滅し、充電が一時停止します。

このような場合は、一時停止した時間だけ充電時間が長くなります。

2 電源について

◇ 充電についてのご注意

- ◎充電する前に、ニッケル水素電池が装着されているか、必ず確認してください。
- ◎アルカリ乾電池使用時は、絶対に充電しないでください。
液もれや発熱により、本製品に重大な破損を与えることがあります。
- ◎CP-18はDC-DCコンバーター(12Vを6Vに変換)を内蔵しているため、常に微電流が流れています。
車のバッテリーあがりを防止するために、使用しないときはシガレットライターソケットからはずしてください。
- ◎大型車など24Vのバッテリーをご使用の場合は、CP-18のほかにDC-DCコンバーター(24Vを12Vに変換)が必要です。
お買い上げの販売店にご相談ください。
- ◎充電する前に、CP-18に供給する電圧が**DC12V～16V**の範囲内であることを確認してから接続してください。
- ◎本製品の運用や充電をしないときは、外部電源(BC-196、CP-18、BC-194)を本製品から取りはずしてください。
- ◎充電が完了した直後に、電源プラグの抜き差しを繰り返すなどして再充電をしないでください。
- ◎充電しても、 (電池残量表示)を3段階で示す充電中の表示が、約1分後に消えるときは、ニッケル水素電池が異常な場合がありますので、取りはずしてお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

- ◎ご家庭のコンセントの電圧(AC100V)が極端に低くなったときは、正常に充電できないことがあります。
- ◎ニッケル水素電池が満充電になったあと、引きつづき充電したり、短時間運用後に再充電したりすることは、みかけ上電池の容量が低下した状態となるだけでなく、過充電になって電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
このようなときは、完全に放電(通常の運用)したあと、再充電してください。

■ バッテリーチャージャースタンド(BC-194)を使う

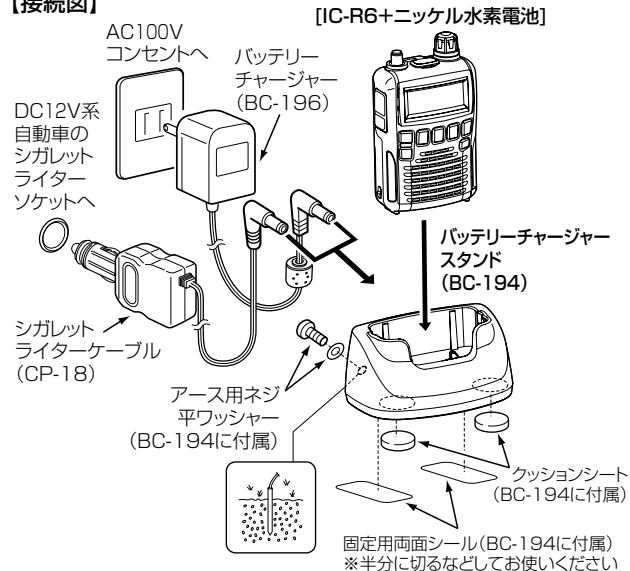
別売品のバッテリーチャージャースタンド(BC-194)を接続し、本製品をBC-194にセットした状態で充電できます。

※充電しながら受信もできます。

1. 右の接続図を参考にして、バッテリーチャージャー(BC-196)をBC-194に接続します。
2. 本製品をBC-194にセットし、【充電をはじめ(充電設定)】(viiページ)にしたがって操作します。

※ セットしても電池選択画面が表示されない場合
 ☞【電池選択画面が表示されないときは】(P9)

【接続図】



※アースを接続すると、電源からのノイズの影響を軽減できる場合があります。

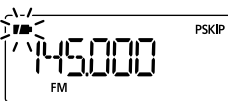

【ご注意】

ガス管や配電管、水道管に絶対アースを取らないでください。
 火災、感電、故障の原因になります。
 アースは市販のアース棒や銅板を使用してください。

2 電源について

■ 外部電源を使用する

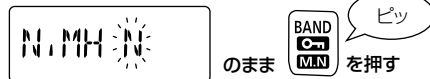
電源ONの状態外部電源ジャックに外部電源(BC-196、またはCP-18)を接続すると、自動的に外部電源に切り替わります。

<p>電池マークが点滅</p>  <p>外部電源を使用しながら充電しています。</p>	<p>下記の場合に電池マークが点滅します。</p> <ul style="list-style-type: none">・ニッケル水素電池を装着し、充電設定している
<p>電池マークが消灯</p>  <p>外部電源を使用しています。(充電はしていません)</p>	<p>下記の場合に電池マークが消灯します。</p> <ul style="list-style-type: none">・電池を装着していない・アルカリ乾電池を装着している・ニッケル水素電池を装着し、充電設定をしていない・装着したニッケル水素電池の電池残量が、大幅に減っている

- ニッケル水素電池を装着して受信しながら充電したい場合は、【充電をはじめ(充電設定)】(vii ページ)の手順にしたがって充電設定をしてください。

● 充電設定をすると、電池の種類に関係なく充電されます。アルカリ乾電池が装着されている場合は、ただちに外部電源をはずし、下記の手順でアルカリ乾電池を充電しないように設定してください。

- ① 電池を本製品から取りはずし(2秒以上)、充電設定をリセットします。
- ② 再度電池を入れて電源をONにし、外部電源(BC-196、またはCP-18)を接続します。
ディスプレイに電池選択画面『NiMH N』が表示され、『N』が点滅します。
- ③ 『NiMH N』表示のまま **BAND** を押します。
外部電源の使用に切り替わります。



- ※ 電源がOFFの状態、外部電源(BC-196、またはCP-18)を接続して『NiMH N』が表示された場合も、『NiMH N』を選択して **BAND** を押してください。(『NiMH N』表示が消灯します。)
次回電源をONにしたときに、外部電源で使用できます。

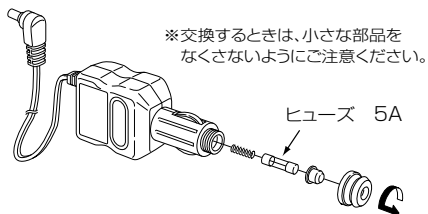
△危険

アルカリ乾電池装着時は、絶対に充電しないでください。
液もれや発熱により、本製品に重大な破損を与えることがあります。

■ シガレットライターソケット(CP-18)について

別売品のシガレットライターソケット(CP-18)には、5Aのヒューズが内蔵されています。

ヒューズが切れたときは、原因を取り除いてから、同じ容量の新しいヒューズと交換してください。

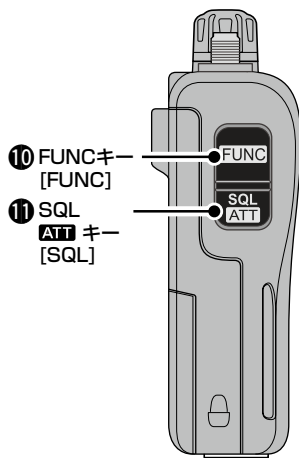


3

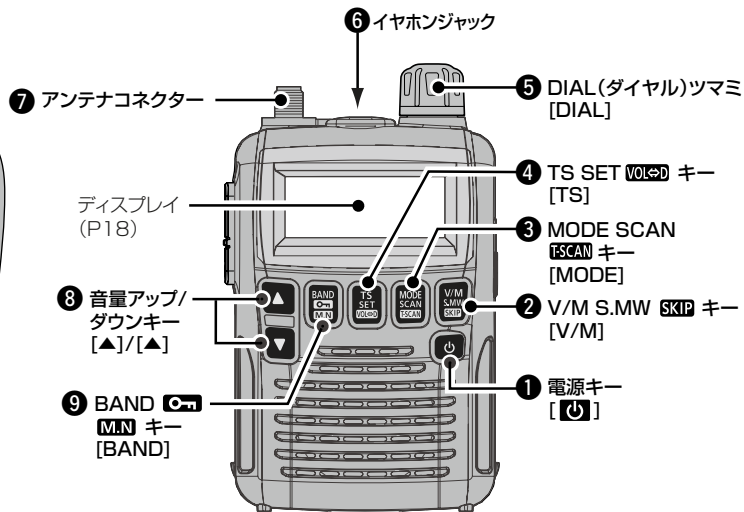
各部の名称と機能

■ 正面/側面パネル

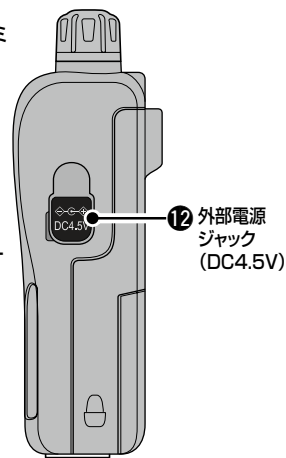
【左側面】



【正面】



【右側面】



◇ ボタンの基本操作



上段の操作をするときは「短押し」します。

中段の操作をするときは「長押し」します。

※解除や確定の操作で「短押し」する場合もあります。

※⑨ は [FUNC] を押しながら長押しします。

下段の操作をするときは ⑩ [FUNC] を押しながら「短押し」します。

① 電源キー [ON/OFF]

長く(約1秒)押すごとに電源を「ON/OFF」します。

② V/M S.MW SKIP キー [V/M]



V/M

短く押すとVFOモードとメモリーモードが切り替わります。(P20)

※V/M: VFO/Memory

S.MW

- 「ピッ、ピー」と鳴るまで長押しすると、セレクトメモリーライト状態になります。
- 「ピッ、ピー ピピ」と鳴るまで長押しすると、登録されているメモリーを上書きします。

※S.MW: Select Memory Write

SKIP

- [FUNC]を押しながら[SKIP]を短く押すと、
- VFOモード時: PSKIP(周波数スキップ)の「ON/OFF」が切り替わります。(P63)
 - メモリーモード時: SKIP(メモリスキップ)/PSKIP(周波数スキップ)/OFF(スキップ指定なし)の指定が切り替わります。(P70)

③ MODE SCAN T-SCAN キー [MODE]



MODE

短く押すと受信モード(AM/FM/WFM)が切り替わります。(P22)

SCAN

長押しすると、各種スキャンの選択画面になります。(P57、P66)

T-SCAN

[FUNC]を押しながら[T-SCAN]を短く押すと、トーンスキャンが開始されます。(P99)

※T-SCAN: Tone-Scan

④ TS SET VOL⇔D キー [TS]



TS

短く押すとチューニングステップ(TS)の設定画面になります。(P24)

※TS: Tuning Step

SET

長押しすると、SETモードになります。(P80)

VOL⇔D

[FUNC]を押しながら[VOL⇔D]を短く押すと、[DIAL]と[▲]/[▼]に割り当てている機能が入れ替わります。(P31)

※VOL⇔D: VOLUME⇔DIAL

⑤ DIAL(ダイヤル)ツマミ [DIAL]



- VFOモード時: 設定している周波数ステップで、周波数を設定します。(P22)
- メモリーモード時: メモリーチャンネルを呼び出します。(P34)
- スキャン中に回すと、スキャンの方向が変わります。(P56)

※[DIAL]と[▲]/[▼]に割り当てている機能を入れ替えている場合は、音量を調整します。(P31)

⑥ イヤホンジャック

別売品のイヤホンを接続します。(P109)

本製品をクローニングするときは、クローニングケーブルを接続します。(P101)

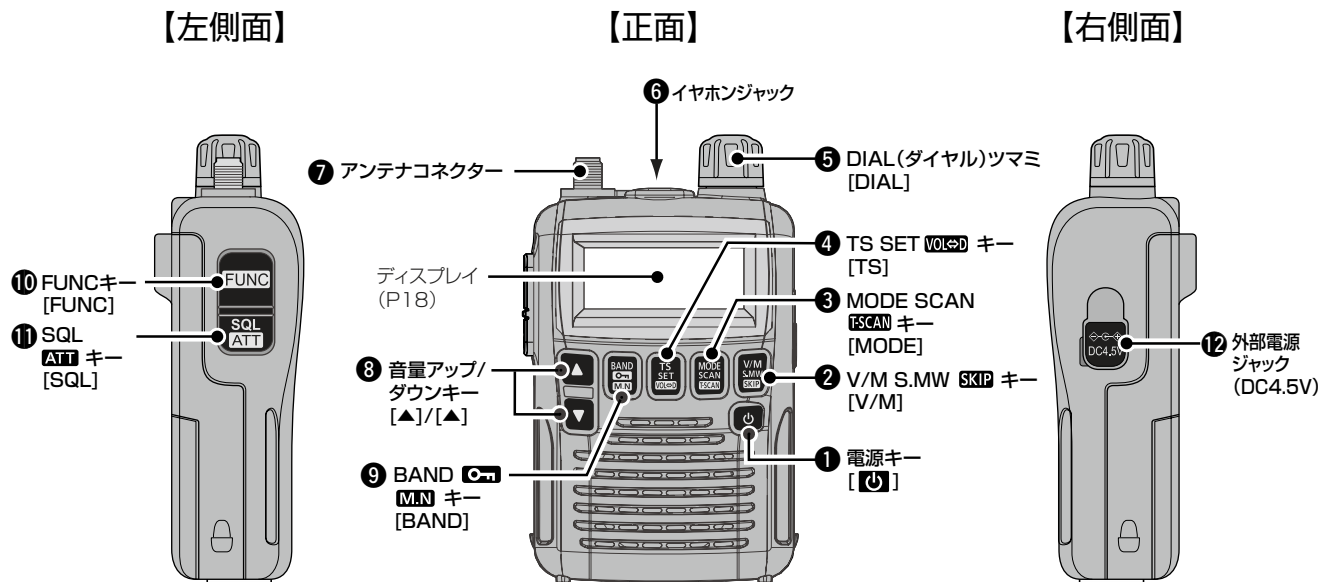
⑦ アンテナコネクター

付属品のアンテナを接続します。(P7)

※別売品のAD-92SMAを使用して、BNCコネクターの外部アンテナを接続できます。(P109)

3 各部の名称と機能

■ 正面/側面パネル(つづき)



◇ ボタンの基本操作



上段の操作をするときは「短押し」します。

中段の操作をするときは「長押し」します。

※解除や確定の操作で「短押し」する場合があります。

※ 9 は [FUNC] を押しながらか押しします。

下段の操作をするときは 10 [FUNC] を押しながらか「短押し」します。

⑧ 音量アップ/ダウンキー[▲]/[▼]



音量をアップ[▲]またはダウン[▼]します。(☞P23)

※[DIAL]と[▲]/[▼]に割り当てている機能を入れ替えている場合は、周波数を変えたり、メモリーチャンネルを変えたりします。(☞P31)

⑨ BAND  M.N キー[BAND]**BAND**

短く押すと、

- VFOモード時：受信バンドが切り替わります。(☞P21)
- メモリーモード時：メモリーチャンネル表示/バンクチャンネル表示/オートメモリーライト表示が切り替わります。(☞P35)



[FUNC]を押しながら長押しすると、ロック機能の設定/解除が切り替わります。(☞P29)

M.N

メモリーモード時：[FUNC]を押しながら[M.N]を短く押すと、ネーム表示が切り替わります。(☞P36、P49)
※M.N：Memory Name

⑩ FUNCキー[FUNC]

**FUNC**

[FUNC]を押しながら **SKIP**、**FSCAN**、**VOL**、**D**、**M.N**、**ATT** を短く押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能が動作します。(各キー参照)

[FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、

- VFOモード時：設定している周波数ステップで周波数が変わります。(☞P25)
- メモリーモード時：10CHステップで呼び出すメモリーチャンネルが変わります。(☞P34)
- SETモード時：SETモードの設定内容を選択します。(☞P80)

⑪ SQL **ATT** キー[SQL]**SQL**

押しているあいだ、スケルチを開いて受信します。(モニター機能)(☞P26)

※SQL：SQUELCH

ATT

[FUNC]を押しながら[ATT]を短く押すと、アッテネーター機能の設定/解除が切り替わります。(☞P31)

※ATT：ATTENUATOR

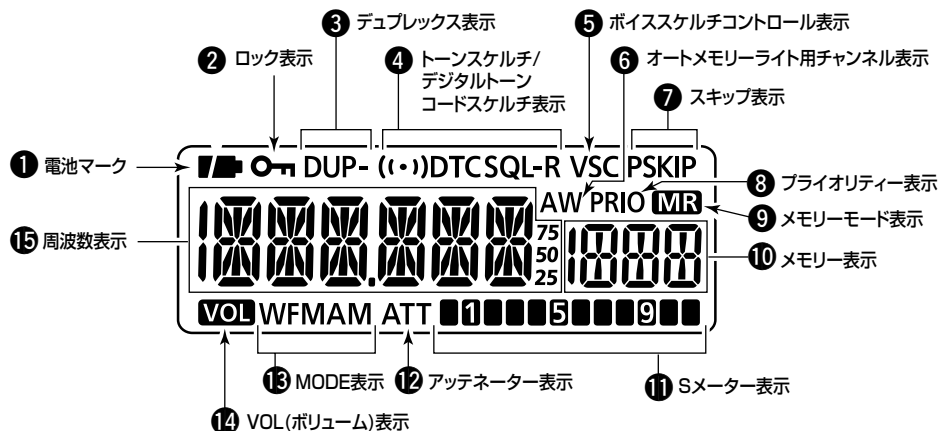
⑫ 外部電源ジャック(DC4.5V)

バッテリーチャージャー(BC-196)またはシガレットライターケーブル(CP-18)を接続します。(☞viiページ)

※外部電源の使用、およびニッケル水素電池の充電に使用します。

3 各部の名称と機能

■ ディスプレイ



◇ 周波数表示/メモリー表示に表示される文字一覧

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
[A]	[B]	[C]	[D]	[E]	[F]	[G]	[H]	[I]	[J]	[K]	[L]	[M]
N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z
[N]	[O]	[P]	[Q]	[R]	[S]	[T]	[U]	[V]	[W]	[X]	[Y]	[Z]
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]			
()	*	+	-	.	/		=	_			
[([)]	[*]	[+]	[-]	[.]	[/]	[]	[=]	[_]	[スペース]		

① 電池マーク

電池の残量が表示されます。

- 残量が少なくなると電池マークが半分になります。
- 充電中は、電池マークが3段階に変化します。
(☞viiiページ)

② ロック表示

ロック機能を設定しているときに表示されます。(☞P29)

③ デュプレックス表示

デュプレックスモード(DUP-/DUP)を設定しているとき表示されます。(☞P95)

④ トーンスケルチ/デジタルトーンコードスケルチ表示

各種トーンスケルチ受信モードを設定しているときに表示されます。(☞P27、P96)

- ((・))T SQL : ポケットビープ機能が有効なトーンスケルチ受信モード
- T SQL : トーンスケルチ受信モード
- ((・))DTCS : ポケットビープ機能が有効なDTCS受信モード
- DTCS : DTCS受信モード
- T SQL-R : 逆トーンスケルチ受信モード
- DTCS-R : 逆DTCS受信モード
- SQL : 空線キャンセラー機能、MSK機能

⑤ ボイススケルチコントロール表示

ボイススケルチコントロール(VSC)機能を設定しているときに表示されます。(☞P100)

⑥ オートメモリーライト用チャンネル表示

オートメモリーライト用チャンネルを選択すると表示されます。(☞P64)

⑦ スキップ表示

スキップ機能を設定しているときに表示されます。(☞P63、P70)

- SKIP : メモリースキップ
- PSKIP : プログラムスキップ

⑧ プライオリティー表示

プライオリティースキャンの動作中に表示されます。(☞P71)

⑨ メモリーモード表示

メモリーモードで操作しているときに表示されます。(☞P20)
メモリー内容进行操作しているときは点滅します。

⑩ メモリー表示

メモリーチャンネル番号、バンク番号、SETモードの項目などが表示されます。(☞P33、P80)

⑪ Sメーター表示

受信した音声信号の強さが表示されます。(☞P22)

⑫ アッテネーター表示

アッテネーター(ATT)機能を設定しているときに表示されず。(☞P31)

⑬ MODE表示

受信モード(AM/FM/WFM)が表示されます。(☞P22)

⑭ VOL(ボリューム)表示

[▲]/[▼] (音量調整)と[DIAL] (周波数調整)に割り当てている機能を入れ替えたときに表示されます。(☞P31)
点灯時は、[▲]/[▼]が周波数調整、[DIAL]が音量調整として動作します。

⑮ 周波数表示

受信周波数、メモリーネーム、バンクネームなどが表示されます。(☞P22、P49)

SETモード時は、設定項目と設定内容が表示されます。(☞P80)

4 基本操作について

■ VFOモードとメモリーモードについて

本製品にはVFOモードとメモリーモードの2種類の動作モードがあり、**[V/M]**で切り替えて使用します。

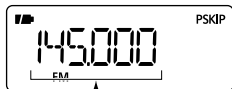
◇ VFOモードとは

[DIAL]で周波数を設定するモードです。

※VFO: Variable-Frequency Oscillator

1. **[V/M]**を短く押してVFOモードにします。
周波数が表示されます。
2. **[DIAL]**を回すと、周波数が変わります。(☞P22)

VFOモード表示

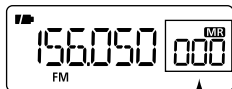


周波数が表示されます



[V/M S.MW SKIP]を押すごとに切り替わる

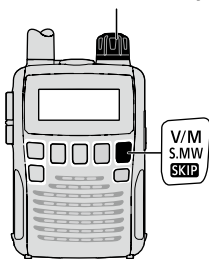
メモリーモード表示



[MR]表示とメモリーチャンネル番号が点灯します

[DIAL]

- VFOモード時:
周波数が変わる
- メモリーモード時:
メモリーチャンネルを呼び出す



◇ メモリーモードとは

プリセットされている周波数や、お気に入りの周波数を登録したメモリーチャンネルを呼び出して受信するモードです。

☞【メモリーを使う】(P32)

1. **[V/M]**を短く押してメモリーモードにします。
「**[MR]**」表示とメモリーチャンネル番号が点灯します。
2. **[DIAL]**を回すと、登録しているメモリーチャンネルが呼び出されます。
 - メモリーモードで**[BAND]**を短く押すごとに、「メモリーチャンネル表示」→「バンク表示」→「オートメモリーライト用チャンネル表示」と表示が切り替わります。
☞【メモリーチャンネルの切り替えについて】(P35)

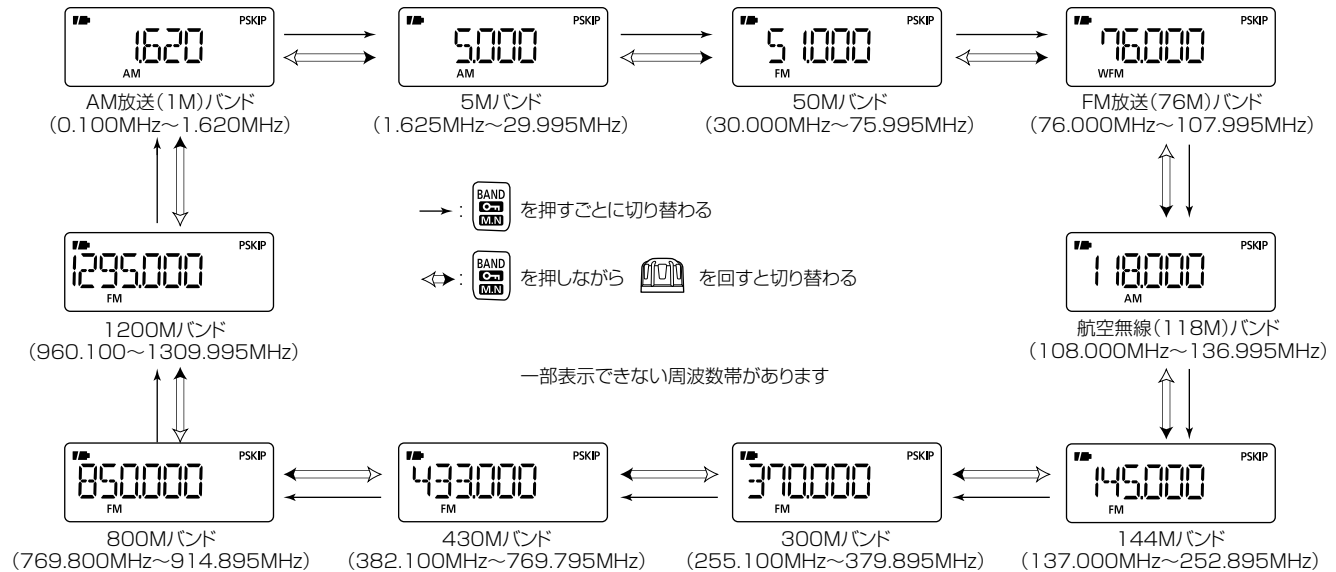
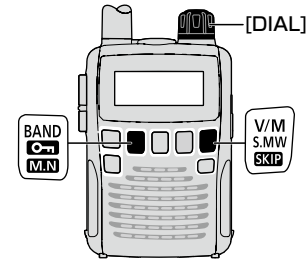
■ 受信バンド(周波数帯)について

使用周波数の範囲のことを「BAND (バンド)」と呼び、「鉄道無線」「航空無線」「放送」「アマチュア無線」などがあります。

受信バンドごとの周波数範囲と初期設定周波数は、下図のとおりです。

◇ 受信バンドを選ぶ

1. **[V/M]** を短く押して、VFOモードにします。
2. **[BAND]** を短く数回押して、受信バンドを選択します。
 - **[BAND]** を押しながら **[DIAL]** を回しても選択できます。



4 基本操作について

■ 受信モード(電波型式)を設定する

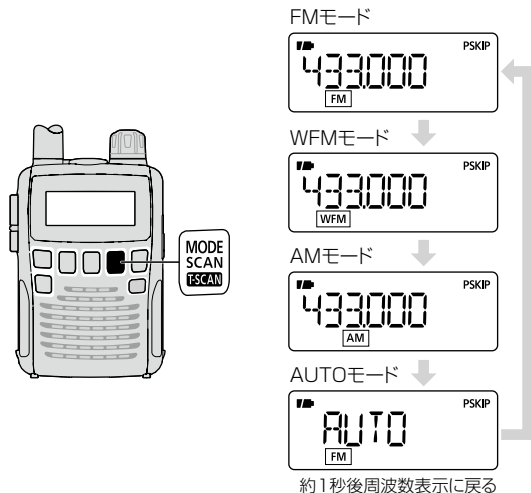
受信バンドごとに、受信モード(電波型式)を切り替えられます。本製品はFM、WFM、AMモードで幅広い周波数を受信できます。

[MODE] を短く押すごとに、**[FM]**→**[WFM]**→**[AM]**→**[AUTO]**→**[FM]**と受信モードが切り替わります。

● 受信モード(電波型式)は初期設定で『**AUTO**』に設定されています。『**AUTO**』選択時は、受信バンドに適した受信モードが自動で選択されます。

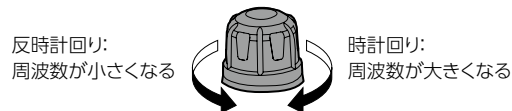
※周波数が正しくても、受信モードが間違っていると正しく音声が出ませんのでご注意ください。

※設定した受信モードは、受信中のバンドだけに有効です。

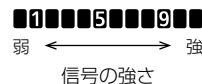


■ 受信する周波数を設定する

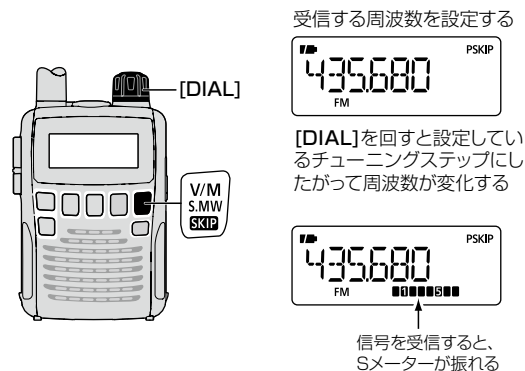
1. **[V/M]** を短く押して、VFOモードにします。
2. **[DIAL]** を回して、受信する周波数を設定します。



受信すると、信号の強さに応じてSメーターが振れます。



- 周波数を大きく変えるときは、**[FUNC]** を押しながら **[DIAL]** を回します。(※P25)
- **[DIAL]** を速く回すと、周波数の変化がスピードアップします。(※P85)



■ 音量を調整する

▲/▼を押して、40段階で音量を調整します。
(ディスプレイが音量レベル表示になります。)

- 押しつづけると、連続動作になります。
- ▲/▼を押しながら [DIAL] を回しても調整できます。
- 押すごとにビーブ音(ピッ)が鳴り、音量の目安になります。



◇ ビーブ音について

キーが正しく操作されたかどうかを、下記のようにビーブ音(操作音)で知らせます。

● ビーブ音の種類

- 「ピッ」 : 短く押すキー操作が正しいとき
- 「ピッ、ピー」: 長く押すキー操作が正しいとき
- 「ブツ」 : キー操作が誤りのとき
- 「ピッ ピピ」: メモリー書き込み操作が正しいとき

※ビーブ音の「ON/OFF」と、ビーブ音の音量レベルは変更できます。

- ☞ 【ビーブ音(操作音)の設定】(P82)、
- 【ビーブ音(操作音)レベルの設定】(P83)

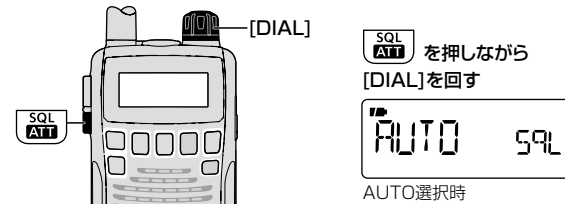
■ スケルチレベルを調整する

スケルチとは、一定レベル以上の信号を受信したときだけ音声を出す機能です。

受信信号がないときに耳障りな雑音(ザー)を遮断して、待ち受けをやすくします。

1. **SQL** を押しながら [DIAL] を回して、受信信号がない状態で雑音(ザー)が消えるように、スケルチレベルを調整します。

- スケルチレベル
OPEN(開放)*、AUTO(自動)、LEVEL 1 ~ LEVEL 9
*OPEN(開放): スケルチの設定を無効(開く)にして、信号を受信します。
- スケルチレベルの数値が小さいほど、弱い信号でも受信できます。
※通常は、AUTOに設定し、信号の状態によって、LEVEL 1 から順次レベルを上げて調整します。
AUTOはLEVEL 1 より弱い信号でも受信できます。
- 設定しているスケルチレベルを確認するには、**SQL** を押しながら [DIAL] を時計回りに1クリック回します。(初期設定: AUTO)
- **SQL** を短く押すごとに、「スケルチを開く/閉じる」が切り替わるように設定できます。(☞P26)



4 基本操作について

■ 各種機能の設定を変える(応用)

各種機能の初期設定を、お好みの設定に変更できます。

◇ 周波数を小刻みに変える

[DIAL]で周波数を設定するときに、変化する周波数の間隔(チューニングステップ(TS))を変更します。

1. [TS]を短く押します。

チューニングステップ設定画面が表示されます。

2. [DIAL]を回して、チューニングステップを選択します。

● 選択できるステップ

5.0/6.25/8.33*¹/9.0*²/10.0/12.5/15.0/
20.0/25.0/30.0/50.0/100.0/125.0/
200.0kHz/AUTO*³(初期設定)

*1：航空無線(118M)バンドのみ選択できます。

*2：AM放送(1M)バンドのみ選択できます。

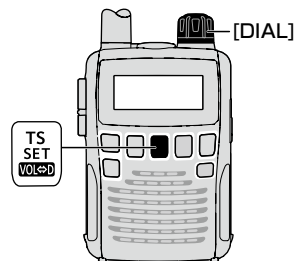
*3：受信バンド(周波数帯)によってチューニングステップを自動で設定します。

● FM補完放送を受信したいときは、周波数を76.0MHz～89.9MHzに設定した状態で「100.0」を選択してください。

3. [TS]を短く押します。

選択したチューニングステップが有効になります。

チューニングステップを変える



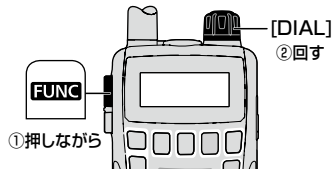
1. [TS SET VOL]を短く押す
↓
[DIAL]を回して
チューニングステップを
2. 選択する
AUTO TS
↓
AUTO選択時(初期設定)
↓
3. [TS SET VOL]を短く押す

◇ 周波数を大きく変える

周波数を大幅に変えるときに便利な機能です。

1. VFOモードで **[FUNC]** を押しながら、**[DIAL]** を回します。

1MHzステップ(初期設定値)で周波数が変わります。



〈ダイヤルセレクトの設定〉

上記の手順で周波数を大幅に変えるときに変化する周波数の間隔を、SETモードの『D SEL』(ダイヤルセレクトの設定)で変更します。

1. **[SET]** **[TS]** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。2. **[DIAL]** を回して、『D SEL』(ダイヤルセレクトの設定)を選択します。3. **[FUNC]** を押しながら **[DIAL]** を回して、周波数ステップを選択します。

- 100k : 周波数ステップが100kHzになります。
- 1M : 周波数ステップが1MHzになります。(初期設定)
- 10M : 周波数ステップが10MHzになります。

4. **[SET]** **[TS]** を短く押します。

選択した周波数ステップが有効になります。

ダイヤルセレクトを設定する

1. **[TS SET VOL②D]** を長く押す

ピッ、ピー

を長く押す

[DIAL] を回して

2. 『D SEL』を選択する

10M 15

[FUNC] を押しながら

[DIAL] を回して

3. 周波数ステップを選択する

10M 15 (例)

↓

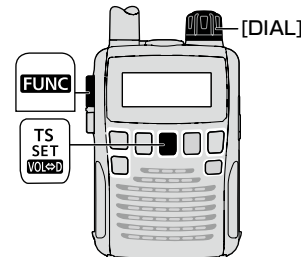
TS SET VOL②D を短く押す

4. 『D SEL』を選択する

149.450 PSKIP

FM

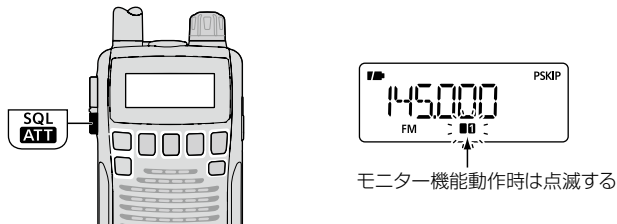
SETモードを解除



4 基本操作について

◇ モニター機能を使う

モニターとは、**[SQL]**を押しているあいだスケルチの設定を無効にして(スケルチを開いて)、音声を受信する機能です。受信信号が弱く、スケルチが開いたり閉じたりして聞こえにくい場合に使用します。



● モニターホールド機能の設定を変更する

モニターホールド機能を設定すると、**[SQL]**を短く押すごとに「スケルチを開く/スケルチを閉じる」が切り替わります。

1. **[SET]** **[TS]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、SETモードにします。
設定項目が表示されます。
2. **[DIAL]**を回して、**[EXPAND]**(機能拡張の設定)を選択します。
3. **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、**[ON]**を選択します。
4. **[DIAL]**を回して、**[MONI]**(モニターホールド機能の設定)を選択します。

5. **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、**[HOLD]**を選択します。

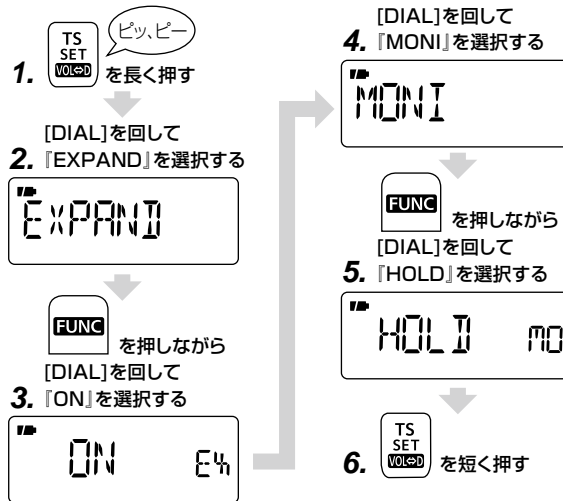
● **HOLD** : モニターホールド機能を設定します。
押すごとに「スケルチを開く/閉じる」が切り替わります。

PUSH : 押しているあいだだけスケルチを開きます。
(初期設定)

6. **[SET]** **[TS]**を短く押します。

モニターホールド機能が有効になります。

モニターホールド機能を設定する



◇ キャンセラー機能を設定する

● TRAIN (空線キャンセラー)機能

鉄道無線で通話していないときに聞こえる空線信号音(「ピー」や「キャラキャラ」)を検出(受信)できます。

空線信号を検出しても TRAIN1 または TRAIN2 を設定することで空線信号の音を出さないようにできます。

● TRAIN1

単一周波数の空線信号(ピー) (☞P90)を検出します。

● TRAIN2

1500HzのシングルトーンとMSK制御信号が交互に切り替わる信号(キャラキャラ)を検出します。

TRAIN2を設定したときに検出する空線信号の周波数は、固定されています。

● MSKキャンセラー機能

MCA無線で聞こえるMSK制御信号(伝送速度1200bps)を検出できます。

- MSKキャンセラー機能を設定したときはMSK制御信号をキャンセルします。

【ご参考】

スキャン中に空線信号/MSK制御信号を検出すると、[PAUSE] (スキャン一時停止タイマーの設定) (☞P86) の設定に関わらず、スキャンを再スタートします。

【ご注意】

◎空線キャンセラー機能/MSKキャンセラー機能は受信信号が弱いときや、ノイズが多いときなどは正しく動作しないことがあります。

◎空線キャンセラー機能/MSKキャンセラー機能はすべての空線信号またはMSK信号を検出するものではありません。周波数がずれた場合などは検出できないこともあります。

◎登録されているメモリーチャンネルにキャンセラー機能を設定する場合は、【各機能をメモリーチャンネル、メモリーバンクに書き込む】(P53)を参照してください。

〈TRAIN1空線キャンセラー機能を設定する〉

1. **[SET]** [TS]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押してSETモードにし、**[DIAL]**を回して**[EXPAND]**(機能拡張の設定)を選択します。
2. **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、**[ON]**を選択します。
3. **[DIAL]**を回して、**[CANCEL]**(空線キャンセラー機能の設定)を選択します。

※ 操作開始時に受信モードが『AM』または『WFM』になっていると**[CANCEL]**が選択できません。その場合は**[SET]**を短く押してセットモードを解除し、受信モードで『FM』を選択(☞P22)してから操作しなおしてください。

4. **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、**[TRAIN1]**を選択します。
5. **[DIAL]**を回して、**[TFRQ]**(空線信号周波数の設定)を選択します。

空線信号の周波数(初期設定値:2280Hz)を表示します。

4 基本操作について

6. **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、空線信号の周波数を設定します。

- 設定範囲：300Hz～3000Hz(10Hzステップ)
- TRAIN1空線信号の周波数は、メモリーチャンネルごとに指定できます。

7. **[SET]** **[TS]**を短く押します。

空線キャンセラー機能が有効になります。

【ご参考】

空線信号の周波数(2280Hz)を±50Hzほど可変することにより、空線キャンセラー機能の効果が向上することがあります。

〈TRAIN2/MSK空線キャンセラー機能を設定する〉

1. **[SET]** **[TS]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押してSETモードにし、**[DIAL]**を回して**[EXPAND]**(機能拡張の設定)を選択します。

2. **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、**[ON]**を選択します。

3. **[DIAL]**を回して、**[CANCEL]**(空線キャンセラー機能の設定)を選択します。

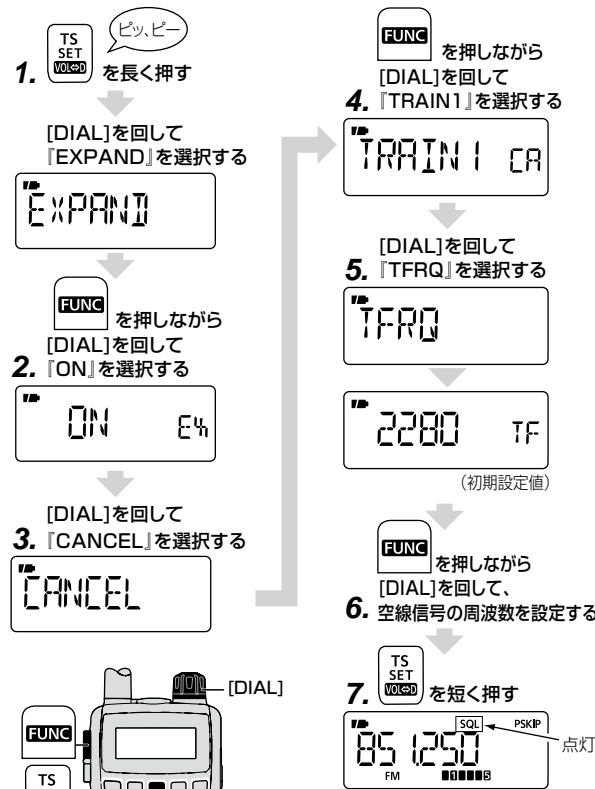
※ 操作開始時に受信モードが**[AM]**または**[WFM]**になっていると**[CANCEL]**が選択できません。その場合は**[SET]**を短く押してセットモードを解除し、受信モードで**[FM]**を選択(※P22)してから操作しなおしてください。

4. **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、**[TRAIN2]**、または**[MSK]**を選択します。

5. **[SET]** **[TS]**を短く押します。

手順4で選択した機能が有効になります。

TRAIN1空線キャンセラー機能を設定する

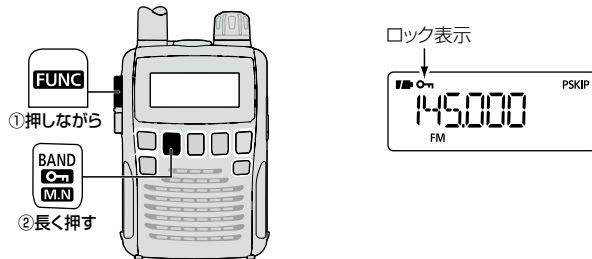


◇ ロック機能を使う

不用意に[DIAL]やキーに触れても、周波数や受信状態が変わらないようにする機能です。

FUNC を押しながら **LOCK** **BAND** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押しすと、ロック機能が設定されます。

- ロック機能設定時は、「**LOCK**」(ロック表示)が点灯します。
 - ロック機能を解除するときも、同じ操作をします。
 - ロック機能を設定しても、**ON**、**FUNC** + **LOCK**、**▲** / **▼** *、**SQL** *、スケルチレベルの調整* (**SQL** + **DIAL**) は操作できます。
- * SETモードの『**LOCK**』(キーロック機能の設定)で、『**ロックする/しない**』を変更できます。(P84)



◇ アンテナを切り替える

本機にはバーアンテナが内蔵されており、受信バンドや電波状況によって切り替えられます。(初期設定: 外部アンテナ)

● 内蔵バーアンテナについて

AM放送(1M)バンドで、AMラジオ放送の周波数帯(0.495MHz～1.620MHz)を受信するときは、内蔵のバーアンテナを使用できます。

アンテナコネクタにアンテナを接続しなくてもAMラジオ放送をお楽しみいただけます。

● イヤホンアンテナについて

接続するイヤホンのケーブルがアンテナとして動作します。イヤホンアンテナは、AM放送(1M)バンドのAMラジオ放送の周波数帯(0.495MHz～1.620MHz)以外の周波数帯でご使用いただけますが、アンテナの特性上、FMラジオ放送の周波数帯(76.000MHz～107.995MHz)などの強い電波を受信するときに、より効果があります。

※イヤホンアンテナに切り替えた場合でも、外部アンテナで受信できます。

【ご参考】

※ イヤホンアンテナまたは内蔵のバーアンテナを使用すると、ノイズを受けたり、スプリアスを受信したりすることがあります。

この場合は、付属のアンテナ、または市販の外部アンテナを使用することをおすすめします。

※ AMラジオ放送またはFMラジオ放送以外を受信するときは、付属のアンテナ、または市販の外部アンテナの使用をおすすめします。

※ バーアンテナを使用するときは、よく聞こえる方向に向けてください。

4 基本操作について

1. VFOモードで **[BAND]** を短く数回押し、アンテナを切り替
えたいバンドを選択します。(☞P21)

※ AM放送(1M)バンドを選択したときは、受信モードが「AM」になっていることを確認してください。(☞P22)

2. **[SET]** **[TS]** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、SET
モードにし、**[DIAL]** を回して**[ANT]**(アンテナ切り替え
の設定)を選択します。

3. **[FUNC]** を押しながら **[DIAL]** を回して、アンテナを選択
します。

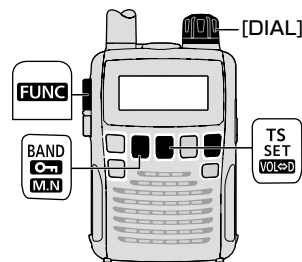
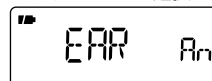
- AMラジオ放送の周波数帯(0.495MHz～1.620MHz)
： **[EXT]**(外部アンテナ) / **[BAR]**(バーアンテナ)
- AMラジオ放送の周波数帯以外の周波数
： **[EXT]**(外部アンテナ) / **[EAR]**(イヤホンアンテナ)

4. **[SET]** **[TS]** を短く押します。
手順3で選択したアンテナに切り替わります。

AMラジオ放送の周波数帯
を設定時
バーアンテナ選択



AMラジオ放送の周波数帯
以外の周波数を設定時
イヤホンアンテナ選択



アンテナを切り替える

VFOモードで



を短く数回押しして

1. 受信バンドを選択する



「ピッ、ピー」

2. を長く押す

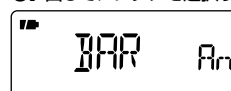
[DIAL] を回して
「ANT」を選択する



[FUNC]

を押しながら**[DIAL]**を

3. 回してアンテナを選択する



(例)



を短く押す

- 4.

◇ アッテネーター機能を使う

アッテネーター(減衰器)は、強い信号を受信したときに信号強度を減衰させて受信音のひずみを低減します。また、高性能なアンテナ(市販品)を使用した場合に、強い信号からの妨害を抑える効果もあります。

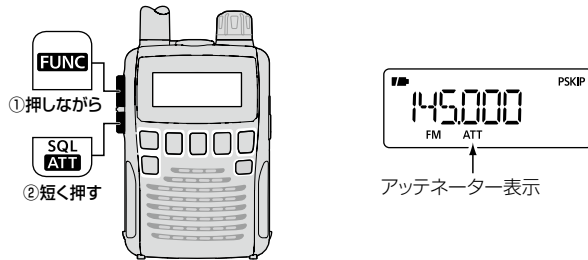
アッテネーターの減衰量は約10dBです。

[FUNC] を押しながら **[ATT]** **[SQL]** を短く押すごとに、アッテネーター(ATT)機能がON/OFFします。

- 『ON』時は、「ATT」表示が点灯します。

※ バアンテナで受信しているときは、「ATT」表示が点灯しても動作しません。(☞P29)

※ メモリーチャンネルおよび受信バンドごとにも設定できます。(☞P33)



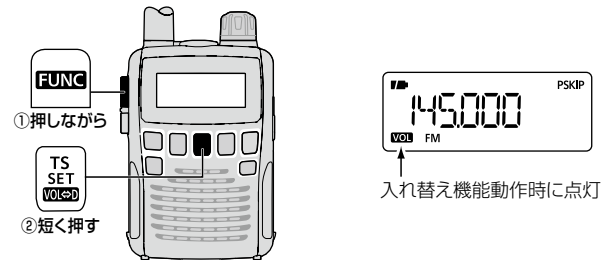
◇ [DIAL]と[▲]/[▼]に割り当てている機能を入れ替える

[DIAL] (周波数やメモリーチャンネルなどの設定)と、**[▲]**/**[▼]** (音量調整)に割り当てている機能を入れ替えます。

[FUNC] を押しながら **[VOL⇄]** **[TS]** を短く押すごとに入れ替わります。

※ **[DIAL]**の操作を音量設定に入れ替えると、「VOL」表示が点灯します。

	通常の動作	入れ替え時の動作
[DIAL]	<ul style="list-style-type: none"> •周波数の設定 •スキャン方向の切り替え •メモリーの設定 •スケルチの設定 •SETモードの項目と内容の設定 	<ul style="list-style-type: none"> •音量の設定
[▲]/[▼]	<ul style="list-style-type: none"> •音量の設定 	<ul style="list-style-type: none"> •周波数の設定 •スキャン方向の切り替え •メモリーの設定 •スケルチの設定 •SETモードの項目と内容の設定



5

メモリーを使う

航空無線や鉄道無線など、よく使用する周波数や情報は、メモリーチャンネルに登録(プリセット)されています。お気に入りの周波数をご自分で登録することもできます。

また、メモリーチャンネルの内容をジャンル別に整理して登録できるメモリーバンクを搭載しています。メモリーバンクを利用して効率よくメモリーの管理・呼び出しができます。(☞P44)

※イラスト中は下記のように略記します。

- メモリーチャンネル：M-CH
- プログラムスキャン用チャンネル：PROGRAM-CH

この章でできること

- **メモリーモードの基本操作** 34
メモリーチャンネルの切り替えについて
- **ネームで呼び出す** 36
- **メモリーチャンネルに登録する** 37
メモリーチャンネルの自動繰り上げ登録機能を使う/
メモリー内容をVFOモードに転送する/
メモリー内容をほかのメモリーチャンネル番号にコピーする
- **プログラムスキャン用チャンネルに登録する** 40
設定を書き換える
- **メモリーを消去する** 43

【ご注意】

オールリセットすると、プリセットされている周波数や情報がすべて消去されますので、ご注意ください。

☞【リセットするには】(P106)

【ご注意】

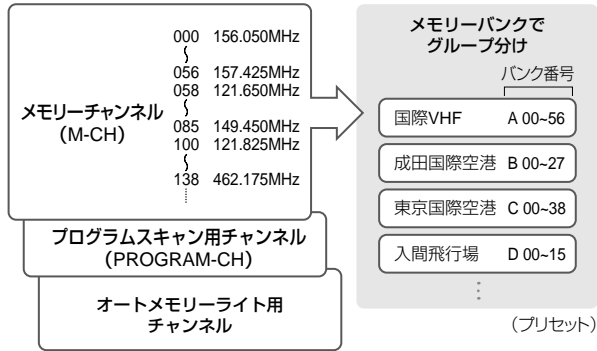
メモリーの内容は、静電気や電氣的雑音などで消失することがあります。

また、故障や修理の際にも消失する場合があります。

メモリーの内容を紙などに控えておくか、CS-R6(クロージングソフトウェア)を使用して、パソコンに保存することをおすすめします。

- **メモリーバンクを使う** 44
VFOモードで選択した周波数をバンクに登録する/
メモリーチャンネルをバンクに登録する/
メモリーチャンネルをバンクから削除する
- **ネームを使う** 49
メモリーネーム、バンクネーム表示にする/
メモリーネーム、バンクネーム、スキャンネームを入力する/
チャンネル表示を切り替える
- **各機能をメモリーチャンネル、メモリーバンクに書き込む** 53

■メモリーの種類



- ・DTCSコードの位相反転機能
- ・AFフィルター
- ・チューニングステップ(TS)
- ・空線キャンセラー機能の設定
- ・受信モード(電波型式)
- ・アッテネーター(ATT)の設定
- ・ボイススケルチコントロール(VSC)
- ・空線信号周波数の設定

◇バンクチャンネル A00~Y99(各バンク100CH)

- ・登録したメモリーチャンネルをグループ分けします。
- ・よく使う周波数や情報(国際VHF、空港など)がプリセットされています。(別紙プリセットガイド参照)



※バンクは「Y」までありますが、未登録のバンクとチャンネルは表示されません。また、「S、V、X」はバンクがありません。

※バンクN、O、Q、R、Yは小文字(n、o、q、r、y)で表示されます。

◇メモリーチャンネル 000~1299(1300CH)

- ・よく使う周波数や情報を登録して使用します。
- ・航空無線、鉄道無線などがプリセットされています。(別紙プリセットガイド参照)



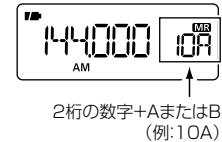
メモリーチャンネルに記憶できる内容

メモリーチャンネルは、受信周波数のほかに、下記の内容を記憶します。

- | | |
|------------------------------|-----------------------------------|
| ・デュプレックスのON/OFF | ・メモリーバンク |
| ・シフト方向(+/-) | ・メモリーネーム |
| ・オフセット周波数 | ・スキップチャンネル |
| ・トーンスケルチのトーン周波数と受信モードのON/OFF | ・DTCSコードスケルチのDTCSコードと受信モードのON/OFF |

◇プログラムスキャン用チャンネル 00A/00B~24A/24B(50CH)

- ・プログラムスキャンの周波数設定用として使用します。
- ・おもな周波数範囲(VHF帯HAMバンド、ラジオなど)がプリセットされています。(別紙プリセットガイド参照)



5 メモリーを使う

プログラムスキャン用チャンネルに記憶できる内容

プログラムスキャン用チャンネルでは、上限周波数/下限周波数のほかに、下記の内容を記憶します。

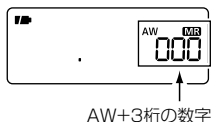
- ・ スキャンネーム
- ・ 受信モード(電波型式)
- ・ チューニングステップ(TS)
- ・ アッテネーター(ATT)の設定

◇ オートメモリーライト用チャンネル

AW000~AW199(200CH)

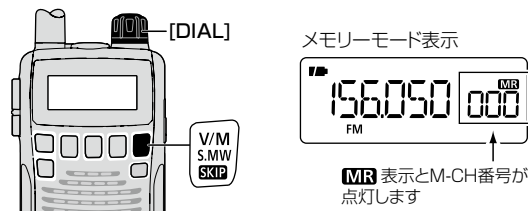
- ・ オートメモリーライトスキャン時の自動登録用として使用します。

※【オートメモリーライトスキャンを使う】(P64)

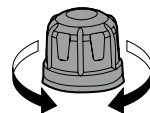


■ メモリーモードの基本操作

1. **[V/M]** を短く押して、メモリーモードにします。
「**[MR]**」表示とメモリーチャンネル番号が点灯します。
2. **[DIAL]** を回して、メモリーチャンネルを呼び出します。
※ 登録されているメモリーチャンネルのみ表示されます。

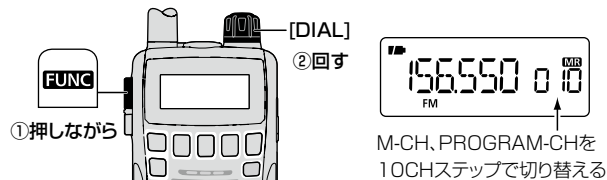


反時計回り:
メモリーチャンネルの数字が小さくなる



時計回り:
メモリーチャンネルの数字が大きくなる

- メモリーチャンネル表示、またはプログラムスキャン用チャンネル表示で **[FUNC]** を押しながら **[DIAL]** を回すと、メモリーチャンネルを10CHステップで呼び出せます。(空きチャンネルも呼び出します。)

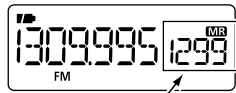


◇メモリーチャンネルの切り替えについて

メモリーモードで[BAND]を短く押すごとに、「バンク A」→「バンク B」～「バンク Y」→「オートメモリーライト用チャンネル」→「メモリーチャンネル」と表示が切り替わります。

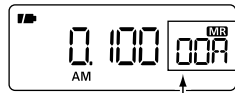
- [BAND] を押しながら、[DIAL]を回しても切り替わります。
- メモリーチャンネル表示で[DIAL]を回しつづけると、プログラムスキャン用チャンネル(00A/00B～24A/24B)を呼び出します。

メモリーチャンネル表示



M-CH番号
(000～1299(最大))

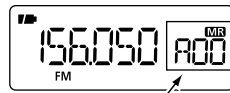
[DIAL]を
回す



PROGRAM-CH番号
(00A/00B～24A/24B)

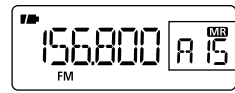
- バンク表示で[DIAL]を回すと、バンク番号を呼び出します。

バンク表示



バンク番号
(アルファベット+2桁の数字)

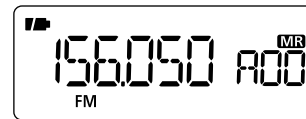
[DIAL]を
回す



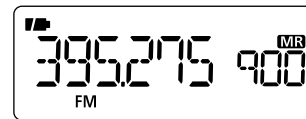
メモリーチャンネル表示



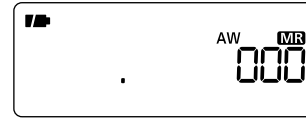
バンク(A)表示



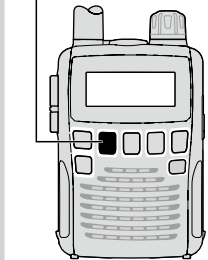
バンク(Q)表示



オートメモリーライト
用チャンネル表示



[BAND] を短く押すごとに
切り替わる



※バンクは(Y)までありますが、未登録のバンクとチャンネルは表示されません。

5 メモリーを使う

■ ネームで呼び出す

(メモリーネーム、バンクネーム、スキャンネーム)

プリセットされているメモリーチャンネルには、周波数などの情報とともにネーム(名称)も書き込まれています。ネーム表示にすると、目的の周波数が見つけやすくなります。(別紙プリセットガイド参照)

※ネームはご自分で付けることもできます。

☞【メモリーネーム、バンクネーム、スキャンネームを入力する】(P50)

《例》『バンクJ』の『メモリーネーム:BB-CL2』を呼び出す

【プリセットガイド(別紙)】

バンクJ 関西国際空港(バンクネーム:RJBB)

バンク番号	メモリーネーム	周波数	モード	備考	バンク番号	メモリーネーム	周波数	モ
J00	BB-CL1	121.9000	AM	CLR	J08	BB-DE2	119.5000	A
J01	BB-CL2	126.2000	AM	CLR	J09	BB-DE3	119.7500	A

メモリーネーム

メモリーネーム表示にする

1. メモリーモードで **[FUNC]** を押しながら **[M.N]** **[BAND]** を短く押して、『M NAME』を選択します。

約1秒後にメモリーネームを表示します。

チャンネルを選択する

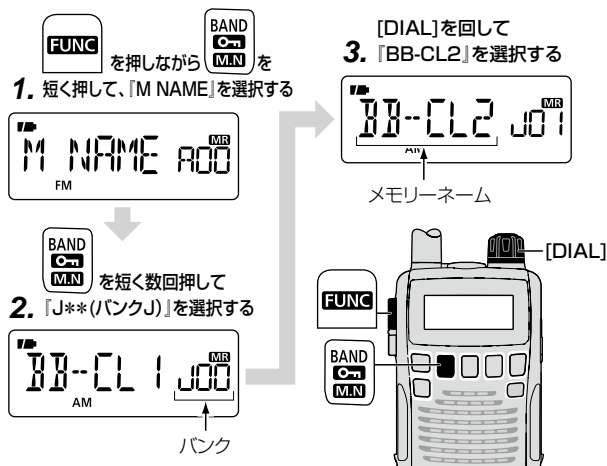
2. **[BAND]** を短く数回押して、『J***(バンクJ)』を選択します。

3. **[DIAL]** を回して、メモリーネーム『BB-CL2』を選択します。

『J01』に登録されている『126.200MHz』を受信します。

メモリーネームで呼び出す

《例》『バンクJ』の『BB-CL2』を呼び出す



【ご参考】

表示されるネームについては【ネームを使う】(P49)、【チャンネル表示を切り替える】(P52)を参照してください。

■メモリーチャンネルに登録する

よく使う周波数をメモリーチャンネルに登録します。

【ご注意】

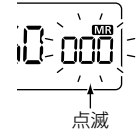
手順2の[S.MW]を長く押す(セレクトメモリーライト状態にする)動作は、「ピッ、ピー」と鳴ったところで、すぐに指をはなしてください。「ピッ、ピー ピビ」と鳴るまで押すと、メモリー書き込みになります。

- VFOモードで登録したい周波数と受信モードを設定します。
☞【受信する周波数を設定する】(P22)
- [S.MW] [V/M]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
メモリーチャンネル表示部が点滅します。
※「ピッ、ピー」と鳴ったところで、すぐに指をはなしてください。
 - 登録を中止する場合は、[S.MW] [V/M]を短く押すと、セレクトメモリーライト状態が解除されます。
- [DIAL]を回して、空きチャンネルを選択します。
 - [FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、メモリーチャンネルを10CHステップで選択できます。
 - ※ 選択したメモリーチャンネルにすでに周波数が登録されている場合は、左側にその周波数が表示されます。
- [S.MW] [V/M]を長く(ピッ、ピビと鳴るまで)押します。
周波数がメモリーチャンネルに登録され、VFOモードに戻ります。

「セレクトメモリーライト状態」について

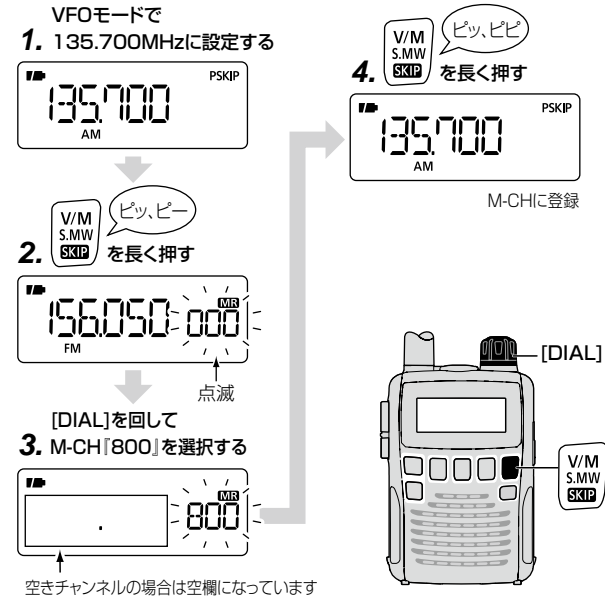
メモリーチャンネルに登録したり、メモリー内容を書き換えたりできる状態です。

[S.MW] [V/M]を「ピッ、ピー」と鳴るまで押してセレクトメモリーライト状態で操作し、確定するには[S.MW] [V/M]を「ピッ、ピビ」と鳴るまで押します。



M-CHを登録する

《例》「135.700MHz」をM-CH「800」に登録する



5 メモリーを使う

■ メモリーチャンネルに登録する(つづき)

◇ メモリーチャンネルの自動繰り上げ登録機能を使う

メモリー登録後、自動的に1CH繰り上げる機能です。
メモリーチャンネルに連番で登録する場合に便利です。

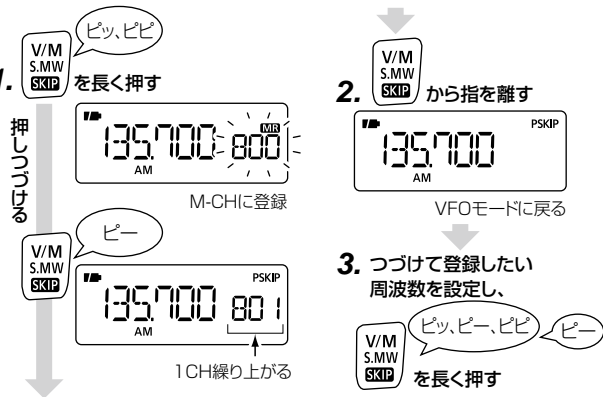
1. 【メモリーチャンネルに登録する】(P37)の手順4で、登録完了後も **[S.MW]** **[V/M]** を長く(ピッ、ピピのあと、もう一度ピーと鳴るまで)押しつづけます(約1秒間)。

メモリーチャンネルが1CH繰り上がります。

2. **[S.MW]** **[V/M]** を押ししている指をはなします。

VFOモードになります。

3. つづけて登録したい周波数を設定し、**[S.MW]** **[V/M]** を長く(ピッ、ピー、ピピのあと、もう一度ピーと鳴るまで)押しつづけます。



◇ メモリー内容をVFOモードに転送する

メモリーしている周波数付近に移って受信する場合などに便利な機能です。

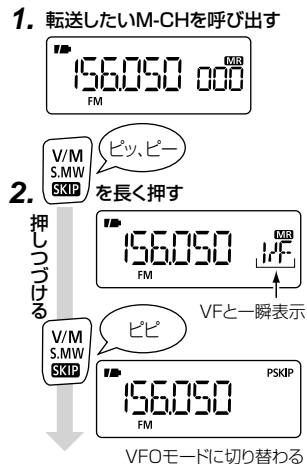
1. メモリーモードで転送したいメモリーチャンネルを呼び出します。

☞【メモリーモードの基本操作】(P34)

2. **[S.MW]** **[V/M]** を長く(ピッ、ピー、ピピと鳴るまで)押します。

メモリーチャンネルの内容をVFOモードに転送して、VFOモードに切り替わります。

※「ピッ、ピー」と鳴ったところで指をはなすと、セレクトメモリーライト状態になります。セレクトメモリーライト状態を解除するには、もう一度 **[S.MW]** **[V/M]** を短く押ししてください。



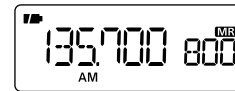
◇メモリー内容をほかのメモリーチャンネル番号にコピーする

1. コピーしたいメモリーチャンネルを呼び出します。
☞【メモリーモードの基本操作】(P34)
2. **[S.MW]** **[V/M]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
メモリーチャンネル表示部が点滅します。
※「ピッ、ピー、ピビ」と鳴るまで押すと、メモリーチャンネルの内容がVFOモードに転送されます。(☞P38)
3. **[DIAL]**を回して、コピー先のメモリーチャンネルを選択します。
 - **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回すと、メモリーチャンネルを10CHステップで選択できます。
 - ※ **[VF]**を選択すると、VFOモードに転送されます。
 - ※ すでに登録されているメモリーチャンネルを選択した場合は、内容が上書きされます。
4. **[S.MW]** **[V/M]**を長く(ピッ、ピビと鳴るまで)押します。
コピーしたメモリーチャンネルの内容が、選択したメモリーチャンネル番号に登録されます。

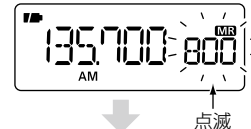
メモリー内容をコピーする

【例】M-CH「800」の内容をM-CH「850」にコピーする

1. M-CH「800」を呼び出す



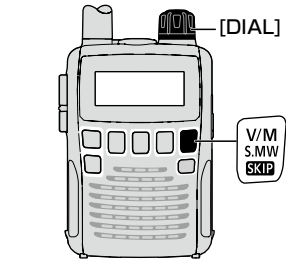
2. **[S.MW]** **[V/M]**を長く押す



3. **[DIAL]**を回して
コピー先のM-CHを選択する



4. **[S.MW]** **[V/M]**を長く押す



5 メモリーを使う

■ プログラムスキャン用チャンネルに登録する

よく使う周波数範囲を、プログラムスキャン用チャンネルに登録します。

プログラムスキャンとは、下限の周波数と上限の周波数を決め、その範囲をスキャンする機能です。

☞【PROG 0～24(プログラムスキャン)】(P58)

《例》下限:144.000MHzと上限:147.000MHzをプログラムスキャン用チャンネル10A(下限)/10B(上限)に登録する

【ご注意】

手順2、手順6の[S.MW]を長く押し(セレクトメモリーライト状態にする)動作は、「ピッ、ピー」と鳴ったところで、すぐに指をはなしてください。「ピッ、ピー ピピ」と鳴るまで押しと、メモリー書き込みになります。

下限の周波数を登録する(10A)

1. VFOモードで、下限の周波数(144.000MHz)と受信モードを設定します。

☞【受信する周波数を設定する】(P22)

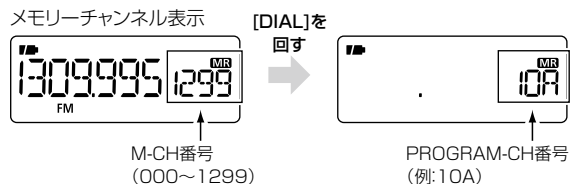
2. [S.MW][V/M]ボタンを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、セレクトメモリーライト状態にします。

メモリーチャンネル表示部が点滅します。

※「ピッ、ピー」と鳴ったところで、すぐに指をはなしてください。

3. [DIAL]を回して、下限の周波数を登録する「10A」を選択します。

- メモリーチャンネル表示で[DIAL]を回しつづけると、プログラムスキャン用チャンネルを呼び出します。



(反時計回りに[DIAL]を回しても、プログラムスキャン用チャンネルを呼び出せます。)

4. [S.MW][V/M]を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押しします。周波数がプログラムスキャン用チャンネルに登録され、VFOモードに戻ります。

上限の周波数を登録する(10B)

5. VFOモードで、上限の周波数(147.000MHz)と受信モードを設定します。

☞【受信する周波数を設定する】(P22)

6. [S.MW][V/M]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、セレクトメモリーライト状態にします。

メモリーチャンネル表示部が点滅します。

※「ピッ、ピー」と鳴ったところで、すぐに指をはなしてください。

7. [DIAL]を時計回りに回して、上限の周波数を登録する
[10B]を選択します。

※ 手順3で選択した『10A』と、この手順で選択する『10B』
で、ひとつのプログラムチャンネルを構成します。『10』
は同じ数字を選択してください。

8. [S.MW] [V/M]を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押します。
周波数がプログラムスキャン用チャンネルに登録され、
VFOモードに戻ります。

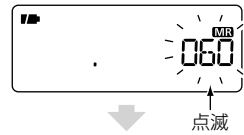
PROGRAM-CHの登録

《例》下限周波数:144.000MHzを、
プログラムスキャン用チャンネル10Aに登録する

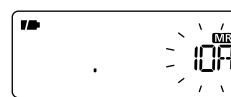
VFOモードで
1. 144.000MHzに設定する



2. [V/M] [S.MW] [SKIP] を長く押す
ピッ、ピー



[DIAL]を回して
PROGRAM-CH
3. 『10A』を選択する



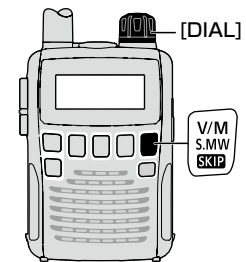
4. [V/M] [S.MW] [SKIP] を長く押す
ピッ、ピピ



PROGRAM-CHに登録



VFOモードに戻る



同様の手順で、上限周波数:147.000MHzをプログラムスキャン用
チャンネル10Bに登録してください。

5 メモリーを使う

■ プログラムスキャン用チャンネルを使う(つづき)

◇ 設定を書き換える

プログラムスキャン用チャンネルのメモリー内容(例: 10A/10B)は書き換えができます。

※周波数以外については、「10A」と「10B」の設定内容は共通です。

● 書き換え可能な項目:

S NAME (P49) / TS* / MODE* / ATT*

* ブランク(- - - -)を選択すると、VFOモードの設定条件にしたがって動作します。

1. 内容を書き換えたいプログラムスキャン用チャンネルを呼び出します。

☞【メモリーモードの基本操作】(P34)

2. [S.MW] [V/M]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、セレクトメモリーライト状態にします。

メモリーチャンネル表示部が点滅します。

※「ピッ、ピー、ピビ」と鳴るまで押し、メモリーチャンネルの内容がVFOモードに転送されます。(P38)

3. [MODE]を短く押し、書き換えたい項目を選択します。

- [MODE]を押しながら[DIAL]を回しても選択できます。

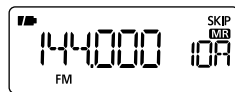
4. [DIAL]を回して変更する内容を選択、またはネームを入力(P50)します。

5. [S.MW] [V/M]を長く(ピッ、ピビと鳴るまで)押し、変更内容がメモリーに書き込まれ、メモリーモードに戻ります。

内容を書き換える

《例》PROGRAM-CH「10A」の「ATT」を「ON」にする

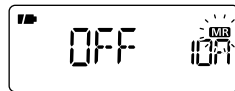
1. PROGRAM-CH「10A」を呼び出す



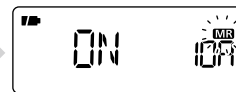
2. [V/M S.MW SKIP]を長く押し、ピッ、ピーを長く押し



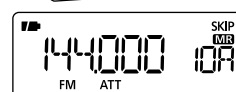
3. [MODE SCAN ESCAN]を短く数回押し、[ATT]を選択する



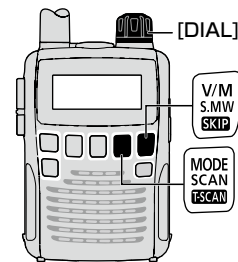
4. [DIAL]を回して[ON]を選択する



5. [V/M S.MW SKIP]を長く押し、ピッ、ピビを長く押し



M-CHに書き込む



■メモリーを消去する

不要になったメモリーチャンネル/プログラムスキャン用チャンネルを消去します。

【ご注意】

- 消去したメモリーチャンネルとプログラムスキャン用チャンネルは復元できません。
- すべてのメモリーチャンネルとプログラムスキャン用チャンネルを消去すると、プログラムスキャン/プログラムリンクスキャン/メモリーモードのスキャンは動作しません。

1. 消去したいメモリーチャンネル、またはプログラムスキャン用チャンネルを呼び出します。

☞【メモリーモードの基本操作】(P34)

2. **[S.MW]** **[V/M]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライト状態にします。

メモリーチャンネル表示部が点滅します。

※「ピッ、ピー、ピビ」と鳴るまで押すと、メモリーチャンネルの内容がVFOモードに転送されます。(☞P38)

3. **[MODE]**を短く数回押して、**[CLEAR]**を選択します。

画面が切り替わり、『CLR』と表示されます。

- **[MODE]**を押しながら**[DIAL]**を回しても選択できません。

4. **[S.MW]** **[V/M]**を長く(ピッ、ピビと鳴るまで)押します。

メモリー内容が消去され、メモリーチャンネル表示部が点滅します。

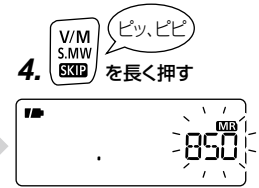
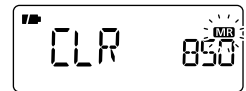
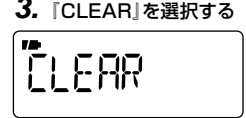
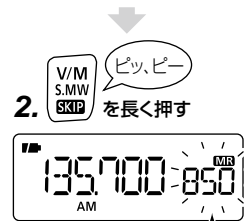
5. **[S.MW]** **[V/M]**を短く押します。

消去されたメモリーチャンネルが、空きチャンネルになります。

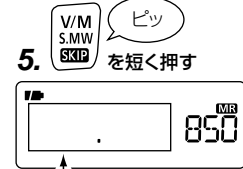
メモリーを消去する

《例》M-CH「850」を消去する

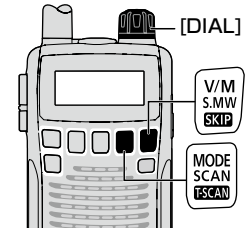
1. M-CH「850」を呼び出す



メモリー内容を消去



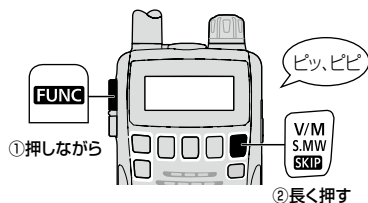
空きチャンネル



5 メモリーを使う

■ メモリーを消去する(つづき)

P43 手順2でセレクトメモリー状態にしたあと、**FUNC**を押しながら**S.MW** [V/M]を長く(ピッ、ピビと鳴るまで)押しても、メモリー内容を消去できます。



メモリー内容が消去され、メモリーチャンネル表示部が点滅(☞P43 手順4)したら、**S.MW** [V/M]を短く押します。

【ご参考】

メモリーチャンネルの内容をほかのメモリーチャンネルに転送できます。

☞【メモリー内容をほかのメモリーチャンネル番号にコピーする】(P39)

■ メモリーバンクを使う

1300CHあるメモリーチャンネルに登録した内容を、ジャンル別にメモリーバンクで振り分けできます。

メモリーバンクには22個のバンク(A～R、T、U、W、Y)があり、バンクA～バンクQに主要な周波数がプリセットされています。(別紙プリセットガイド参照)

各バンクには100ch (00～99)のメモリーチャンネルを登録できます。

M-CHの内容	バンクチャンネル	バンクの内容
000 156.050MHz	A00	A 00~ 国際VHF
{		B 00~ 成田国際空港
056 157.425MHz	A56	C 00~ 東京国際空港
058 121.650MHz	B00	⋮
{		Y 00~
085 149.450MHz	B27	
100 121.825MHz	C00	
{		
138 462.175MHz	C38	
⋮		
1299 1309.995MHz		

【ご注意】

メモリーバンクは、メモリーチャンネルを整理するために使用するフォルダのようなものです。

バンクに登録しているメモリーチャンネルを変更すると、メモリーバンクの内容も変更されます。また、登録しているメモリーチャンネルを消去すると、メモリーバンクからも消去されます。

◇ VFOモードで選択した周波数をバンクに登録する
 《例》88.100MHzを『バンクR』に登録する

【ご注意】

手順2の[S.MW]を長く押す(セレクトメモリーライト状態にする)動作は、「ピッ、ピー」と鳴ったところで、すぐに指をはなしてください。「ピッ、ピー ピピ」と鳴るまで押すと、メモリー書き込みになります。

1. VFOモードで、登録したい周波数(88.100MHz)と受信モードを設定します。

☞【受信する周波数を設定する】(P22)

- [FUNC]を押しながら [DIAL]を回すと、大きく周波数を変更できます。(☞P25)

2. [S.MW] [V/M]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、セレクトメモリーライト状態にします。

メモリーチャンネル表示部が点滅します。

※「ピッ、ピー」と鳴ったところで、すぐに指をはなしてください。

3. [DIAL]を回して、空きチャンネルを選択します。

※ 登録済みのチャンネルを選んだ場合、周波数が上書きされます。

4. [MODE]を短く押します。

『BANK』という文字が一瞬表示されて画面が切り替わり、周波数表示部に『-- -- --』が表示されます。

5. [BAND]を短く数回押し、[R-**-**]を選択します。

バンクRの空きチャンネルが表示されます。

- [BAND]を押しながら [DIAL]を回しても選択できません。
 - 別の空きチャンネルに登録する場合は、[DIAL]を回して登録したいバンク番号を選択します。
- ※ 登録済みのバンク番号は選択できません。

つづけてバンクネーム、メモリーネームを入力する場合は、手順5のあと【メモリーネーム、バンクネーム、スキャンネームを入力する】(P50)の手順4～手順7を参照してください。

6. [S.MW] [V/M]を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押します。

88.100MHzをメモリーバンクに登録し、VFOモードに戻ります。

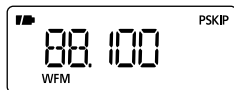
5 メモリーを使う

■ メモリーバンクを使う(つづき)

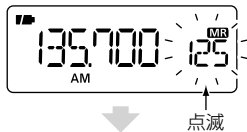
周波数をバンクに登録

《例》88.100MHzを「バンクR」に登録する

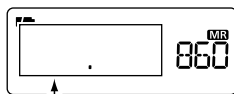
VFOモードで
1. 88.100MHzに設定する



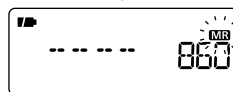
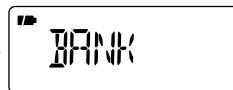
2. **V/M S.MW SKIP** を長く押す
ピッ、ピー



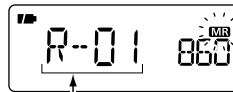
3. [DIAL]を回して
空きチャンネルを選択する



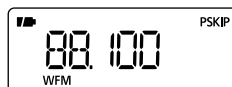
4. **MODE SCAN ESCAN** を短く押して
「BANK」を選択する



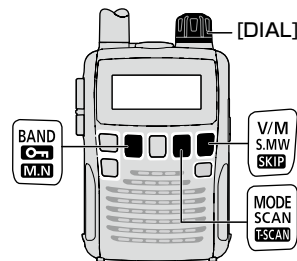
5. **BAND C/MN** を短く数回押して
「R-01」を選択する



6. **V/M S.MW SKIP** を長く押す
ピッ、ピー



VFOモードに戻る



◇メモリーチャンネルをバンクに登録する

《例》メモリーチャンネル「850」を「バンクR」に登録する

1. メモリーチャンネル「850」を呼び出します。
☞【メモリーモードの基本操作】(P34)
2. **[S.MW]** **[V/M]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
メモリーチャンネル表示部が点滅します。
※「ピッ、ピー、ピピ」と鳴るまで押すと、メモリーチャンネルの内容がVFOモードに転送されます。(☞P38)
3. **[MODE]**を短く押します。
「BANK」という文字が一瞬表示されて画面が切り替わります。
4. **[BAND]**を短く数回押して、「R-**」を選択します。
バンクRの空きチャンネルが表示されます。
 - **[BAND]**を押しながら**[DIAL]**を回しても選択できません。
 - 別の空きチャンネルに登録する場合は、**[DIAL]**を回して登録したいバンク番号を選択します。
※ 登録済みのバンク番号は選択できません。
5. **[S.MW]** **[V/M]**を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押します。
バンクRにメモリーチャンネルの内容が登録され、メモリーモードに戻ります。

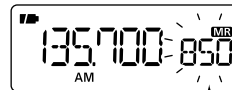
M-CHをバンクに登録

《例》メモリーチャンネル「850」を「バンクR」に登録する

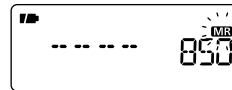
1. M-CH「850」を呼び出す



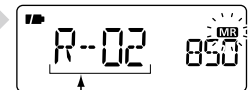
2. **[V/M]** **[S.MW]** **[SKIP]**を長く押す



3. **[MODE]** **[SCAN]** **[ESCAN]**を短く押して「BANK」を選択する



4. **[BAND]** **[M.N]**を短く数回押して「R-**」を選択する

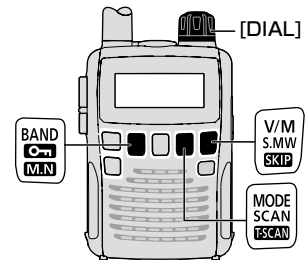


バンクチャンネル (例)

5. **[V/M]** **[S.MW]** **[SKIP]**を長く押す



メモリーモードに戻る



5 メモリーを使う

■ メモリーバンクを使う(つづき)

◇ メモリーチャンネルをバンクから削除する

バンク番号に登録されたメモリーチャンネルを解除し、バンクから削除します。

【ご注意】

バンクからメモリーチャンネルを削除しても、バンク番号に登録されていたメモリーチャンネルは残ります。

《例》バンク番号「R02」に登録されたメモリーチャンネル「850」を解除し、「バンクR」から削除する

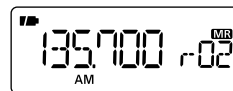
1. メモリーモードで、バンク番号「R02」を呼び出します。
(☞Xページ)
2. **[S.MW]** **[V/M]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、セレクトメモリーライト状態にします。
メモリーチャンネル表示部が点滅します。
※「ピッ、ピー、ピビ」と鳴るまで押しと、メモリーチャンネルの内容がVFOモードに転送されます。(☞P38)
3. **[MODE]**を短く押します。
「BANK」という文字が一瞬表示されて画面が切り替わり、メモリーバンクのバンク番号「R-02」が表示されます。
4. **[BAND]**を短く数回押しして、「-----」を選択します。
 - **[BAND]**を押しながら**[DIAL]**を回しても選択できます。
 - ※「-----」はバンクA～Yのいずれにも含まれない状態です。

5. **[S.MW]** **[V/M]**を長く(ピッ、ピビと鳴るまで)押します。
「850」をバンクから消去して、メモリーモードに戻ります。

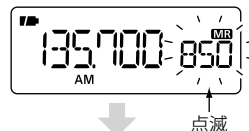
M-CHをバンクから削除する

《例》「バンクR」からバンク番号「R02」(M-CH850)を削除する

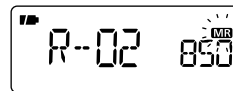
1. バンク番号「R02」を選択する



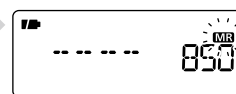
2. **[V/M S.MW SKIP]**を長く押し
ピッ、ピー



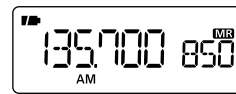
3. **[MODE SCAN ESCAN]**を短く押しして
「BANK」を選択する



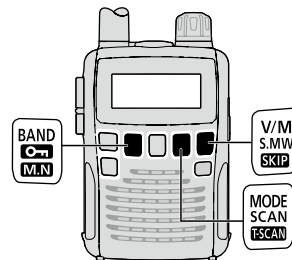
4. **[BAND C-MAN]**を短く数回押しして
「-----」を選択する



5. **[V/M S.MW SKIP]**を長く押し
ピッ、ピビ



メモリーモードに戻る



■ ネームを使う

(メモリーネーム、バンクネーム、スキャンネーム)

プリセットされているメモリーチャンネルやメモリーバンクには、周波数などの情報とともにネーム(名称)も書き込まれています。編集したメモリーバンクやプログラムスキャン用チャンネルにも、ネームを書き込みます。

周波数表示(初期設定)では、どの周波数が鉄道、航空、アマチュア無線と記憶しておかなければいけません。たとえば鉄道無線のメモリーバンクに『TRAIN』のようにネームを付け、ネームで表示するようにしておけば、周波数を覚えていなくても目的の周波数帯を探すのが容易になります。

[プリセットガイド(別紙)]

バンクL 鉄道(バンクネーム: TRAIN)

バンク番号	メモリーネーム	周波数	モード	備考	バンク番号	メモリーネーム	周波数
L00	JR-C	415.2000	FM	JR-C	L25	JR-K01	365.
L01	JR-1 T	336.0375	FM	JR-A/B/A7	L26	JR-K02	365.
L02	JR-1CH	352.5375	FM	JR-A/B/A7	L27	JR-K03	365.

◇ メモリーネーム、バンクネーム表示にする

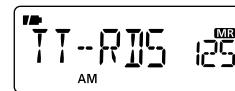
メモリーモードで、周波数表示(初期設定)からネーム表示、またはチャンネル表示に切り替えます。

メモリーモードで **[FUNC]** を押しながら **[M.N]** **[BAND]** を短く数回押して、表示させる項目を選択します。

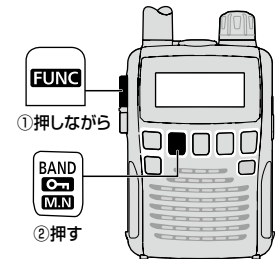
- **B NAME** : バンクネームを表示します。
- M NAME** : メモリーネームを表示します。(プログラムスキャン用チャンネルで設定したスキャンネームは、メモリーネームとして表示されません。)
- CH-***** : メモリーチャンネル番号を周波数表示部に表示します。(P52)
- 周波数表示** : メモリーに登録している周波数を表示します。

※ 『**B NAME**』、『**M NAME**』を選択すると、約1秒後にネームを表示します。ネームを書き込んでいないときは、周波数表示になります。

[FUNC] を押しながら **[BAND Ch M.N]** を短く数回押して、項目を選択する

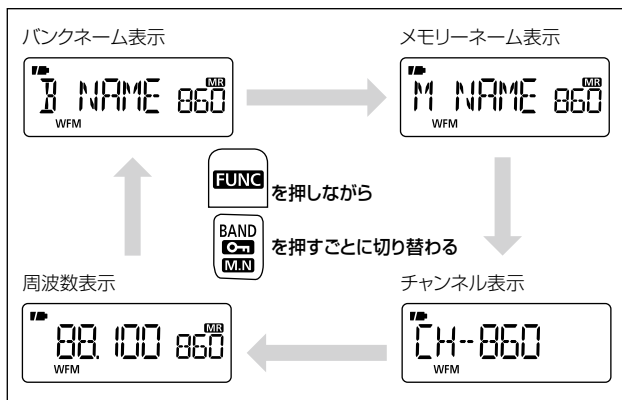


メモリーネーム表示の例



5 メモリーを使う

■ ネームを使う(つづき)



【使用可能文字一覧】

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
[A]	[B]	[C]	[D]	[E]	[F]	[G]	[H]	[I]	[J]	[K]	[L]	[M]
N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z
[N]	[O]	[P]	[Q]	[R]	[S]	[T]	[U]	[V]	[W]	[X]	[Y]	[Z]
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]			
()	*	+	-	.	/		=				[スペース]
[(]]	[*]	[+]	[-]	[.]	[/]	[]	[=]				

◇ メモリーネーム、バンクネーム、スキャンネームを入力する

1. メモリーモードで[BAND]を短く数回押して、メモリーチャンネル表示にします。

- [BAND] を押しながら [DIAL] を回しても選択できません。
- バンクネームを書き込みたい場合は、対象のバンクを選択します。

2. [DIAL]を回して、ネームを書き込みたいメモリーチャンネル、またはプログラムスキャン用チャンネル呼び出します。

☞【メモリーモードの基本操作】(P34)

3. [S.MW] [V/M]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライト状態にします。

メモリーチャンネル表示部が点滅します。

※「ピッ、ピー、ピピ」と鳴るまで押すと、メモリーチャンネルの内容がVFOモードに転送されます。(☞P38)

4. [MODE]を短く数回押して、ネーム項目を選択します。

ネーム入力画面になり、ネーム表示の1文字目にあるカーソルとMRが点滅します。

- M NAME：選択したメモリーチャンネルにネームを書き込みます。

B NAME：選択したバンクにネームを書き込みます。

S NAME：選択したプログラムスキャン用チャンネルに
ネームを書き込みます。(プログラムスキャン
選択時に表示されます。)

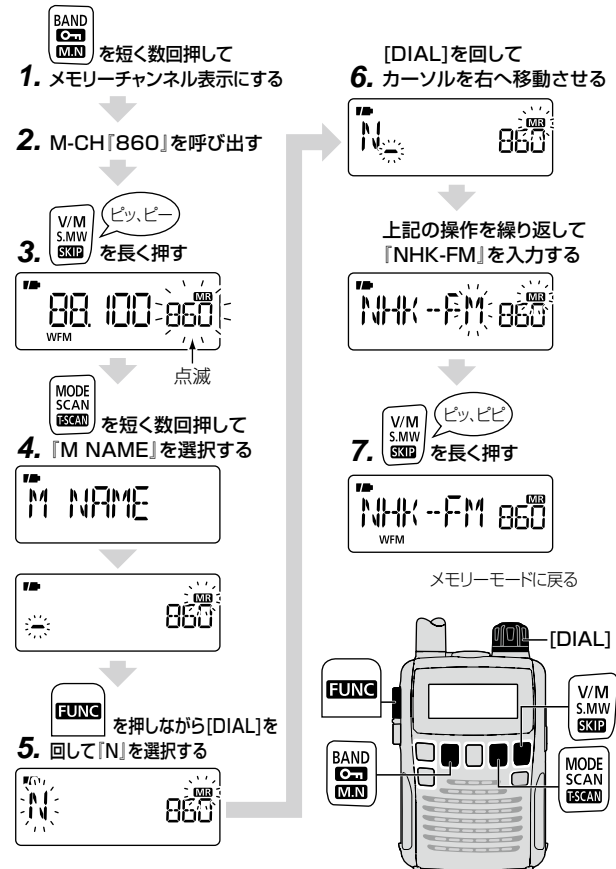
- ※ 手順1でバンクを選択していても、『M NAME』を選択
するとメモリーネームの入力になります。
- ※ 『S NAME』は、手順2でプログラムスキャン用チャ
ンネルを選択した場合に表示されます。
- ※ すでにネームが書き込まれているときはネームを表示
します。

5. **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、文字を決定しま
す。
6. **[DIAL]**を回してカーソルを移し、つぎの文字を選択し
ます。
 - **[DIAL]**を時計回りに回すとカーソルが右に、反時計
回りに回すとカーソルが左に移動します。
 - ※ 入力できるネームは6文字以内です。
7. **[S.MW]** **[V/M]**を長く(ピッ、ピビと鳴るまで)押します。
ネームを書き込んで、メモリーモードに戻ります。

【ご参考】

- ネームを訂正したいときは、ネームを入れなおしてくださ
い。最後に入れたネームが有効となります。
- バンクネームはバンクチャンネルごとにネームを入力できま
すが、バンク番号ごとにはネームを入力できません。

メモリーネームの入力 《例》M-CH「860」に「NHK-FM」を入力
する(メモリーネーム表示の場合)



5 メモリーを使う

■ ネームを使う(つづき)

◇ チャンネル表示を切り替える

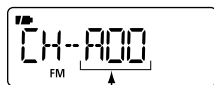
チャンネル表示は、登録したメモリーチャンネル、整理したバンクとバンクチャンネル、オートメモリーライト用チャンネル(※P64)の周波数表示を、チャンネル番号で表示します。

1. メモリーモードで **[FUNC]** を押しながら **[M.N]** **[BAND]** を短く数回押して、「**CH-*****」(チャンネル表示)を選択します。

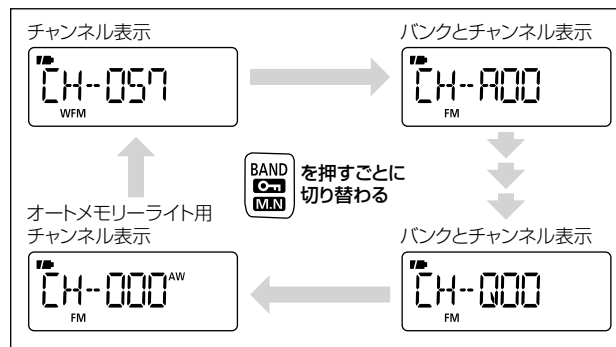
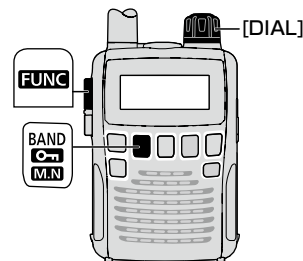
2. **[M.N]** **[BAND]** を短く押して、チャンネル表示を切り替えます。

[M.N] **[BAND]** を短く押すごとに、表示が切り替わります。

- **[BAND]** を押しながら **[DIAL]** を回しても、切り替わりません。
- 各チャンネル表示選択時に **[DIAL]** を回すと、それぞれに記憶しているチャンネル番号を選択できます。



[DIAL]を回して選択



※バンクは(Y)までありますが、未登録のバンクとチャンネルは表示されません。

■ 各機能をメモリーチャンネル、メモリーバンクに書き込む

SETモードのEXPAND（拡張機能）を使用して、VSC（ボイススケルチコントロール）機能、DUP（デュプレックスモード）設定などの受信条件を書き込みできます。

☞【SETモードの設定】(P80)

《例》バンク番号「B27」にVSC機能を書き込む

1. メモリーモードで「B27」を呼び出します。
(☞Xページ)
2. **SET** [TS]を長く（ピッ、ピーと鳴るまで）押して、セットモードにします。
3. [DIAL]を回して「EXPAND」（機能拡張の設定）を選択します。
4. **FUNC** を押しながら [DIAL]を回して「ON」を選択します。
5. [DIAL]を回して、「VSC」（ボイススケルチコントロール機能の設定）を選択します。
6. **FUNC** を押しながら、[DIAL]を回して「ON」を選択し、**SET** [TS]を短く押します。
セットモードが解除され、「VSC」が表示されます。

VSC機能を書き込む

《例》バンク番号「B27」にVSC機能を書き込む（バンクネーム表示の場合）

1. バンク番号「B27」を呼び出す



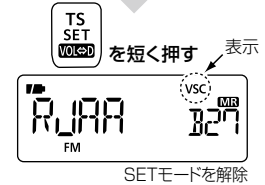
2. **TS SET VOL** を長く押す
（ピッ、ピー）



4. **FUNC** を押しながら [DIAL]を回して「ON」を選択する

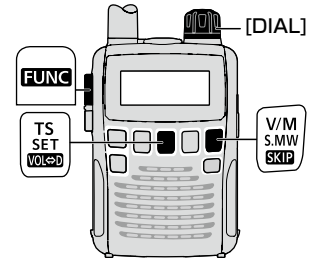


5. [DIAL]を回して「VSC」を選択する



SETモードを解除

次ページへ



5 メモリーの使いかた

■ 各機能をメモリーチャンネル、メモリーバンクに書き込む(つづき)

7. **[S.MW]** **[V/M]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライト状態にします。

メモリーチャンネル表示部が点滅します。

※「ピッ、ピー、ピピ」と鳴るまで押すと、メモリーチャンネルの内容がVFOモードに転送されます。(※P38)

8. **[S.MW]** **[V/M]**を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押します。

メモリー内容を上書きして、元の画面に戻ります。

上記操作を行うことにより呼び出したメモリーにVSC機能を書き込むことができ、バンク番号にも反映されます。

VSC機能を書き込む(つづき)



スキャンとは、周波数やメモリーチャンネルを自動で切り替えて、信号のあるところを探し出す機能です。

この章でできること

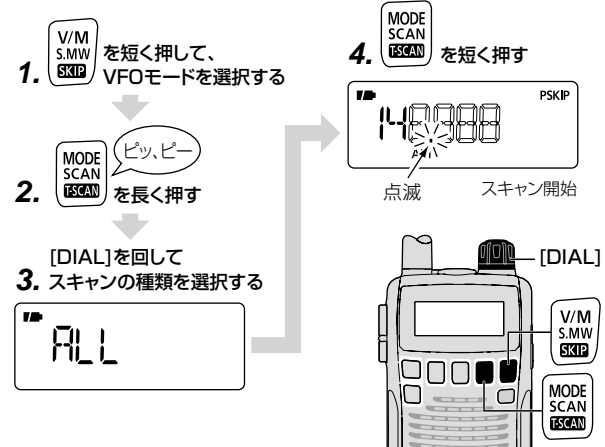
- スキャンの基本操作 55
スキャンの受信モード(電波型式)について
- スキャン中にできる操作 56
スキャンの方向を変える/チューニングステップの設定
- スキャンに便利な設定 56
スキップの設定/スケルチレベルの変更/
受信時のタイマー設定/受信時のピーブ音設定
- VFOモードのスキャンについて 57
ALL (オールスキャン) / BAND (バンドスキャン) /
PROG 0~24 (プログラムスキャン) /
P-LINK 0~9 (プログラムリンクスキャン)
- VFOモードのスキップ設定について 63
スキャン中に不要な周波数をスキップ指定する/
スキップする、しないを設定する
- オートメモリーライトスキャンを使う 64
オートメモリーライト用チャンネルに登録する/
オートメモリーライト用チャンネルを呼び出す/
オートメモリーライト用チャンネルを消去する
- メモリーモードのスキャンについて 66
M-ALL (メモリーオールスキャン) / B-ALL (バンクオールスキャン) /
BANK-* (バンクスキャン) / B-LINK (バンクリンクスキャン)
- メモリーチャンネルごとにスキップを指定/解除する 70
- プライオリティスキャンについて 71
2つの周波数を交互に受信する/
スキャンしながら特定の周波数を受信する/
特定の周波数を交互に受信しながらスキャンする/
複数のチャンネルを交互にスキャンしながら受信する

■ スキャンの基本操作

1. **[V/M]** を短く押して、VFOモードまたはメモリーモードを選択します。
2. **[SCAN] [MODE]** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。スキャン項目(P57、P66)が表示されます。
3. **[DIAL]** を回して、スキャンの種類を選択します。
4. **[SCAN] [MODE]** を短く押します。スキャンを開始します。
 - スキャンを停止するときには、再度 **[SCAN] [MODE]** を短く押します。

スキャンの基本操作

《例》VFOモードでオールスキャンをする



6 スキャン機能を使う

◇ スキャンの受信モード(電波型式)について

- オールスキャン/バンドスキャン時は、VFOモードでバンドごとに設定している電波型式で動作します。
- プログラムスキャン/プログラムリンクスキャン/メモリーモードのスキャン時は、プログラムスキャン用チャンネル/メモリーチャンネルに書き込まれている電波型式で動作します。

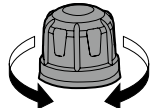
■ スキャン中にできる操作

◇ スキャンの方向を変える

スキャンを開始するとアップスキャン(周波数が高い/メモリーチャンネルの数字が大きい方向へのスキャン)を開始しますが、スキャン中に[DIAL]を反時計回りに回すと、ダウンスキャン(周波数が低い/メモリーチャンネルの数字が小さい)方向に切り替わります。信号を受信してスキャンを一時停止しているときに、[DIAL]を回すと再開します。

反時計回り:

- 周波数が低い方向に切り替わる
- M-CHの数字が小さくなる



時計回り:

- 周波数が高い方向に切り替わる
- M-CHの数字が大きくなる

◇ チューニングステップの設定

オールスキャン/バンドスキャン中に周波数を切り替えるステップ幅は、バンドごとに設定しているチューニングステップで動作します。プログラムスキャンは、プログラムスキャン用チャンネルに設定しているチューニングステップで動作します。

☞【周波数を小刻みに変える】(P24)

■ スキャンに便利な設定

◇ スキップの設定

すべてのスキャンでスキップ(必要のない周波数や必要のないメモリーチャンネルを、スキャンから除外する)指定ができます。

- 周波数をスキップ指定する(PSKIP ☞P63、P70)
- メモリーチャンネルをスキップ指定する(SKIP ☞P70)

◇ スケルチレベルの変更

受信信号の強さに応じて雑音を遮断するレベル(スケルチレベル)が変更できます。(初期設定値: AUTO)

☞【スケルチレベルを調整する】(P23)

◇ 受信時のタイマー設定

信号を受信して、約10秒(初期設定値)経過すると、自動的にスキャンを再開します。また、途中で信号がなくなると、約2秒後(初期設定値)にスキャンを再開します。

☞【スキャン一時停止タイマーの設定】(P86)

☞【スキャン再スタートタイマーの設定】(P86)

◇ 受信時のビーブ音設定

信号を受信してスキャンが一時停止すると、ビーブ音が鳴るように設定できます。

☞【スキャン停止時ビーブ音の設定】(P86)

■ VFOモードのスキャンについて

VFOモードのスキャンには、以下の4種類があります。

- **ALL (オールスキャン 参照P57)**
すべての受信周波数範囲をスキャンします。
- **BAND (バンドスキャン 参照P58)**
表示しているバンドの周波数範囲をスキャンします。
- **PROG 0~24 (プログラムスキャン 参照P58)**
プログラムスキャン用チャンネルに登録した周波数範囲をスキャンします。
- **P-LINK 0~9 (プログラムリンクスキャン 参照P59)**
複数のプログラムスキャン用チャンネルを、連続してスキャンします。

【ご参考】

「PSKIP」を指定している周波数は、スキャンから除外します。

参照【VFOモードのスキップ設定について】(P63)

参照【メモリーチャンネルごとにスキップを指定/解除する】(P70)

◇ ALL(オールスキャン)

すべての受信周波数範囲(0.100MHz~1309.995MHz)をスキャンします。

※一部周波数を除きます。参照【受信周波数範囲】(P112)

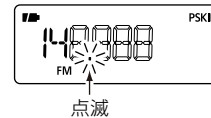


1. VFOモードで **[SCAN] [MODE]** を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押します。
2. **[DIAL]** を回して、「**ALL (オールスキャン)**」を選択します。



3. **[SCAN] [MODE]** を短く押します。

表示している周波数の次の周波数から、スキャンを開始します。



- スキャンを停止するときは、再度 **[SCAN] [MODE]** を短く押します。

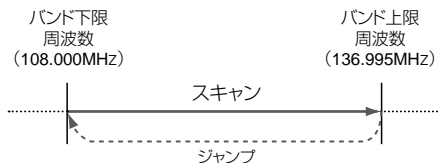
6 スキャン機能を使う

■ VFOモードのスキャンについて(つづき)

◇ BAND(バンドスキャン)

選択したバンドの周波数範囲をスキャンします。

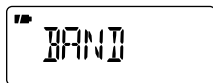
(例) 航空無線(118M)バンド



1. VFOモードで **[BAND]** を短く数回押して、スキャンしたいバンドを選択します。

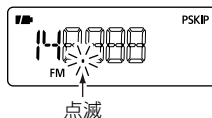
- **[BAND]** を押しながら **[DIAL]** を回しても選択できます。

2. **[SCAN] [MODE]** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
3. **[DIAL]** を回して、**[BAND(バンドスキャン)]** を選択します。



4. **[SCAN] [MODE]** を短く押します。

表示している周波数から、アップスキャンを開始します。



- スキャンを停止するときは、再度 **[SCAN] [MODE]** を短く押します。

◇ PROG 0~24(プログラムスキャン)

プログラムスキャン用チャンネルに登録された周波数範囲をスキャンします。

(例) ALL (P00)



PROG 0~PROG 24のプログラムスキャン用チャンネルがあります。

※PROG 0(P00)~PROG 6(P06)はプリセットされていますので、選択時にスキャン名が表示されます。(プリセットガイド参照)

※プログラムスキャン用チャンネルに下限周波数と上限周波数の2CHが登録されていないと、プログラムスキャンは動作しません。

☞【プログラムスキャン用チャンネルに登録する】(P40)

1. VFOモードで **[SCAN] [MODE]** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
2. **[DIAL]** を回して、**[PROG *(プログラムスキャン)]** を選択します。

- 00A/00Bに登録された周波数範囲をスキャンする場合は、**[PROG 0]** を選択します。

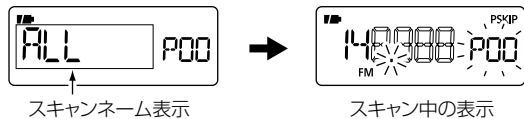
- スキャン名前が書き込まれている場合は、選択時にスキャン名前が表示されます。
 ☞【メモリー名前、バンク名前、スキャン名前を入力する】(P50)



3. **SCAN** [MODE]を短く押します。

手順2で選択した周波数範囲のスキャンを開始します。

※ スキャン中、スキャン名は表示されません。

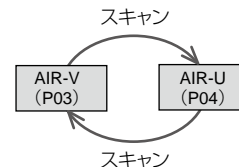


- スキャンを停止するときは、再度 **SCAN** [MODE]を短く押します。

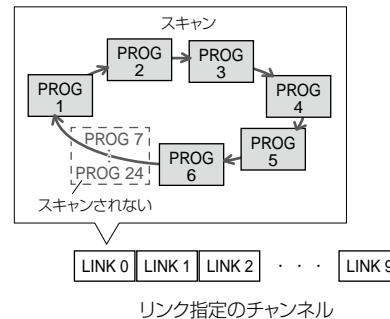
◇ P-LINK 0~9(プログラムリンクスキャン)

「P-LINK」(プログラムスキャンのリンク設定)で指定(リンク)したプログラムスキャン用チャンネルを、連続してスキャンします。

(例) リンク指定のチャンネルに、AIR-V (P03)とAIR-U (P04)がリンクされている場合



※ プリセットですべてのリンクチャンネル(LINK 0~LINK 9)にPROG 1~PROG 24がリンク設定されています。(ただしPROG 7~PROG 24はプログラムスキャン用チャンネルが登録されていないので、スキャンされません。)



6 スキャン機能を使う

■ VFOモードのスキャンについて(つづき)

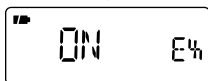
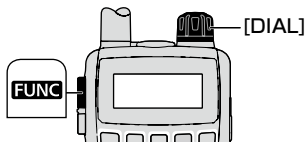
〈プログラムリンクを設定する〉

《例》『LINK2』に『AIR-V(P03)』と『AIR-U(P04)』を
リンク設定する

1. **[SET]** **[TS]**を長く(ピッ、ピーと
鳴るまで)押してSETモードにし、
[DIAL]を回して**[EXPAND]**(機
能拡張の設定)を選択します。

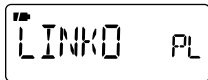
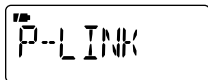


2. **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回
して、『ON』を選択します。



3. **[DIAL]**を回して『P-LINK』(プロ
グラムスキャンのリンク設定)を
選択し、**[SCAN]** **[MODE]**を短く
押します。

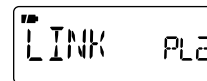
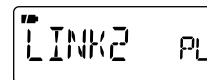
プログラムリンクチャンネルが表
示されます。



4. **[DIAL]**を回して『LINK2』を選択し、
[SCAN] **[MODE]**を短く押します。

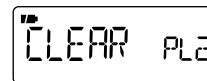
プログラムリンクの設定項目
(LINK/NAME/ADD/CLEAR)が
表示されます。

※【プログラムスキャンのリンク
設定】(P91)

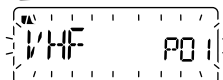


プログラムスキャン用チャンネルの
リンクを解除する

5. **[DIAL]**を回して『CLEAR』を選択
します。

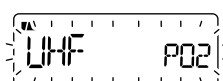


6. **[SCAN]** **[MODE]**を短く押します。
リンク設定されているプログラム
スキャン用チャンネルが表示さ
れ、点滅します。



点滅

7. **[DIAL]**を回して、解除したいプ
ログラムスキャン用チャンネルを
選択します。



(例)

8. もう一度 **[SCAN]** **[MODE]** を短く押します。

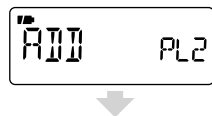
表示されていたプログラムスキャン用チャンネルをリンクから解除し、**[CLEAR]**画面に戻ります。

- つづけてリンクを解除するには、手順 **6**、**7**、**8** を繰り返します。
- すべてのリンクが解除されると、**[SCAN]** を押しても画面表示は変わりません。（「ブツ」とエラー音が鳴ります。）

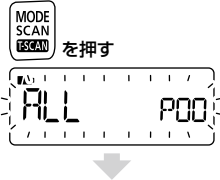


リンクさせたいプログラムスキャン用チャンネルを追加する

9. **[DIAL]** を回して **[ADD]** を選択します。

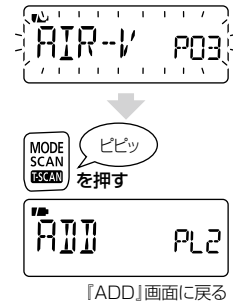


10. **[SCAN]** **[MODE]** を短く押します。プログラムスキャン用チャンネルが表示され、点滅します。

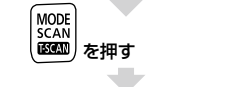


11. **[DIAL]** を回して **[AIR-V (P03)]** を選択し、**[SCAN]** **[MODE]** を短く押します。

[AIR-V (P03)] がリンク設定され、**[ADD]**画面に戻ります。

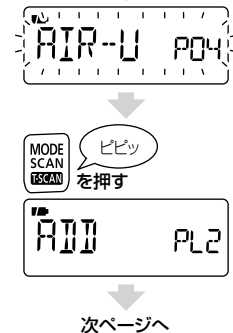


12. **[SCAN]** **[MODE]** を短く押します。プログラムスキャン用チャンネルが表示され、点滅します。



13. **[DIAL]** を回して **[AIR-U (P04)]** を選択し、**[SCAN]** **[MODE]** を短く押します。

[AIR-U (P04)] がリンク設定され、**[ADD]**画面に戻ります。



6 スキャン機能を使う

■ VFOモードのスキャンについて(つづき)

リンクチャンネルのネームを入力する
(任意)

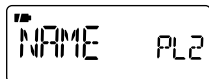
※ネームが不要の場合は手順18へ

14. [DIAL]を回して[NAME]を選択し、

[SCAN] [MODE]を短く押します。

ネーム入力画面が表示されます。

(※P50)



ネーム入力画面

15. [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、文字を決定します。

16. [DIAL]を回してカーソルを移し、つづきの文字を選択します。

※ [DIAL]を時計回りに回すとカーソルを右に、反時計回りに回すとカーソルを左に移動します。

※ 入力できるネームは6文字以内です。

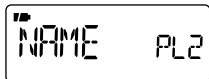


(例)

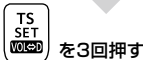


17. 入力完了したら、[SCAN] [MODE]を短く押します。

ネームを書き込んで、『NAME』画面に戻ります。



18. [SET] [TS]を短く3回押して、SETモードを解除します。



操作開始前の画面に戻る

【ご参考】

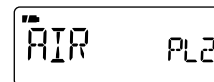
リンク設定を確認するには、EXPAND SETモードの『P-LINK』（プログラムスキャンのリンク設定）で『LINK』を選択してください。(※P91)

〈プログラムリンクスキャンを開始する〉

1. VFOモードで[SCAN] [MODE]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。

2. [DIAL]を回して、『P-LINK * (プログラムリンクスキャン)』を選択します。

※ リンクネームが書き込まれている場合は、選択時にリンクネームが表示されます。

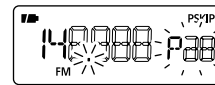
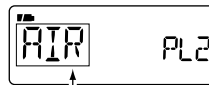


リンクネームが書き込まれている場合の例

3. [SCAN] [MODE]を短く押します。

手順2で選択したプログラムリンクチャンネルのスキャンを開始します。

※ プログラムリンクスキャン中、リンクネームは表示されません。



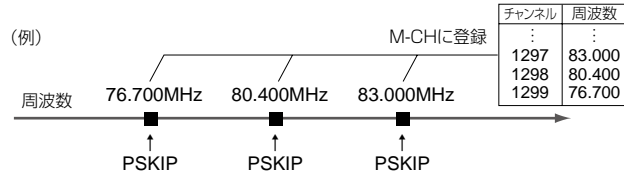
リンクネーム表示

スキャン中の表示

■ VFOモードのスキップ設定について

◇ スキャン中に不要な周波数をスキップ指定する

スキャン中に受信した周波数にPSKIPを指定し、次回のスキャン時に除外(スキップ)する設定をします。

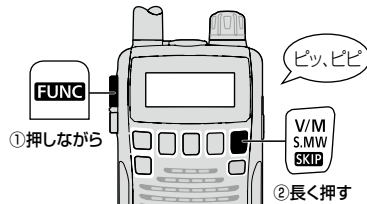


※PSKIPを指定した周波数は、メモリーチャンネル末尾の空きチャンネルに登録されます。

1. VFOモードでスキャンを開始します。
2. スキップしたい周波数を受信中に、**FUNC** を押しながら、**SKIP [V/M]** を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押します。

受信中の周波数にPSKIPが指定されます。

- PSKIPを指定後、スキャンを再開します。



【ご参考】

メモリーチャンネルを呼び出して、PSKIPを指定することもできます。☞【メモリーチャンネルごとにスキップを指定/解除する】(P70)

◇ スキップする、しないを設定する

PSKIPを指定した周波数を、VFOモードでスキャンしたときに「スキップする/しない」の設定をします。

1. VFOモードで、**FUNC** を押しながら **SKIP [V/M]** を短く押します。

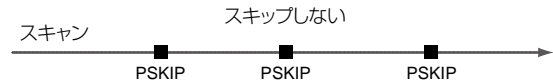
押すたびに「PSKIP」表示の点灯/消灯が切り替わります。



- PSKIPが点灯：PSKIPを指定した周波数をスキップします。



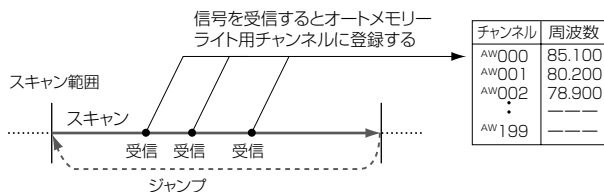
PSKIPが消灯：スキップしません。(PSKIPを指定した周波数もスキャンします。)



6 スキャン機能を使う

■ オートメモリーライトスキャンを使う

スキャン中に受信した周波数を、オートメモリーライト用チャンネル(AW000～AW199)に自動で登録できます。



◇ オートメモリーライト用チャンネルに登録する

1. VFOモードでスキャンを開始します。

2. スキャン中に **[S.MW]** **[V/M]** を短く押します。
オートメモリーライトスキャンを開始します。

※ すべてのオートメモリーライト用チャンネル(AW000～AW199)が登録済みのときは、オートメモリーライトスキャンに切り替わりません。



オートメモリーライト
スキャン表示



〈信号を受信すると〉

- 約5秒間一時停止して、受信した周波数がオートメモリーライト用チャンネルのAW000に、自動的に登録されます。
※登録するときに「ピピッ」と鳴ります。
※以前に登録したオートメモリーライト用チャンネルがあれば、上位チャンネルに繰り上げます。
※受信した周波数がすでにオートメモリーライト用チャンネルに登録されていた場合、古いチャンネルは消去され、新たにAW000に登録されます。
※5秒以内に **[DIAL]** を回してスキャンを再開すると、自動登録は取り消されます。
- 登録が終わると、自動的にスキャンを再開します。
※すべてのオートメモリーライト用チャンネル(AW000～AW199)がオートメモリーライトスキャンによる自動登録に使用されると、スキャンを停止します。

信号を受信して
スキャンが一時停止する



オートメモリーライト用
チャンネルに書き込まれる

チャンネル	周波数
AW000	85.100
AW001	80.200
AW002	78.900
AW003	---
⋮	⋮
AW199	---

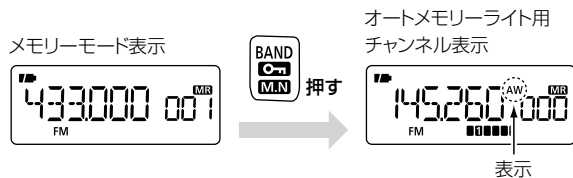
→ スキャンを
再開

- オートメモリーライトスキャンを停止するときは、再度 **[S.MW]** **[V/M]** を短く押します。
「**[MR]**」表示が消灯します。
VFOモードのスキャンを停止するときは、 **[SCAN]** **[MODE]** を短く押します。

◇ オートメモリーライト用チャンネルを呼び出す

1. メモリーモードで **[BAND]** を短く押して、オートメモリーライト用チャンネル表示を選択します

- **[BAND]** を押しながら **[DIAL]** を回しても選択できます。



2. **[DIAL]** を回して、オートメモリーライト用チャンネルを呼び出します。



【ご参考】

オートメモリーライト用のチャンネルは、メモリーチャンネルにコピーできます。☞ **【メモリー内容をほかのメモリーチャンネル番号にコピーする】**(P39)

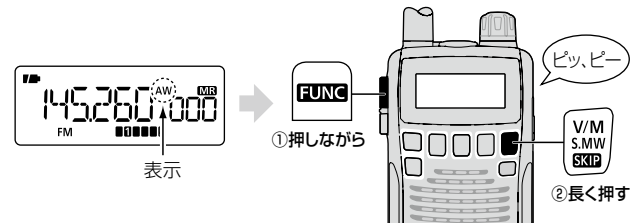
◇ オートメモリーライト用チャンネルを消去する

※すべてのオートメモリーライト用チャンネルが消去されます。
(1チャンネルごとの消去はできません。)

1. メモリーモードで **[BAND]** を短く押して、オートメモリーライト用チャンネル表示を選択します

- **[BAND]** を押しながら **[DIAL]** を回しても選択できます。

2. **[FUNC]** を押しながら **[S.MW]** **[V/M]** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。



6 スキャン機能を使う

■ メモリーモードのスキャンについて

メモリーモードのスキャンには、以下の4種類があります。

- **M-ALL (メモリーオールスキャン 𠄎P66)**
すべてのメモリーチャンネルをスキャンします。
- **B-ALL (バンクオールスキャン 𠄎P67)**
すべてのバンクのメモリーチャンネルをスキャンします。
- **BANK-* (バンクスキャン 𠄎P67)**
指定したバンクのメモリーチャンネルをスキャンします。
- **B-LINK (バンクリンクスキャン 𠄎P68)**
複数のバンクを連続してスキャンします。

【ご参考】

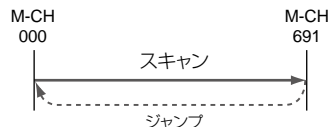
「SKIP」または「PSKIP」を指定しているメモリーチャンネルは、スキップしてスキャンします。

𠄎【メモリーチャンネルごとにスキップを指定/解除する】(P70)

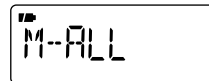
◇ M-ALL(メモリーオールスキャン)

登録されているすべてのメモリーチャンネルをスキャンします。

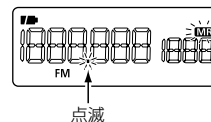
(例)プリセットされているすべてのメモリーチャンネル



1. メモリーモードで **[SCAN] [MODE]** を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押します。
2. **[DIAL]** を回して、**[M-ALL (メモリーオールスキャン)]** を選択します。



3. **[SCAN] [MODE]** を短く押します。
表示しているメモリーチャンネルの次のチャンネルから、スキャンを開始します。



- スキャンを停止するときには、再度 **[SCAN] [MODE]** を短く押します。

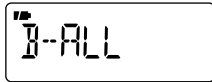
◇ B-ALL(バンクオールスキャン)

すべてのバンクに登録されているメモリーチャンネルをスキャンします。

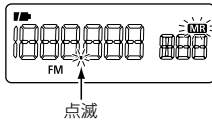
(例) プリセットされているすべてのメモリーバンク



1. メモリーモードで **[SCAN] [MODE]** を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押します。
2. **[DIAL]** を回して、**「B-ALL (バンクオールスキャン)」** を選択します。



3. **[SCAN] [MODE]** を短く押します。
表示しているバンク番号から、アップスキャンを開始します。

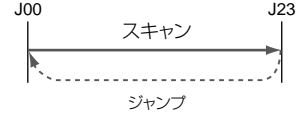


- スキャンを停止するときは、再度 **[SCAN] [MODE]** を短く押します。

◇ BANK-* (バンクスキャン)

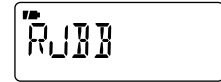
選択したバンクチャンネルに登録されているメモリーチャンネルをスキャンします。

(例) RJBB (BANK-J)



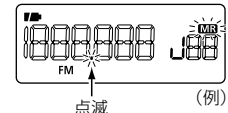
1. メモリーモードで **[SCAN] [MODE]** を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押します。
2. **[DIAL]** を回して、**「BANK-* (バンクスキャン)」** を選択します。

- バンクネームが書き込まれている場合は、バンクネームが表示されます。



バンクネームが書き込まれている場合の例

3. **[SCAN] [MODE]** を短く押します。
選択したバンクのスキャンを開始します。



- スキャン中にバンクを切り替えるときは、**[BAND]** を短く押します。**[BAND]** を押しながら **[DIAL]** を回しても切り替わります。
- スキャンを停止するときは、再度 **[SCAN] [MODE]** を短く押します。

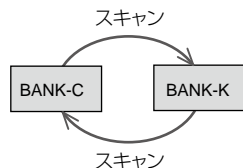
6 スキャン機能を使う

■ メモリーモードのスキャンについて

◇ B-LINK(バンクリンクスキャン)

「B-LINK」(バンクのリンク設定)でリンクを指定したバンクチャンネルを、連続してスキャンします。

(例) バンクリンクにBANK-CとBANK-Kが
リンク設定されている場合



※プリセットですべてのバンクをリンク設定しています。(ただしBANK-R以降はバンクにメモリーチャンネルが登録されていないので、スキャンされません。)

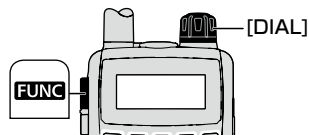
〈バンクリンクを設定/解除する〉

《例》「BANK-C」と「BANK-K」のリンクを設定する

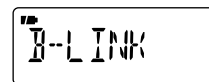
1. **SET** [TS]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押してSETモードにし、**[DIAL]**を回して**[EXPAND]**(機能拡張の設定)を選択します。



2. **FUNC**を押しながら**[DIAL]**を回して、**[ON]**を選択します。



3. **[DIAL]**を回して、**[B-LINK]**(バンクのリンク設定)を選択します。



4. **SCAN** [MODE]を短く押します。
バンクが表示されます。



(例)

5. **[DIAL]**を回してリンクを設定または解除したいバンクを選択します。



6. **FUNC**を押しながら**[DIAL]**を回して、**[ON/OFF]**を切り替えます。



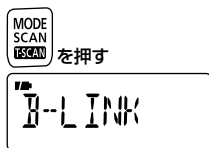
「BANK-B」のリンク設定を解除

- ON：選択中のバンクのリンクを設定します。(初期設定)
- OFF：選択中のバンクのリンクを解除します。

※ 「BANK-C」と「BANK-K」をスキャンするには、「BANK-C」と「BANK-K」以外を「OFF」にします。

7. 設定が終了したら、**SCAN** **[MODE]**を短く押します。

設定を書き込んで、『B-LINK』画面に戻ります。



8. **SET** **[TS]**を短く押して、SETモードを解除します。

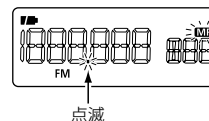


〈バンクリンクスキャンを開始する〉

1. メモリーモードで**SCAN** **[MODE]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
2. **[DIAL]**を回して、『B-LINK (バンクリンクスキャン)』を選択します。



3. **SCAN** **[MODE]**を短く押します。
リンク指定されたバンクのスキャンを開始します。



- スキャンを停止するときには、再度**SCAN** **[MODE]**を短く押します。

6 スキャン機能を使う

■ メモリーチャンネルごとにスキップを指定/解除する

メモリーチャンネルごとに、スキップ(SKIPまたはPSKIP)を指定する/スキップの指定を解除する設定をします。

※プログラムスキャン用チャンネルとオートメモリーライト用チャンネルでは、SKIP/PSKIPの指定はできません。

1. スキップを指定または解除するメモリーチャンネルを選択します。

☞【メモリーモードの基本操作】(P34)

- バンク番号からも設定できます。

2. **FUNC** を押しながら **SKIP [V/M]** を短く押します。

押すごとに「SKIP」→「PSKIP」→「OFF (消灯)」→「SKIP」…と表示が切り替わります。

● SKIP :

〔メモリーモードのスキャン時〕スキップします。
〔VFOモードのスキャン時〕スキップしません。

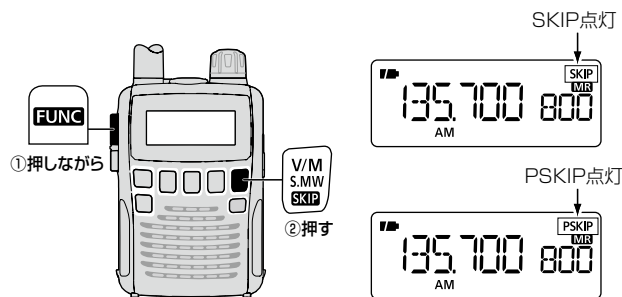
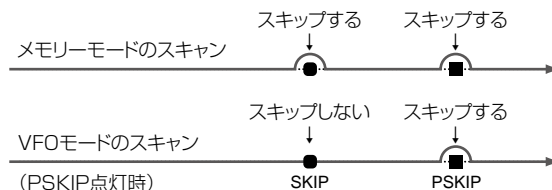
PSKIP :

〔メモリーモードのスキャン時〕スキップします。
〔VFOモードのスキャン時〕選択したメモリーチャンネルに割り当てられている周波数をスキップします。

OFF :

スキップの指定を解除して、スキャンの対象にします。

- 次のスキャン時に、SKIPまたはPSKIPを指定したメモリーチャンネルをスキップします。



【ご参考】

スキャンしながら受信中のメモリーチャンネルにも、手順2の操作でSKIP/PSKIPを指定できます。

■ プライオリティースキャンについて

プライオリティースキャンは、通常の受信をしながらプライオリティチャンネル(特定の周波数やメモリーチャンネル)を一定の時間毎に受信(監視)できる機能です。

FMラジオを受信しながら航空無線を監視(スキャン)するなど、常に2つの周波数を受信したい場合などに使用します。

● 2つの周波数を交互に受信する(☞P71)

VFOモードの周波数と特定のチャンネルの周波数を交互に受信します。

● スキャンしながら特定の周波数を受信する(☞P74)

VFOモードでスキャン中の周波数と特定のチャンネルの周波数を交互に受信します。

● 特定の周波数を交互に受信しながらスキャンする(☞P75)

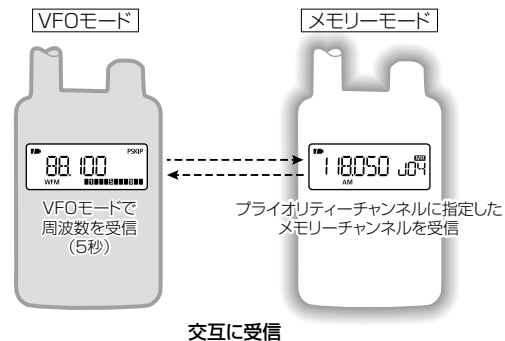
VFOモードの周波数を受信しながら、スキャン中のメモリーチャンネルを交互に受信します。

● 複数のチャンネルを交互にスキャンしながら受信する(☞P77)

VFOモードの周波数とメモリーチャンネルを交互にスキャンしながら受信します。

◇ 2つの周波数を交互に受信する

VFOモードの周波数を受信しながら、特定のチャンネル(メモリーチャンネル/プログラムスキャン用チャンネル/バンクチャンネル/オートメモリーライト用チャンネル)の周波数を約5秒に1回受信します。



【ご参考】

手順4から開始すると、直近に受信したVFOモードの周波数とメモリーチャンネルでプライオリティースキャンを開始します。

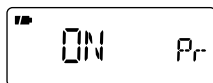
1. VFOモードで受信したい周波数を設定します。
2. **V/M** を短く押してメモリーモードにし、プライオリティチャンネルに指定したいメモリーチャンネルを呼び出します。

6 スキャン機能を使う

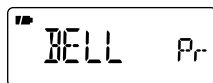
■ プライオリティースキャンについて(つづき)

セットモードでプライオリティースキャン動作を選択する

3. **[SET]** **[TS]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、セットモードにします。
4. **[DIAL]**を回して**[PRIO]**(プライオリティースキャンの設定)を選択します。
5. **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、プライオリティースキャン動作を選択します。
 - OFF： 動作をしません。(初期設定)
 - ON： プライオリティースキャンが動作します。
 - BELL： 信号を受信すると、「ピロピロピロ」とベル音を鳴らして、『(・)』(ベルマーク表示)が点滅します。



『ON』選択時



『BELL』選択時

6. **[SET]** **[TS]**を短く押します。
『PRIO』表示が点灯して、プライオリティースキャンを開始します。
プライオリティースキャンの信号を受信すると、スキャンが一時停止し、『BELL』を選択している場合、ベル音で受信を知らせます。
☞【プライオリティースキャン動作】(P73)
- プライオリティースキャンを停止するときは、再度**[SET]** **[TS]**を短く押します。

交互にスキャンしながら受信する

1. VFOモードで受信する



2. メモリーチャンネルを呼び出す



プライオリティースキャン動作を選択する

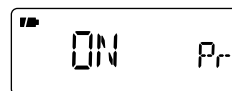
3. **[TS SET VOL]**を長く押し

4. **[DIAL]**を回して『PRIO』を選択する



(初期設定)

5. 動作を選択する

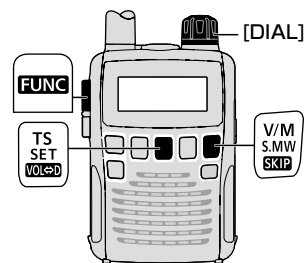


(ON選択時)

6. **[TS SET VOL]**を短く押し



プライオリティースキャン開始



〈プライオリティスキャン動作〉

● ON選択時

VFOモードで5秒間受信し、プライオリティーチャンネルに切り替わります。
 プライオリティーチャンネルの信号を受信すると、その画面で一時停止します。



M-CHを受信すると
一時停止して「PRIORITY」が点滅

プライオリティーチャンネルで受信した音声を聴くには、一時停止中に **SET** [TS] を短く押して、プライオリティスキャンを停止します。

※VFOモードで受信中にプライオリティスキャンを停止した場合は、 **V/M** を短く押してメモリーモードにします。

※一時停止の時間を変更するには【スキャン一時停止タイマーの設定】(P86)を参照してください。

● BELL選択時

VFOモードで5秒間受信し、プライオリティーチャンネルに切り替わります。

プライオリティーチャンネルの信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面で『(・)』(ベルマーク表示)が点滅します。



M-CHを受信すると「(・)」が点滅

プライオリティーチャンネルで受信した音声を聴くには、 **SET** [TS] を短く押してプライオリティスキャンを停止し、 **V/M** を短く押してメモリーモードにします。

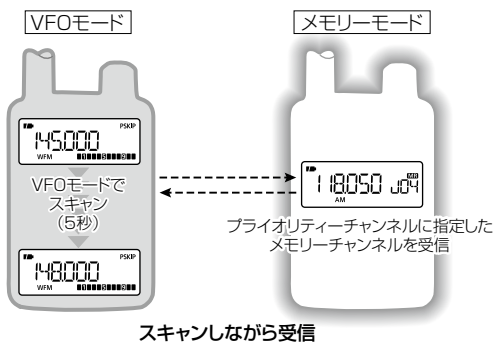
6 スキャン機能を使う

■ プライオリティースキャンについて(つづき)

◇ スキャンしながら特定の周波数を受信する

VFOモードでスキャンをしながら、特定のチャンネル(メモリーチャンネル/プログラムスキャン用チャンネル/バンクチャンネル/オートメモリーライト用チャンネル)の周波数を約5秒に1回受信します。

受信(多チャンネル)×受信(1チャンネル)のイメージです。



1. メモリーモードで、プライオリティーチャンネルに指定したいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. **[SET] [TS]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、セットモードでプライオリティースキャン動作を選択します。
(☞ P72 手順4~5)
3. **[SET] [TS]**を短く押します。
『PRIO』表示が点灯し、VFOモードに切り替わります。

4. **[SCAN] [MODE]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、**[DIAL]**を回してスキャンの種類(☞ P57)を選択します。

5. **[SCAN] [MODE]**を短く押します。

VFOモードのスキャンとメモリーチャンネルによる、プライオリティースキャンを開始します。

プライオリティーチャンネルの信号を受信すると、スキャンが一時停止し、『BELL』を選択している場合、ベル音で受信を知らせます。

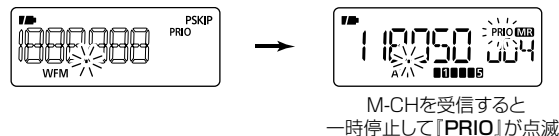
☞ 【プライオリティースキャン動作】(下記)

- プライオリティースキャンを停止するときは、再度 **[SET] [TS]**を短く押します。

〈プライオリティースキャン動作〉

● ON選択時

VFOモードで5秒間スキャンし、プライオリティーチャンネルに切り替わります。
プライオリティーチャンネルの信号を受信すると、その画面で一時停止します。



プライオリティーチャンネルで受信した音声を聴くには、一時停止中に **[SET] [TS]**を短く押して、プライオリティースキャンを停止します。

※VFOモードで受信中にプライオリティースキャンを停止した場合は、**[V/M]**を短く押してメモリーモードにします。
 ※一時停止の時間を変更するには【スキャン一時停止タイマーの設定】(P86)を参照してください。

● BELL選択時

VFOモードで5秒間スキャンし、プライオリティースキャンに切り替わります。
 プライオリティースキャンの信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面で『(●)』(ベルマーク表示)が点滅します。



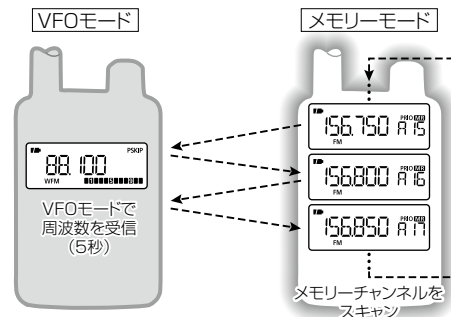
M-CHを受信すると『(●)』が点滅

プライオリティースキャンで受信した音声を聴くには、**[SET]**
[TS]を短く押してプライオリティースキャンを停止し、**[V/M]**を短く押してメモリーモードにします。

◇ 特定の周波数を交互に受信しながらスキャンする

VFOモードの周波数を受信しながら、複数の特定のチャンネル(メモリーチャンネル/バンクチャンネル)を約5秒に1回、順番に受信(スキャン)します。

受信(1チャンネル)×受信(多チャンネル)のイメージです。



交互に受信しながらスキャン

1. VFOモードで受信したい周波数を設定します。
2. **[V/M]**を短く押して、メモリーモードにします。
3. **[SCAN]** **[MODE]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、**[DIAL]**を回してスキャンの種類(P66)を選択し、プライオリティースキャンを指定します。
4. **[SCAN]** **[MODE]**を短く押します。
 手順3で選択したスキャンを開始します。

6 スキャン機能を使う

■ プライオリティースキャンについて(つづき)

5. **SET** [TS]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、セットモードでプライオリティースキャン動作を選択します。
(☞P72 手順4～5)

6. **SET** [TS]を押します。
『PRIO』表示が点灯して、プライオリティースキャンを開始します。

プライオリティースキャンの信号を受信すると、スキャンが一時停止し、『BELL』を選択している場合、ベル音で受信を知らせます。

☞【プライオリティースキャン動作】(右記)

- プライオリティースキャンを停止するときは、再度

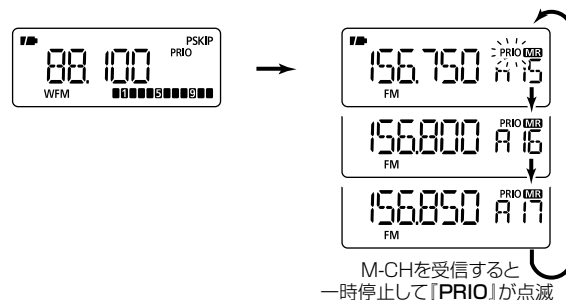
SET [TS]を短く押します。

〈プライオリティースキャン動作〉

● ON選択時

VFOモードで5秒間受信し、プライオリティースキャンに切り替わります。

プライオリティースキャンの信号を受信すると、その画面で一時停止します。



プライオリティースキャンで受信した音声を聴くには、一時停止中に **SET** [TS]を短く押して、プライオリティースキャンを停止します。

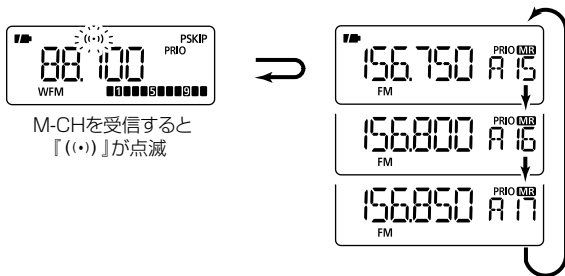
※VFOモードで受信中にプライオリティースキャンを停止した場合は、**V/M**を短く押してメモリーモードにします。

※一時停止の時間を変更するには【スキャン一時停止タイマーの設定】(☞P86)を参照してください。

● BELL選択時

VFOモードで5秒間受信し、プライオリティーチャンネルに切り替わります。

プライオリティーチャンネルの信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面で『(●)』(ベルマーク表示)が点滅します。



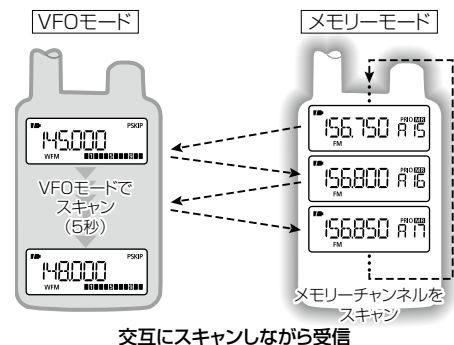
M-CHを受信すると
『(●)』が点滅

プライオリティーチャンネルで受信した音声を聴くには、**SET**
[TS]を短く押してプライオリティースキャンを停止し、**V/M**を
短く押してメモリーモードにします。

◇ 複数のチャンネルを交互にスキャンしながら受信する

VFOモードでスキャンをしながら、メモリーモードで複数の特定のチャンネル(メモリーチャンネル/バンクチャンネル)を約5秒に1回、順番に受信(スキャン)します。

受信(多チャンネル)×受信(多チャンネル)のイメージです。



交互にスキャンしながら受信

【ご注意】

メモリーモードのスキャンから開始してください。VFOモードのスキャンを先に開始すると、【スキャンしながら特定の周波数を受信する】(※P74)の動作になります。

6 スキャン機能を使う

■ プライオリティースキャンについて(つづき)

1. メモリーモードで **[SCAN]** **[MODE]** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
2. **[DIAL]** を回してスキャンの種類(☞P66)を選択し、プライオリティチャンネルを指定します。
3. **[SCAN]** **[MODE]** を押します。
手順2で選択したスキャンを開始します。
4. **[SET]** **[TS]** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、セットモードでプライオリティースキャン動作を選択します。(☞P72 手順4～5)。
5. **[SET]** **[TS]** を押します。
『**PRIO**』表示が点灯し、VFOモードに切り替わります。
6. **[SCAN]** **[MODE]** を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、**[DIAL]** を回してスキャンの種類(☞P57)を選択します。
7. **[SCAN]** **[MODE]** を押します。

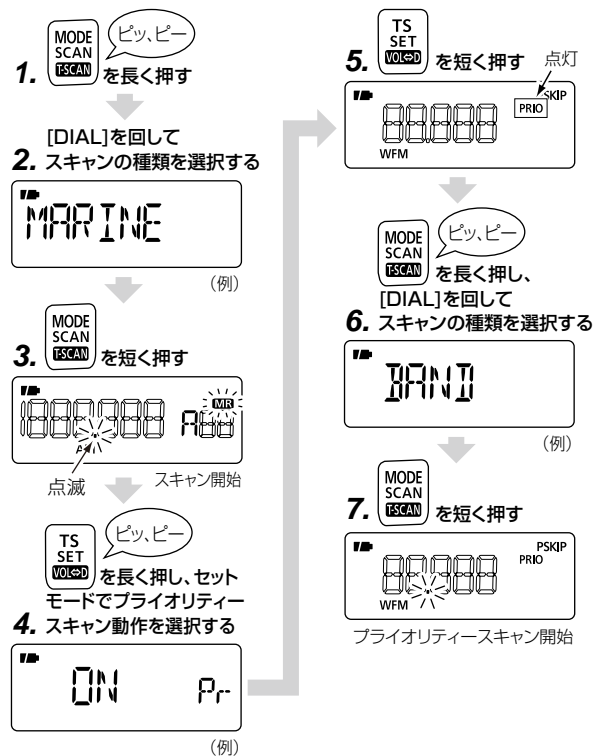
VFOモードとメモリーモードのスキャンによる、プライオリティースキャンを開始します。

プライオリティチャンネルの信号を受信すると、スキャンが一時停止し、『**BELL**』を選択している場合、ベル音で受信を知らせます。

☞【プライオリティースキャン動作】(P79)

- プライオリティースキャンを停止するときは、再度 **[SET]** **[TS]** を短く押します。

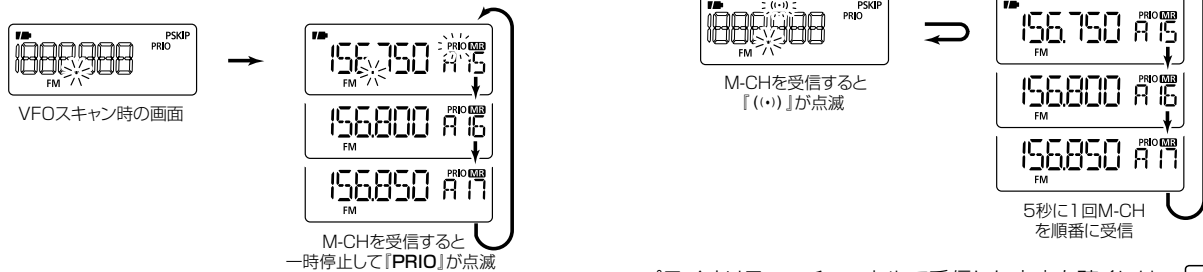
複数のチャンネルを交互にスキャンしながら受信する



〈プライオリティスキャン動作〉

● ON選択時

VFOモードで5秒間スキャンし、プライオリティーチャンネルに切り替わります。
 プライオリティーチャンネルの信号を受信すると、その画面で一時的に停止します。



プライオリティーチャンネルで受信した音声を聴くには、一時停止中に **SET** [TS] を短く押して、プライオリティスキャンを停止します。

※VFOモードで受信中にプライオリティスキャンを停止した場合は、**V/M** を短く押してメモリーモードにします。

※一時停止の時間を変更するには【スキャン一時停止タイマーの設定】(P86)を参照してください。

● BELL選択時

VFOモードで5秒間スキャンし、プライオリティーチャンネルに切り替わります。
 プライオリティーチャンネルの信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面で『(●)』(ベルマーク表示)が点滅します。

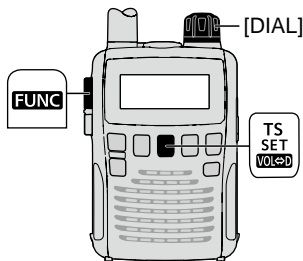
プライオリティーチャンネルで受信した音声を聴くには、**SET** [TS] を短く押してプライオリティスキャンを停止し、**V/M** を短く押してメモリーモードにします。

■ SETモードの設定方法

初期設定されている受信条件を、受信する状況やお好みの使いかたに応じて、変更するモードです。

なお、SETモードのEXPAND(拡張機能)により、さらに多様な受信条件を設定することができます。

各項目で変更できる受信条件を次のページから記載しておりますので、このページと併せてご覧ください。

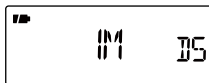


◇ SETモードにする

1. **[SET]** [TS]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。(設定項目を表示します)
2. **[DIAL]**を回して、設定項目を選択します。(以下は「D SEL」の場合)



3. 手順2の項目選択の1秒後に、設定内容が表示されます。



4. **[FUNC]** を押しながら **[DIAL]** を回して、設定内容を選択します。

※ つづけて設定するときには、手順2～4を繰り返し操作してください。



5. **[SET]** [TS]を短く押してSETモードを解除します。



◇ EXPAND(拡張機能)の選択

1. **[SET]** [TS]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。(設定項目を表示します)
2. **[DIAL]**を回し、**[EXPAND]**の設定項目を選択します。

1秒後に「OFF」または「ON」の表示に切り替わります。



3. **[FUNC]** を押しながら **[DIAL]** を回して、**[ON]**を選択します。



※ 「OFF」を選択するとEXPAND(拡張機能) SETモードの項目は表示されません。

4. **[DIAL]**を回して、拡張設定項目を選択します。

5. **[FUNC]** を押しながら **[DIAL]** を回して、設定内容を選択します。

6. **[SET]** [TS]を短く押してSETモードを解除します。

■ 設定項目の一覧表

初期設定されている受信条件を、受信する状況やお好みの使いかたに応じて、変更するためのモードです。

◇ SETモード項目

SETガイド	項目名称	ページ
D SEL	ダイヤルセレクトの設定	P82
PRIO	プライオリティスキャンの設定	P82
BEEP	ビーブ音(操作音)の設定	P82
BEEPLV	ビーブ音(操作音)レベルの設定	P83
LIGHT	ディスプレイのバックライトの設定	P83
P SAVE	パワーセーブ機能の設定	P83
ANT	アンテナ切り替えの設定	P84
EXPAND	拡張機能のON/OFFの設定	P84

【項目一覧表の「*」マークについて】

※VFOモード時は、バンドごとに設定できます。

※メモリーモード時は、すべてのメモリーチャンネルに独立して設定を記憶できます。

1「AFフィルターの設定」は、「」マークの条件に加えて、受信モード(AM/FM/WFM)ごとにも設定できます。

*2「空線信号周波数の設定」は、「空線キャンセラー機能の設定」で「TRAIN1」が選択されているときに設定できます。

◇ EXPAND SETモード項目

SETガイド	項目名称	ページ
LOCK	キーロック機能の設定	P84
SPEED	ダイヤルスピードの設定	P85
MONI	モニター(SQL)ホールド機能の設定	P85
AP OFF	オートパワーオフ機能の設定	P85
PAUSE	スキャン一時停止タイマーの設定	P86
RESUME	スキャン再スタートタイマーの設定	P86
STOP B	スキャン停止時ビーブ音の設定	P86
OFFSET	オフセット周波数の設定*	P87
DUP	デュプレックスモードの設定*	P87
TSQL	トーンスケルチ受信モードの設定*	P88
TSQL	トーン周波数の設定*	P88
CODE	DTCSコードの設定*	P89
DTCS P	DTCS位相反転機能の設定*	P89
CANCEL	空線キャンセラー機能の設定*	P89
TFRQ*2	空線信号周波数の設定*	P90
VSC	ボイススケルチコントロール機能の設定*	P90
B-LINK	バンクのリンク設定	P90
P-LINK	プログラムスキャンのリンク設定	P91
CONT	ディスプレイのコントラストの設定	P92
AF FIL	AFフィルターの設定*1	P92
CHARGE	通常充電後の充電方法の設定	P92
CIVADR	CI-Vのアドレスの設定	P93
CIVBAU	CI-Vのボーレートの設定	P93
CIVTRN	CI-Vのトランシーブの設定	P93

7 SETモードの設定

■ 設定項目の詳細について


ダイヤルセレクトの設定	DIAL SEL
周波数を大きく変える操作で、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回したときの、周波数ステップを設定します。	
● 100K : 100kHzステップにします。	100K DS
● 1M : 1MHzステップにします。 (初期設定)	1M DS
● 10M : 10MHzステップにします。	10M DS
プライオリティスキャンの設定	PRIO
プライオリティスキャンの「ON/OFF」およびプライオリティベルを設定します。	
● OFF : 動作しません。(初期設定)	OFF Pr
● ON : プライオリティスキャンをします。	ON Pr
● BELL : プライオリティチャンネルで信号を受信すると、ベル音を鳴らし、ベルマーク「(●)」表示の点滅で受信を知らせます。	BELL Pr

ビープ音(操作音)の設定	BEEP
キーが正しく操作されたかどうかを知らせるビープ音を設定します。	
● OFF : 鳴りません。	OFF BP
● ON : ビープ音を鳴らします。 (初期設定)	ON BP

ビープ音(操作音)レベルの設定

BEEP LV



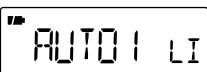
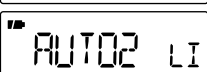
キーが正しく操作されたかどうかを知らせるビープ音およびポケットビープの着呼音の音量を設定します。

- **VOLUME** : 音量に比例したビープ音を鳴らします。
(初期設定) 
- **-----** : 音量に関係なく、個別にビープ音の音量を調整します。
↓ 
- **000000**  **[FUNC]** を押しながら **[DIAL]** を回して音量を調整します。
※ **[DIAL]** を回すごとにビープ音が鳴ります。

ディスプレイのバックライトの設定

LIGHT


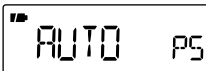
キー操作時にディスプレイのバックライトを点灯するか、しないかを設定します。

- **OFF** : 点灯しません。 
- **ON** : 常時点灯します。 
- **AUTO1** : キーや **[DIAL]** を操作したときに点灯します。なお、約5秒操作しない状態がつづくと、消灯します。(初期設定)
※外部電源使用時でも常時点灯しません。 
- **AUTO2** : AUTO1と同様に動作します。
※外部電源使用時は常時点灯します。 

パワーセーブ機能の設定

P SAVE

電池の電流消費を抑え、電池を長持ちさせるためのパワーセーブ機能を設定します。

- **OFF** : パワーセーブが動作しません。 
- **AUTO** : 無信号状態が約5秒つづくと「1:20(25msec:500msec)」の比率でパワーセーブ機能を開始し、さらに無信号の状態が60秒つづくと「1:40(25msec:1sec)」の比率で動作します。
(初期設定) 

7 SETモードの設定

アンテナ切り替えの設定

ANT

受信用のアンテナを付属の外部アンテナから、内蔵のバーアンテナ、または接続されたイヤホンアンテナとして使用するイヤホンアンテナに切り替えできます。

※イヤホンアンテナに切り替えた場合でも、外部アンテナで受信できます。

- **EXT** : 付属の外部アンテナで受信します。(初期設定)

EXT ANT

- **BAR** : 内蔵のバーアンテナで受信します。

※AMモードに設定時、AM放送(1M)バンドでAMラジオ放送の周波数帯(0.495~1.620MHz)を選択しているときだけ表示します。

BAR ANT

- **EAR** : イヤホンアンテナで受信します。

※AMラジオ放送の周波数帯以外の周波数を選択しているときに表示します。

EAR ANT

拡張機能のON/OFFの設定

EXPAND

セットモードの拡張項目を表示するか、しないかを設定します。

- **OFF** : 初期項目だけを表示する。(初期設定)
- **ON** : 初期項目と拡張項目を表示する。

OFF E%

ON E%

※拡張機能(EXPAND)を「ON」にすると、下記以降の項目が表示され、設定できます。

キーロック機能の設定

LOCK

[DIAL]およびキーの操作を無効にするキーロック機能を設定します。

- **NORMAL** : 音量設定の[▲]/[▼]、[SQL]を除くキーをロックします。(初期設定)
- **NO SQL** : [SQL]を除くキーをロックします。
- **NO VOL** : 音量設定の[▲]/[▼]を除くキーをロックします。
- **ALL** : すべてのキーをロックします。

NORMAL LK

NO SQL LK

NO VOL LK

ALL LK

ダイヤルスピードの設定

SPEED

[DIAL]を速く回したとき、周波数の変化をスピードアップするか、しないかを設定します。

- OFF : [DIAL]を回す速度に合わせます。
- ON : スピードアップします。
(初期設定)

モニター(SQL)ホールド機能の設定

MONI

[SQL]の機能(スケルチを開いて受信をする)を、キーを押しているあいだ動作させるか、1回押すごとに[ON/OFF]させるかを設定します。

- PUSH : 押しているあいだだけスケルチを開きます。
(初期設定)
- HOLD : 1回押すとモニターを「ON」にし、もう一度押すと、「OFF」にします。

オートパワーオフ機能の設定

AP OFF

自動的に電源を「OFF」するオートパワーオフ機能を設定します。キー操作や[DIAL]操作のない状態が一定時間(下記の設定時間)つづくと、自動的に電源を切ります。

- OFF : オートパワーオフ機能が動作しません。(初期設定)
- 30~120 : 30分/60分/90分/120分後に電源を切ります。
- BUSY : 信号を受信しない状態が3分間つづくと、ビープ音(ピピピピピ音)を鳴らして電源を切ります。

※ オートパワーオフで電源が切れても、機能は有効です。この機能を解除するには、「OFF」に設定してください。

7 SETモードの設定

スキャン一時停止タイマーの設定

PAUSE

スキャン中に信号を受信すると、一定時間スキャンを一時停止するタイマーを設定します。

設定時間だけ受信をつづけ、設定時間になると再スタートします。

- **2~20SEC** : 2秒~20秒のタイマーが2秒ごとに設定できます。

10SEC PA

なお、一時停止中に信号がなくなると、「スキャン再スタートタイマー」の条件で再スタートします。

HOLD PA

(初期設定値: 10秒)

- **HOLD** : 信号を受信中は一時停止をつづけ、信号がなくなると再スタートします。

スキャン再スタートタイマーの設定

RESUME

スキャンの一時停止後、受信信号が途切れてからの再スタートの条件(時間)を設定します。

- **OSEC** : 信号がなくなると、同時に再スタートします。
- **1~5SEC** : 信号がなくなると、1秒~5秒の各設定時間後、再スタートします。
(初期設定値: 2秒)
- **HOLD** : 信号がなくなっても一時停止状態を保持します。
(再スタートは[DIAL]操作)

2SEC rE

HOLD rE

スキャン停止時ビープ音の設定

STOP B

各種スキャンが停止したときに、ビープ音を鳴らすか、鳴らさないかを設定します。

- **OFF** : スキャンが停止しても、ビープ音は鳴りません。
(初期設定)
- **ON** : スキャンが停止すると、ビープ音(ピー)を鳴らします。

OFF SB

ON SB

オフセット周波数の設定

OFF SET

デュプレックスモードで受信する、オフセット周波数を設定します。
デュプレックスモードで運用している局が使用している送信周波数と受信周波数の周波数差を設定します。

- 0.000～159.995MHzの範囲で設定できます。

初期設定値

430MHz/1200MHz帯以外
: 0.000MHz

0000 0w

430MHz帯 : 5.000MHz
1200MHz帯 : 20.000MHz

159995 0w

※ 設定しているチューニングステップ
(P24)にしたがってシフト幅が切り替わります。

デュプレックスモードの設定

DUP

送信と受信で異なった周波数を使用するデュプレックスモードで、
交信中の通信を受信するために設定します。

- OFF : デュプレックスを使用しない。
(初期設定)
- -DUP : 設定周波数とオフセット分低い周波数が受信できます。
- +DUP : 設定周波数とオフセット分高い周波数が受信できます。

OFF DP

--DUP DP

+DUP DP

7 SETモードの設定

トーンスケルチ受信モードの設定		TSQL
TSQL(トーンスケルチ)、DTCS(デジタルトーンコードスケルチ)、TSQL/DTCSポケットビープの受信モードを設定します。 ※受信モードが「FM」のときに設定できます。		
● OFF	: トーンを使用しません。 (初期設定)	OFF TO
● TSQL (⊙)	: ポケットビープ機能が有効なトーンスケルチ受信モードにします。	TSQL TO
● TSQL	: トーンスケルチ受信モードにします。	TSQL TO
● DTCS (⊙)	: ポケットビープ機能が有効なDTCS受信モードにします。	DTCS TO
● DTCS	: DTCS受信モードにします。	DTCS TO
● TSQL-R	: 逆トーンスケルチ受信モードにします。	TSQL-R TO
● DTCS-R	: 逆DTCS受信モードにします。	DTCS-R TO

トーン周波数の設定		88.5 CT				
トーンスケルチ通信を受信するための、トーン周波数を設定します。						
● 67.0Hz ~254.1Hzの50波の中から	ら選択します。(初期設定: 88.5Hz)	88.5 CT				
トーン周波数一覧表(単位: Hz)						
67.0	88.5	114.8	151.4	177.3	203.5	250.3
69.3	91.5	118.8	156.7	179.9	206.5	254.1
71.9	94.8	123.0	159.8	183.5	210.7	
74.4	97.4	127.3	162.2	186.2	218.1	
77.0	100.0	131.8	165.5	189.9	225.7	
79.7	103.5	136.5	167.9	192.8	229.1	
82.5	107.2	141.3	171.3	196.6	233.6	
85.4	110.9	146.2	173.8	199.5	241.8	

DTCSコードの設定

CODE

DTCS通信を受信するための、DTCSコードを設定します。

- 023～754の104波の中から選択します。
(初期設定値：023)

023

DTCSコード一覧表

023	072	152	244	311	412	466	631
025	073	155	245	315	413	503	632
026	074	156	246	325	423	506	654
031	114	162	251	331	431	516	662
032	115	165	252	332	432	523	664
036	116	172	255	343	445	526	703
043	122	174	261	346	446	532	712
047	125	205	263	351	452	546	723
051	131	212	265	356	454	565	731
053	132	223	266	364	455	606	732
054	134	225	271	365	462	612	734
065	143	226	274	371	464	624	743
071	145	243	306	411	465	627	754

DTCS位相反転機能の設定

DTCS P

DTCSコード検出の位相を設定します。

- NORMAL : 位相を反転しません。
(初期設定)
- REV : 位相を反転します。

NORMAL

REV

空線キャンセラー機能の設定

CANCEL

空線信号、MSK制御信号をキャンセルする機能を設定します。

※受信モードが「FM」のときに設定できます。

- OFF : キャンセラー機能を使用しません。(初期設定)
- TRAIN1 : 空線信号をキャンセルする場合に選択します。
※検出する空線信号の周波数は、次項目「空線信号周波数の設定」で設定します。
- TRAIN2 : 1500HzのシングルトーンとMSK制御信号が交互に切り替わる信号をキャンセルする場合に選択します。
※検出する空線信号の周波数は固定です。
- MSK : MCA無線で聞こえるMSK制御信号をキャンセルする場合に選択します。

OFF

TRAIN1

TRAIN2

MSK

7 SETモードの設定

空線信号周波数の設定

TFRQ

空線信号の周波数の設定をします。

- 300～3000 : 10Hzステップで設定できます。
(初期設定値：2280Hz)

2280 TF

※ 前項目「空線キャンセラー機能の設定」で「TRAIN1」が選択されているときに設定できます。

ボイススケルチコントロール機能の設定

VSC

ボイススケルチコントロール機能を設定します。
受信している信号に音声信号が含まれていれば、スケルチを開き、含まれていなければスケルチを開きません。

- OFF : 動作しません。(初期設定)
- ON : ボイススケルチコントロール機能を設定します。

OFF V/S

ON V/S

バンクのリンク設定

B-LINK

バンクリンクスキャンで、リンクするバンクを選択します。

- B-LINK
BANK-A～BANK-Yの中から選択します。

A-ON BL

※ **SCAN** [**MODE**] を短く押し、
[DIAL] を回してバンクを選択します。

Y-ON BL

FUNC を押しながら **[DIAL]** を回すと、リンク機能を「ON/OFF」します。

SCAN [**MODE**] を短く押すと、「B-LINK」画面に戻ります。

〈リンクの設定〉

ON : 選択したバンクをリンクします。(初期設定)

A-ON BL

OFF : 選択したバンクをリンクしません。

A-OFF BL

プログラムスキャンのリンク設定

P-LINK

プログラムリンクスキャンで、複数のプログラムスキャン(PROG 0~PROG24)をリンク設定します。

プリセットで、リンクチャンネル(LINK0~LINK9)にプログラムスキャン(PROG 1~PROG24)をリンク設定しています。

● P-LINK

LINK0~LINK9の中から選択します。

〈リンク設定のしかた〉

- ① **[SCAN]** **[MODE]** を短く押し、**[DIAL]** を回してリンクチャンネル(LINK0~LINK9)を選択します。

LINK0 PL

LINK9 PL

- ② リンクチャンネルを選択後、**[SCAN]** **[MODE]** を短く押し、**[DIAL]** を回して項目を切り替え、再度 **[SCAN]** **[MODE]** を短く押します。

LINK PLO

ADD PLO

NAME PLO

CLEAR PLO

LINK : リンクされているプログラムスキャンを表示します。
[DIAL] を回すと、プログラムスキャンを確認でき、**[SET]** **[TS]** を短く押すとLINK画面に戻ります。

NAME : リンクチャンネルのネームを入力します。
[FUNC] を押しながら**[DIAL]** を回すと、文字を選択でき、**[DIAL]** を右に回すとカーソルが右に移動し、左に回すとカーソルが左に移動します。
[SCAN] **[MODE]** を短く押すと、ネームを登録してNAME画面に戻ります。

※編集中に **[SET]** **[TS]** を短く押すと、ネーム入力を中止し、NAME画面に戻ります。

※ネームは6文字まで入力できます。
(使用可能文字一覧：P50)

ADD : プログラムスキャンを追加します。
[DIAL] を回してプログラムスキャンを選択します。
[SCAN] **[MODE]** を短く押すと、選択したプログラムスキャンを追加し、ADD画面に戻ります。
※選択中に **[SET]** **[TS]** を短く押すと、中止しADD画面に戻ります。

CLEAR : プログラムスキャンをリンクから解除します。
[DIAL] を回してプログラムスキャンを選択します。
[SCAN] **[MODE]** を短く押すと選択したプログラムスキャンをリンクから解除し、CLEAR画面に戻ります。
※選択中に **[SET]** **[TS]** を短く押すと、中止しCLEAR画面に戻ります。

- ③ **[SET]** **[TS]** を短く3回押すと、SETモードを解除します。

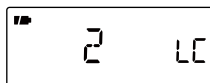
7 SETモードの設定

ディスプレイのコントラストの設定

CONT

ディスプレイのコントラストを設定します。

- 1～5 : 1(淡)～5(濃)の範囲で設定
できます。
(初期設定値 : 2)

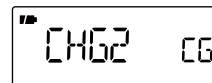
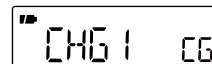


通常充電後の充電方法の設定

CHARGE

15時間の充電完了後から、微量の電気が消費されていくのを防ぐため、少しずつ充電して常に満充電の状態にする機能を設定します。

- CHG1 : 充電完了後は充電しません。
- CHG2 : 充電完了後も常に満充電になるように充電しつづけます。(初期設定)



AFフィルターの設定

AF FIL

高音域のノイズを抑える、AFフィルター機能を設定します。

※受信モード(FM、WFM、AM)ごとに設定できます。

- OFF : AFフィルター機能を設定しません。(初期設定)
- ON : AFフィルター機能を設定します。



CI-Vのアドレスの設定

CI-V AIR

CI-Vシステムで、本製品を外部からコントロールするときの本製品のアドレスを設定します。

- 01～DFの中から選択します。
(初期設定値：7E)

CI-Vのボーレートの設定

CI-V BAU

CI-Vシステムで、本製品を外部からコントロールするときの通信速度を設定します。

- AUTO/19200bps/9600bps/4800bps/1200bps/300bpsの中から選択します。
(初期設定：AUTO)

※[AUTO]に設定した場合、接続した機器からのデータ通信速度に応じて自動設定します。

CI-Vのトランシーブの設定

CI-V TRN

CI-Vシステムを利用した、トランシーブ機能の「ON/OFF」を設定します。

- OFF：トランシーブ動作をしません。
- ON：受信機の周波数や受信モードなどの設定を変更したとき、接続しているCI-V無線機/受信機の設定も自動的に変更する、トランシーブ動作をします。

逆に、接続しているCI-V無線機/受信機の設定内容が変更されたときは、自動的に受信機の設定内容も変更されます。
(初期設定)

8 各種の交信を受信するために

■ デュプレックス通信を受信する

◇ デュプレックス通信とは

デュプレックス通信とは、通常の交信(シンプレックス:送受信同一周波数)とは異なり、同一バンド内で送信と受信の周波数をずらして交信することです。

◎「+DUP」モードを設定すると、モニター機能を実行したときに、設定周波数からオフセット周波数分高い周波数を受信できます。

◎「-DUP」モードを設定すると、モニター機能を実行したときに、設定周波数からオフセット周波数分低い周波数を受信できます。

デュプレックス通信は、430MHz/1200MHz帯のアマチュア無線用FMレピータシステムや各通信分野で広く利用されています。

本製品にデュプレックスモードを設定すると、ワンタッチの切り替え操作で、送信/受信両方の周波数を受信できます。

デュプレックス通信を受信するときは、オフセット周波数の設定が必要です。

◇ オフセット周波数とは

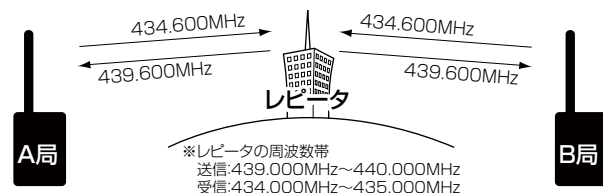
デュプレックス通信で、送信周波数と受信周波数の差をオフセット周波数といいます。

デュプレックスモード、およびオフセット周波数は、SETモードで設定します。(P80)

【例】430MHz帯のレピータ交信を受信するには

レピータとは、山や建物などの障害物で直接交信できない局と交信できたり、通信範囲(通信距離)を拡大したりするための、自動無線中継装置のことです。

レピータ交信の概略と周波数例



- 通常、アマチュア無線で運用される430MHz帯のレピータ交信は、オフセット周波数を5.000MHzに設定しています。上図の場合、レピータは434.600MHzを受信すると、自動的に439.600MHzの周波数に変換して送信します。
- 本製品で上図のような交信を受信するには、デュプレックスモードとオフセット周波数5.000MHzの設定が必要です。
430Mバンド : レピータ受信用に5.000MHzを初期設定
1200Mバンド : レピータ受信用に20.000MHzを初期設定
- デュプレックスモードは、次のように設定します。
本製品の受信周波数を439.600MHz(レピータの送信周波数)に設定したときは「-DUP」モードに、434.600MHz(レピータの受信周波数)に設定したときは「+DUP」モードに設定してください。

◇レピータの周波数を設定する

レピータの周波数帯は、下記のとおりです。

送信：439.000～440.000MHz
 ：1290.000～1293.000MHz
 受信：434.000～435.000MHz
 ：1270.000～1273.000MHz

1. VFOモードで **[BAND]** を短く数回押して、430Mバンド (1200Mバンド) を選択します。
2. **[DIAL]** を回して、439.600MHz (1272.340MHz) を設定します。



◇デュプレックスモードとオフセット周波数を設定する

1. **[SET]** **[TS]** を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押して、SETモードにします。
2. **[DIAL]** を回して、**[EXPAND]** (機能拡張の設定) を選択し、**[FUNC]** を押しながら **[DIAL]** を回して、**[ON]** を選択します。
3. **[DIAL]** を回して、**[DUP]** (デュプレックスの設定) を選択します。

4. **[FUNC]** を押しながら **[DIAL]** を回して、「-DUP」、または「+DUP」を選択します。



5. **[DIAL]** を回して、**[OFFSET]** (オフセット周波数の設定) を選択します。



※ 430MHz帯：5.000MHz/1200MHz帯：20.000MHz、
 その他のバンドは0.000MHzを初期設定しています。
 ※ オフセット周波数を変更するときは、**[FUNC]** を押し
 ながら **[DIAL]** を回して、周波数を設定します。
 ※ VFOモードで設定しているチューニングステップ
 (P24) で動作します。

6. **[SET]** **[TS]** を短く押すと、SETモードを解除してデュプレックスモードになります。



「-DUP」モード設定時



「+DUP」モード設定時

8 各種の交信を受信するために

◇ デュプレックス通信の両周波数を受信する

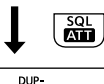
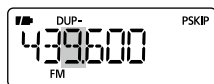
SQL を押します。

- 400Mバンドの場合は押ししているあいだ、5.000MHz(初期設定値)低い434.600MHzを受信します。
- 1200Mバンドの場合は押ししているあいだ、20.000MHz(初期設定値)高い1292.340MHzを受信します。

※ **SQL** を押すと「**-DUP**」モードのとき、オフセット周波数分低い周波数を受信します。

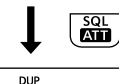
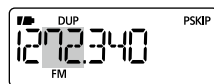
「**+DUP**」モードのときは、オフセット周波数分高い周波数を受信します。

「**-DUP**」モード設定時



5MHzシフトする

「**+DUP**」モード設定時



20MHzシフトする

※ デュプレックスモードを解除するときは、SETモードにして、『**DUP**』(デュプレックスの設定)を『**OFF**』にします。
(☞P87)

■ トーン/DTCSを使った通信を受信する

◇ トーンスケルチ/DTCS機能とは

トーンスケルチは、受信した周波数に重畳したトーン周波数が一致したときだけスケルチが開いて音声が入ります。

アマチュア無線、簡易業務用無線、特定小電力無線などの通信に利用されています。

本製品に設定している周波数およびトーン周波数が同じ信号だけを受信できます。

逆に、自局が設定したトーン周波数やDTCSコードを受信したときだけ、スケルチが開かない逆トーンスケルチ/逆DTCS (TSQL-R/DTCS-R)も用途にあわせてご利用ください。

◇ ポケットビープ機能とは

トーンスケルチ/DTCS機能で受信したとき、ビープ音で知らせる便利な機能です。

呼び出しを受けると、ビープ音「ピロピロピロ」が約30秒間鳴りつづけるとともに、表示部の『(●)』(バルマーク表示)を点滅して知らせ、聞き逃しを防ぎます。

◇ トーン周波数を設定する

1. [SET] [TS]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、SETモードにします。
2. [DIAL]を回して、[EXPAND](機能拡張の設定)を選択し、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、[ON]を選択します。
3. [DIAL]を回して、[TONE](トーン周波数の設定)を選択し、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、トーン周波数を選択します。
4. [SET] [TS]を短く押すと、SETモードを解除します。



トーン周波数の設定

88.5選択時

◇ DTCSコードを設定する

1. [SET] [TS]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、SETモードにします。
2. [DIAL]を回して、[EXPAND](機能拡張の設定)を選択し、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、[ON]を選択します。
3. [DIAL]を回して、[CODE](DTCSコードの設定)を選択し、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、コードを選択します。
4. [SET] [TS]を短く押すと、SETモードを解除します。



DTCSコードの設定

023選択時

◇ トーンスケルチ受信モードを設定する

1. VFOモードで[MODE]を短く数回押し、受信モードを[FM]にします。
2. [SET] [TS]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、SETモードにします。
3. [DIAL]を回して、[EXPAND](機能拡張の設定)を選択し、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、[ON]を選択します。
4. [DIAL]を回して、[TSQL](トーンスケルチ受信モードの設定)を選択します。
5. [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、トーンスケルチ受信モードを選択します。

- OFF : トーンを使用しません。(初期設定)
- TSQL (●●) : ポケットビーブ機能が有効なトーンスケルチ受信モードにします。
- TSQL : トーンスケルチ受信モードにします。
- DTCS (●●) : ポケットビーブ機能が有効なDTCS受信モードにします。
- DTCS : DTCS受信モードにします。
- TSQL-R : 逆トーンスケルチ受信モードにします。
- DTCS-R : 逆DTCS受信モードにします。

6. [SET] [TS]を短く押すと、SETモードを解除し、周波数表示画面にトーンスケルチ受信モードを表示します。



トーンスケルチ受信モードの設定

トーンスケルチによる
ポケットビーブ選択時

8 各種の交信を受信するために

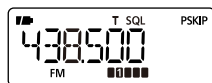
◇ トーン通信/DTCSコード通信を受信すると

- トーンスケルチ機能またはDTCS機能を設定しているときは

設定しているトーン周波数、またはDTCSコードが同じ電波を受信するとスケルチが開き、通信している局の音声が入聞こえます。

※逆トーンスケルチ機能または逆DTCS機能を設定しているときは、トーン周波数、またはDTCSコードが同じ電波を受信するとスケルチが閉じ、それ以外の電波を受信するとスケルチが開きます。

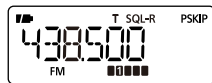
トーンスケルチ



DTCS



逆トーンスケルチ



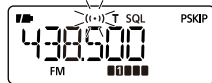
逆DTCS



- ポケットビープ機能を設定しているときは

受信するとベルが約30秒間鳴りつづけ、『(・)』表示が点滅します。

トーンスケルチ(ポケットビープ有効)



DTCS(ポケットビープ有効)

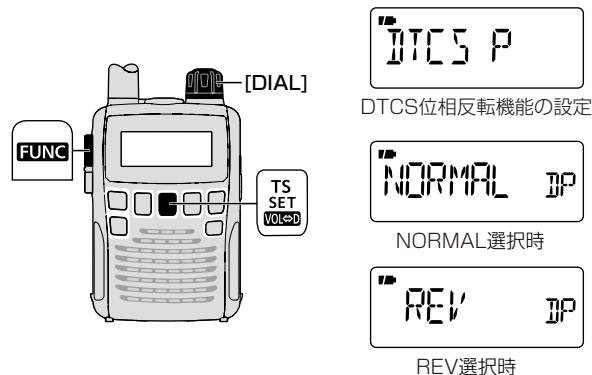


■ DTCS位相反転機能について

受信する局(送出側)にあわせて、DTCSコードの検出の位相を設定できます。

DTCS位相反転機能は、SETモードで変更できます。

1. **[SET]** **[TS]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、SETモードにします。
2. **[DIAL]**を回して、**[EXPAND]**(機能拡張の設定)を選択し、**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、**[ON]**を選択します。
3. **[DIAL]**を回して、**[DTCS P]**(DTCS位相反転機能の設定)を選択します。
4. **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、**[NORMAL]**、または**[REV]**を選択します。
 - **NORMAL** : 位相を反転しません。(初期設定)
 - **REV** : 位相を反転します。
5. **[SET]** **[TS]**を短く押すと、SETモードを解除します。



■ トーン/DTCSコードスキャンのしかた

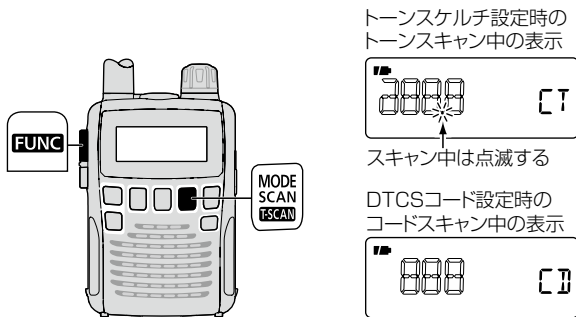
トーンスケルチ機能を使用して交信している局が、どのトーン周波数、またはDTCSコード(P88、P89)を使用しているかを検知するスキャンです。

- VFO/メモリーモードに関係なく動作します。
- スキャン中に[DIAL]を時計回りに回すと、アップスキャンに、反時計回りに回すとダウンスキャンに切り替えます。

◇ スタート操作

1. トーンスケルチ受信モードを設定します。P97の【トーンスケルチ受信モードを設定する】を参照してください。
2. **[FUNC]**を押しながら**[SCAN]** **[MODE]**を短く押すと、トーンスキャンまたはDTCSコードスキャンを開始します。
※ トーンスケルチ、DTCSを設定していない場合は、トーンスキャンになります。
3. **[SCAN]** **[MODE]**を短く押すと、トーンスキャン動作を解除します。

- スキャン中に信号を受信すると、ゆっくりスキャンし、信号がないときは速くスキャンします。
- 一致したトーン周波数またはDTCSコードを検知すると、スキャンが約10秒間(スキャン一時停止タイマーで設定した時間)一時停止し、トーン周波数またはDTCSコードを自動的に書き換えたあと、トーン/コードスキャンを再スタートします。
ただし、メモリーチャンネルでトーン/コードスキャンしたときは、一時的に記憶しますが、書き換えはしません。
- ポケットビープ状態から、トーンスキャンをすると、ポケットビープを解除して、トーン周波数(DTCSコード)スキャンになります。
- 隣接したトーン周波数/DTCSコードを使用している局があると、トーンスケルチが開くことがあります。



9

その他の便利な機能

■ ボイススケルチコントロール機能について

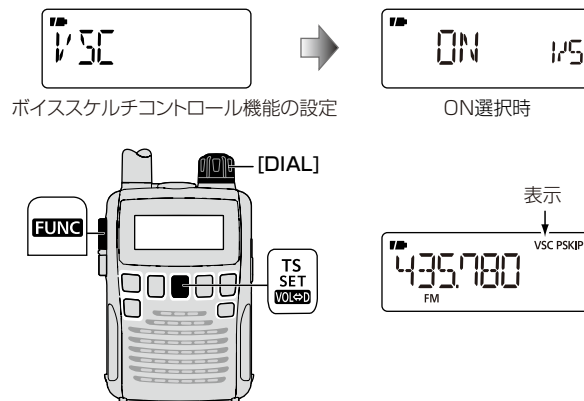
ボイススケルチコントロール(VSC)機能は、受信した信号に音声信号が含まれているかを識別し、スケルチを制御します。音声信号が含まれていればスケルチを開き、含まれていなければスケルチを閉じます。

【ご注意】

VFOモードでVSC機能を「ON」にした場合は周波数を変えても設定は有効ですが、メモリーモードではメモリーチャンネルごとにVSC機能の設定を書き込んでおく必要があります。

※【各機能をメモリーチャンネル、メモリーバンクに書き込む】
(P53)

1. **SET** [TS]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。
2. [DIAL]を回して、[EXPAND] (機能拡張の設定)を選択し、**FUNC**を押しながら[DIAL]を回して、[ON]を選択します。
3. [DIAL]を回して、[VSC] (ボイススケルチコントロール機能の設定)を選択します。
4. **FUNC**を押しながら[DIAL]を回して、[ON]または[OFF]を選択します。
5. **SET** [TS]を短く押すと、SETモードを解除します。
※ [ON]に設定すると、VSC機能による受信状態になります。



ボイススケルチコントロール機能の設定

ON選択時

■ クローニングについて

クローニングとは、1台のIC-R6に設定したメモリーの内容やSETモードの設定内容を、ほかのIC-R6に送出して、同じ設定内容にする機能です。

◇ クローニングのしかた

1. 右図のようにOPC-474(別売品)で接続します。
2. 子機(クローン受信側)の電源を「ON」にします。

【ご注意】

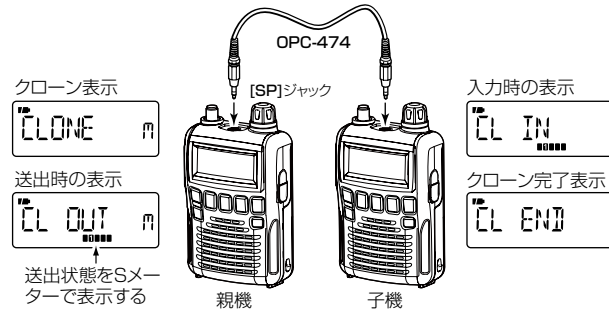
CI-Vボーレートの設定(☞P93)で通信速度を「9600」と「AUTO」以外に設定した場合は、[MODE]を押しながら電源を入れてください。

3. 親機(クローン送信側)の操作

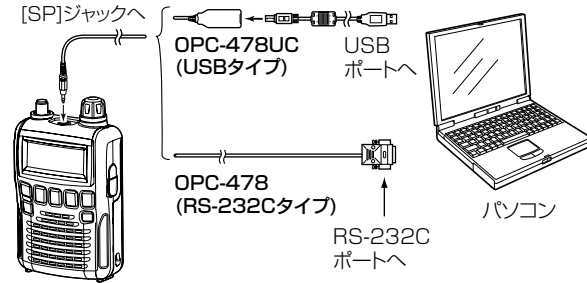
- ① 親機の電源が入っている場合は、[ON]を長く押して、電源を切ります。
- ② [V/M]を押しながら[ON]を長く押して、電源を入れます。
「CLONE M」を表示します。

4. [SQL]を押すと、親機(クローン送信側)では「CL OUT」を表示し、設定内容を送出します。子機(クローン受信側)では「CL IN」を表示します。

- ※ 子機(クローン受信側)に「CL END」を表示して、クローニングが完了します。(親機は「CLONE M」を表示)
- ケーブルをはずして終了します。



◎クローニングには左記の本体同士でのクローニングのほか、パソコン(PC)でクローニングする方法があります。PC用クローニングソフトウェアとして、CS-R6をご用意しています。詳しくは、販売店におたずねください。



9 その他の便利な機能

■ CI-V(リモート)について

IC-R6にパソコンを接続することにより、受信周波数と受信モードを外部制御できます。

コントロールは、ICOM Communication Interface V(CI-V:シーアイファイブ)によるシリアル方式です。

別売品のCT-17(CI-Vレベルコンバーター)を使用することにより、RS-232Cタイプのシリアルポートを持つパソコンが接続でき、外部コントロールができます。

パソコンでアイコムを受信機、および無線機を制御する方法は、CT-17に添付の取扱説明書をご覧ください。

◇ CI-Vのデータ設定について

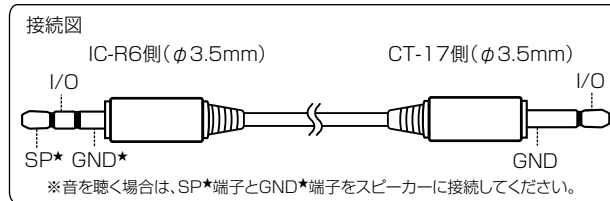
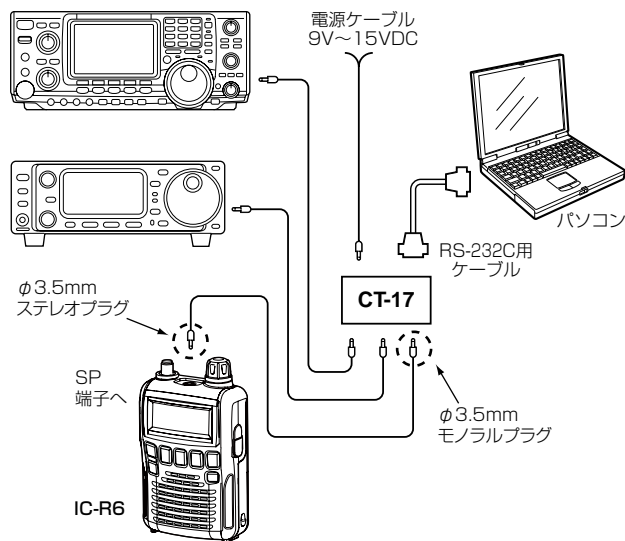
CI-Vシステムを利用して外部コントロールするとき、本製品のアドレス、ボーレート、トランシーブ[ON/OFF]のデータが必要になります。

これらの項目は、SETモードで設定します。(P93)

◇ パソコンの接続

右図に示すケーブルで接続してください。

CT-17に付属のケーブルで接続すると、受信音は聞こえませんので、ご注意ください。



■ CI-Vの基本フォーマットについて

(1) コントローラー(パソコン) → レシーバー(IC-R6)

① プリアンブル				② 受信 アドレス		③ 送信 アドレス		④ コマンド		⑤ サブ コマンド		⑥ データエリア								⑦ EOM	
F	E	F	E	7	E	E	O	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	F	D

(2) レシーバー(IC-R6) → コントローラー(パソコン)

① プリアンブル				② 受信 アドレス		③ 送信 アドレス		④ コマンド		⑤ サブ コマンド		⑥ データエリア								⑦ EOM	
F	E	F	E	E	O	7	E	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	F	D

- ①プリアンブル : データのはじめに挿入する同期用のコードで、「FE(16進)」を2回送致します。
- ②受信アドレス/③送信アドレス : IC-R6の初期アドレスは「7E(16進)」とし、コントローラーは「EO(16進)」としたときの例を示しています。
- ④コマンド : コントロールできる機能を16進2桁でコマンドとしています。(※P104)
- ⑤サブコマンド : コマンド補足命令として16進2桁を用います。(※P104)
- ⑥データエリア : 周波数データなどをセットするエリアで、データにより可変長とします。
- ⑦EOM : メッセージの終わりを示すコードで、「FD(16進)」とします。

9 その他の便利な機能

■ コマンド一覧表

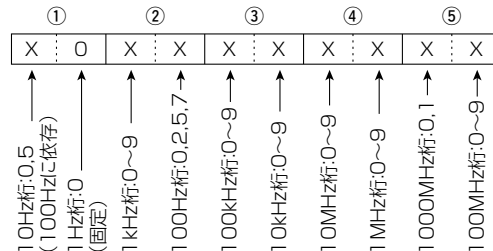
コマンド	サブ	データ	動作
00		右図参照	周波数データの転送(トランシーブ)
01		コマンド 06参照	受信モードの転送(トランシーブ)
03		右図参照	表示周波数の読み込み
04		コマンド 06参照	表示モードの読み込み
05		右図参照	周波数データの設定
06		02	AMモードの設定
		05	FMモードの設定
		06	WFMモードの設定
11	*	00/10	アッテネーター(ATT)の読み込み/設定 ※00=OFF、10=ON(約10dB)
12	*	00/01	アンテナの読み込み/設定 0.495MHz～1.620MHz帯 ※00=EXT、01=BAR* *バーアンテナの設定はAMモード時のみ そのほかの周波数帯 ※00=EXT、01=EAR
14	01*	P105参照	AFゲイン(音量)の読み込み/設定
	03*	P105参照	スケルチレベルの読み込み/設定
15	01	00/01	スケルチの状態(開/閉)の読み込み ※00=閉じる、01=開く
	02	P105参照	Sメーターレベルの読み込み
16	43*	00	トーンスケルチ OFF
		01	トーンスケルチ ON
		02	逆トーンスケルチ ON
	4B*	00	DTCS OFF
		01	DTCS ON
		02	逆DTCS ON

コマンド	サブ	データ	動作
16	4C*	00	ボイススケルチコントロール機能 OFF
		01	ボイススケルチコントロール機能 ON
	54*	00	空線キャンセラー機能 OFF
		01	空線キャンセラー機能(TRAIN1) ON
		02	空線キャンセラー機能(TRAIN2) ON
		03	MSKキャンセラー機能 ON
19	00		本製品のIDコードを読み込み
1A	00*	00/01	AFフィルターの読み込み/設定 ※00=OFF、01=ON
1B	01*	P105参照	トーン周波数の読み込み/設定
	02*	P105参照	DTCSコード・極性の読み込み/設定
	06*	P105参照	空線信号周波数の読み込み/設定

※[*]マークの項目は読み込み/設定ができます。

● 受信周波数のデータ設定

コマンド: 00、03、05



※10Hz桁は、100Hz桁が2または7であれば5固定となり、そのほかは0固定になります。

※チューニングステップ(TS)が8.33kHz(AIRバンド)の場合、100Hz桁:3.6/10Hz桁:3.6/1Hz桁:3.6が設定できます。

● 音量のデータ設定

コマンド：1401

VOL0	VOL1	VOL2	VOL3	VOL4
0000~0005	0006~0012	0013~0018	0019~0025	0026~0031
VOL5	VOL6	VOL7	VOL8	VOL9
0032~0037	0038~0044	0045~0050	0051~0057	0058~0063
VOL10	VOL11	VOL12	VOL13	VOL14
0064~0069	0070~0076	0077~0082	0083~0089	0090~0095
VOL15	VOL16	VOL17	VOL18	VOL19
0096~0101	0102~0108	0109~0114	0115~0121	0122~0127
VOL20	VOL21	VOL22	VOL23	VOL24
0128~0133	0134~0140	0141~0146	0147~0153	0154~0159
VOL25	VOL26	VOL27	VOL28	VOL29
0160~0165	0166~0172	0173~0178	0179~0185	0186~0191
VOL30	VOL31	VOL32	VOL33	VOL34
0192~0197	0198~0204	0205~0210	0211~0217	0218~0223
VOL35	VOL36	VOL37	VOL38	VOL39
0224~0229	0230~0236	0237~0242	0243~0249	0250~0255

● スケルチレベルのデータ設定

コマンド：1403

OPEN	AUTO	LEVEL1	LEVEL2	LEVEL3
0000~0022	0023~0045	0046~0069	0070~0092	0093~0115
LEVEL4	LEVEL5	LEVEL6	LEVEL7	LEVEL8
0116~0139	0140~0162	0163~0185	0186~0208	0209~0231
LEVEL9				
0232~0255				

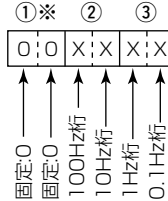
● Sメーターレベルのデータ値

コマンド：1502

S値	表示なし	1	3	5	7	9	フルスケール
データ	0000	0016	0048	0080	0112	0144	0160

● トーン周波数のデータ設定

コマンド：1B01

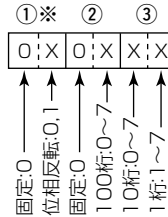


※周波数を設定するときには、入力不要です。

トーン周波数一覧表については88ページをご参照ください。

● DTCSコード・極性のデータ設定

コマンド：1B02

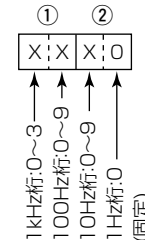


※位相を反転しないときは00、反転するときには01を設定してください。反転しないとき(00)は入力を省けます。

DTCSコード一覧表については89ページをご参照ください。

● 空線信号周波数のデータ設定

コマンド：1B06



空線信号周波数は、300Hz～3000Hzの範囲(10Hzステップ)で設定します。

10 困ったときは

■ リセットするには

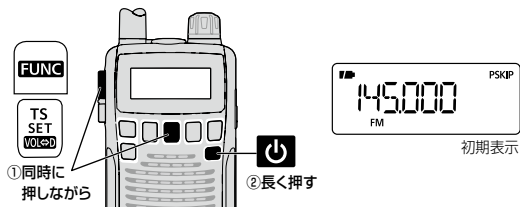
静電気などによる外部要因で動作がおかしくなったときは、パーシャルリセット、またはオールリセット操作をしてください。

◇ パーシャルリセットのしかた

- ◎ パーシャルリセット操作をすると、SETモードで設定した内容が初期設定に戻ります。
- ◎ パーシャルリセット操作をしても、メモリーチャンネルのデータはそのまま残ります。

1. 電源を「OFF」にします。
2. **FUNC** と **SET** [**TS**] を同時に押しながら、**[電源]** を長く押し続けて電源を「ON」にします。

初期表示になります。



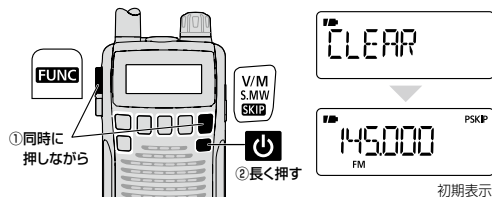
◇ オールリセットのしかた

【ご注意】

オールリセットすると、出荷時にプリセットされたメモリーチャンネルがすべて消去されますので、ご注意ください。

1. 電源を「OFF」にします。
2. **FUNC** と **V/M** を同時に押しながら、**[電源]** を長く押し続けて電源を「ON」にします。

「CLEAR」を表示したあと、初期表示になります。



● オールリセット時のメモリー内容について

オールリセット時、メモリーチャンネルとプログラムスキャン用チャンネルのメモリー内容は下記ようになります。

メモリーチャンネル：「000」145.000MHz / 「001」：433.000MHz
※ オールリセット時、「002～1299」は空白になります。

プログラムスキャン用チャンネル：

「00A」0.100MHz / 「00B」1300.000MHz
「01A」144.000MHz / 「01B」146.000MHz
「02A」430.000MHz / 「02B」440.000MHz

※ オールリセット時、「03A/03B～24A/24B」は空白になります。

■ 故障かな？と思ったら

下記の現象は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまで、お問い合わせください。

現象	原因	処置	参照
●電源が入らない	◎電池の接触不良 ◎電池の極性間違い ◎ニッケル水素電池またはアルカリ乾電池の消耗	●電池の端子を清掃する ●極性を確認して、電池を入れなおす ●ニッケル水素電池は充電し、アルカリ乾電池は新品に入れ替える	P8 vi ページ vi ページ、 vii ページ
●スピーカーから音が出ない	◎音量が小さくなっている ◎[SP]ジャックに外部スピーカーを接続している	●[▲]を押して、音量を設定しなおす ●外部スピーカープラグが正常に接続されているか、またはケーブルが断線していないかを点検する	P23 —
●感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎同軸ケーブルの断線またはショート（外部アンテナ使用时） ◎アッテネーターが「ON」になっている	●同軸ケーブルを点検し、正常にする ●アッテネーターを「OFF」にする	— P31
●AM放送(1M)バンドの感度が悪い	◎パーアンテナが選択されていない	●アンテナをSETモードでパーアンテナに切り替える	P31、P84
●[DIAL]を回すと、音量が変化する	◎反転機能が動作している	●[FUNC]を押しながら[TS]を短く押して、反転機能を解除する	P31
●[▲]または[▼]を押すと、周波数が変化する	◎反転機能が動作している	●[FUNC]を押しながら[TS]を短く押して、反転機能を解除する	P31
●周波数の設定ができない	◎ロック機能が動作している ◎メモリーモードになっている ◎受信周波数範囲外の周波数	●ロック機能を解除する ●[V/M]を短く数回押して、VFOモードにする ●受信周波数範囲を確認する	P29 P22 P112
●周波数が異常な表示になっている	◎CPUが誤動作している ◎静電気などによる外部要因	●パーシャルリセットする ●電池を装着しなおす	P106 vi ページ
●プログラムスキャンが動作しない	◎VFOモードになっていない ◎プログラムスキャン用チャンネルの「**A」と「**B」に同じ周波数が書き込まれている	●[V/M]を短く数回押して、VFOモードにする ●「**A」と「**B」に違う周波数を書き込む	P22 P40
●メモリスキャンが動作しない	◎メモリーモードになっていない ◎メモリーチャンネルに2CH以上書き込まれていない	●[V/M]を短く数回押して、メモリーモードにする ●2CH以上をメモリーチャンネルに書き込む	P34 P37
●セットモード中に、設定したい項目が表示されない	◎[EXPAND]を「OFF」にしている	●[EXPAND]を「ON」にする	P80

10 困ったときは

■ アフターサービスについて

「故障かな?と思ったら」(P107)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先:

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313(フリーダイヤル)

◆携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00~17:00)

電子メール: support_center@icom.co.jp/

アイコムホームページ: <http://www.icom.co.jp/>

● 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる本製品の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ 別売品一覧

マイクロホン/スピーカー関係

SP-13 : イヤホン

充電関係

BC-196 : バッテリーチャージャー(補修用)

BC-194 : バッテリーチャージャースタンド

※BC-196が必要

ケーブル/コントロールソフトウェア関係

CS-R6 : クローニングソフトウェア

※OPC-478/478UCのどちらか別途必要

OPC-474 : クローニングケーブル(本体間用)

OPC-478UC : クローニングケーブル

(パソコン間用:USBタイプ)

OPC-478 : クローニングケーブル

(パソコン間用:RS-232Cタイプ)

CP-18 : シガレットライターケーブル

CT-17 : CI-Vレベルコンバーター

その他

AD-92SMA : SMA-BNC変換アダプター

LC-146A : キャリングケース

12 用語集

用語	意味
AFフィルター	高音域のノイズを抑える機能のこと。
BTL回路	2つのアンプを使い、出力の増大と性能の改善を図ったもの。
CI-V	無線機の操作をパソコンによってコントロールできる当社独自のインターフェース。
DTCS (デジタルトーンコードスケルチ)	特定の相手の電波だけを受信したいときに使う機能のこと。 送信側は電波にデジタルコード信号(DTCSコード[023～754])を重ねて送り、受信側は設定したデジタルコード信号が送信側と合致した場合のみ、スケルチが開いて電波を受信する。
DTCS-R	(逆DTCS機能) デジタルコード信号を受信時は受信音をミュートし、デジタルコード信号が無くなるとスケルチが開いて受信する。
FM補完放送	AM (中波) 放送において、難聴対策や災害対策のためにFM (超短波) 放送の周波数を用いて、補完的にAMラジオ局の番組を放送すること。
Hz (ヘルツ)	世界中で標準的に使用される周波数の単位。 1Hz (ヘルツ) の1,000倍が1kHz (キロヘルツ)、100万倍が1MHz (メガヘルツ)、10億倍が1GHz (ギガヘルツ)。 電波の存在を証明したドイツの物理学者K.R.Hertzの名前から付けられた。 昔の単位は、サイクル(C/S)という。
MCA無線	Multi Channel Accessの略称。 周波数を有効に利用するために考案された業務用無線に使用されているシステム。 複数の通信チャンネルのほか、制御チャンネルを設けて、空チャンネルを自動的に探し出し、通信に使用される周波数を設定するようにしている。
MSKキャンセラー機能	MCA無線で聞こえるMSK制御信号を検出すると、ダイヤル操作時には受信音をミュートし、スキャン中にはスキャンを再スタートする機能のこと。
Sメーター (シグナルメーター)	受信した信号の強さを表示する。

用語	意味
T SQL-R	(逆トーンスケルチ機能) トーン受信時は受信音をミュートし、トーン信号が無くなるとスケルチが開いて受信する。
WFM	ワイドFMモードのこと。 アマチュア無線で使用されるFMモードは、電波を効率的に使用するため、一般的なFM放送よりも占有帯域幅が狭くなっている。 このため、レシーバー(受信機)では、一般的なFM放送を受信するため、ワイドFMモードを設けて、音質のよいFM放送を楽しめるようにしている。
アッテネーター (ATT) 機能	強力な信号を受信したとき、信号強度を減衰して受信音のひずみを低減する機能のこと。
アマチュアバンド	アマチュア無線局の運用が許可され、アマチュア業務にだけ使用できる周波数帯のこと。 従事者免許のクラスによって、使用する周波数帯が制限されたり、運用モードが定められたりしている。
イヤホンアンテナ	イヤホンジャックにイヤホンを接続することによって、イヤホンをアンテナ代わりにすること。
オフセット周波数	デュプレックス通信で、送信周波数と受信周波数の差(シフト幅)のこと。
空線キャンセラー機能	鉄道無線で、通信をしていない周波数で聞こえる2280Hz (ヘルツ) の空線信号を検出し、ダイヤル操作時には受信音をミュートし、スキャン中にはスキャンを再スタートする機能のこと。
クローニング機能	本製品の設定やメモリーの内容を、同型の受信機に書き込む機能のこと。(別売品が必要です)
航空無線	エアバンドのこと。 飛行機のパイロットと管制塔、またはパイロット同士が無線で交信しているバンド。 使用している周波数帯は、118MHz (メガヘルツ)～136MHz (メガヘルツ) と225MHz (メガヘルツ)～400MHz (メガヘルツ) で、変調方式はAM。
コードスキャン	電波に重畳されたデジタルコード信号(DTCSコード)をスキャンする機能のこと。

用語	意味
スキップ	必要のない周波数、またはメモリーチャンネルをスキップの対象からはずすこと。
スキャン	周波数範囲を自動で切り替えて、信号の出ているところを探し出す機能のこと。
スキャンエッジ	スキャン範囲の上限、または下限の周波数のこと。
スケルチ (SQL)	信号を受信していないときに、聞こえる雑音 (ノイズ) を遮断し、無音状態にするための機能のこと。
スプリアス	本来、電波が出ない部分 (無線機やケーブル) からの放射や無線機器から電波とともに発射される必要周波数帯域からはみ出した不要な電波のこと。
セレクトメモリーライト状態	周波数を登録、および消去するメモリーチャンネル番号を選択できる状態のこと。
チューニングステップ	ダイヤルなどを回したときに、変化する周波数の間隔。略称はTS。 変化幅は、5/10/15/20/25kHz (キロヘルツ) など送受信する周波数帯によって異なる。
デュプレックス (デュプレックス運用)	送信と受信をそれぞれ別の周波数で交信すること。おもにアマチュア無線で使われる。
トーン周波数	トーンスケルチ通信を受信するために設定する、トーン信号の周波数のこと。 67.0Hz～254.1Hzの50種類の中から選択する。
トーンスキャン	電波に重畳されたトーン信号 (トーン周波数) をスキャンする機能のこと。
トーンスケルチ (T SQL)	FMモードで、特定の相手の電波だけを受信したいときに使う機能のこと。 送信側は電波にトーン信号 (トーン周波数 [67.0Hz～254.1Hz]) を重ねて送り、受信側は設定したトーン信号が送信側と合致した場合のみ、スケルチが開いて電波を受信する。
バーアンテナ	AM放送が受信できる携帯型ラジオに内蔵されていて、棒状丸型または扁平型の磁性体の表面に絶縁被覆した電線を巻き付けたアンテナ。 指向性があり、バーアンテナを放送局に対して直角にすることで、最大感度になる。

用語	意味
バンクリンクスキャン	スキャンしたいバンクチャンネルを指定することで、指定した各バンクチャンネルに記憶されたメモリーチャンネルを連続でスキャンする機能のこと。
プログラムスキャン	あらかじめ指定した上限と下限の周波数範囲を自動的にスキャンして、信号が出ているところを探し出す機能のこと。
ボイススケルチコントロール (VSC) 機能	受信した信号に音声信号が含まれているかを検出する機能のこと。 音声信号が含まれていればスケルチを開き、含まれていなければスケルチを閉じる。
ポケットビーブ機能	待ち受け受信中に、同一のトーン信号を含んだ電波を受信したとき、「ピロピロピロ」というビーブ音で知らせる機能のこと。
メモリスキャン	自分がよく使用する周波数を記憶させたメモリーを順次、スキャンさせること。
メモリーチャンネル機能	よく使用する周波数やモード、トーン周波数などの運用情報、バンド情報を記憶できる機能のこと。
メモリーネーム	メモリーチャンネルに名前を入力し、保存できるようにした機能のこと。
メモリーバンク機能	メモリーチャンネルに記憶させた周波数をまとめて整理するための機能のこと。 たとえば、周波数帯ごとにバンクチャンネルを使い、ここに該当するメモリーチャンネルを記憶させるなど、色々な使いかたができる。
モニター機能	受信信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくい場合に強制的にスケルチを開く機能のこと。
リセット	静電気などによる外部要因で動作がおかしくなったときに、動作状態を初期状態に戻すこと。本製品にはオールリセット、パーシャルリセットがあります。

13 定 格

■ 一般仕様

● 受信周波数範囲:

0.100 ~ 252.895MHz	/255.100 ~ 261.895MHz
266.100 ~ 270.895MHz	/275.100 ~ 379.895MHz
382.100 ~ 411.895MHz	/415.100 ~ 809.895MHz
834.100 ~ 859.895MHz	/889.100 ~ 914.895MHz
960.100 ~ 1309.995MHz	

● 電 波 型 式: FM、WFM、AM

● 使用温度範囲: -10~+60°C

● 基準周波数安定度: ±1.0PPM以内(+25°C)

● 周波数分解能: 5/6.25/8.33*/9*/10/12.5/15/20/25 /30/50/100/125/200kHz

*運用バンド、運用モードによっては選択できません。

● メモリーチャンネル: 1300ch

● プログラムスキャン用チャンネル: 50ch(00A~24B)

● オートメモリーライト用CH: 200ch

● 電 源 電 圧: 外部端子: 4.5~6.3V 電池端子: 2.4V(ニッケル水素電池×2) 3.0V(アルカリ電池×2)

● 接 地 方 式: マイナス接地

● アンテナインピーダンス: 50Ω 不平衡 (SMA型)

● 重 量: 約200g(アンテナ、電池を含む)

● 外 形 寸 法: 58(W)×86(H)×29.8(D)mm (突起物を除く)

■ 受信部

● 受 信 方 式: トリプルスーパーヘテロダイン

● 中 間 周 波 数: 1st : 266.700MHz 2nd : 19.65MHz(FM/AM)、 19.95MHz(WFM) 3rd : 450kHz(FM/AM)、 750kHz(WFM)

● 低 周 波 出 力: 内蔵SP(16Ω10%歪率時)150mW以上 (3.0V時) 外部SP(8Ω10%歪率時) 80mW(typ.)

● 低周波負荷インピーダンス: 内蔵SP 16Ω / 外部SP 8Ω

● 選 択 度: AM、FM 12kHz以上/ -9dB 30kHz以下/ -60dB WFM 150kHz以上/ -6dB

● 消 費 電 流: 受信時 130mA typ. (3.0V時) 待ち受け時 65mA typ. パワーセーブ時 30mA typ.

● 受 信 感 度: (スプリアスポイントは除く)

FM 12dB SINAD(1kHz ±3.5kHz DEV)

1.625 ~ 4.995MHz	-10dBμ (typ.)
5.000 ~ 29.995MHz	-12dBμ (typ.)
30.000 ~ 117.995MHz	-15dBμ (typ.)
118.000 ~ 246.995MHz	-15dBμ (typ.)
247.000 ~ 469.995MHz	-15dBμ (typ.)
470.000 ~ 832.995MHz	-10dBμ (typ.)
833.000 ~ 1029.995MHz	-11dBμ (typ.)
1030.000 ~ 1309.995MHz	-9dBμ (typ.)

WFM 12dB SINAD(1kHz ±52.5kHz DEV)

76.000 ~ 108.000MHz	1dBμ (typ.)
175.000 ~ 221.995MHz	1dBμ (typ.)
470.000 ~ 770.000MHz	5dBμ (typ.)

AM 10dB S/N(1kHz 30% MOD)

0.495 ~ 4.995MHz	2dBμ (typ.)
5.000 ~ 29.995MHz	-1dBμ (typ.)
118.000 ~ 136.000MHz	-4dBμ (typ.)
222.000 ~ 246.995MHz	-4dBμ (typ.)
247.000 ~ 329.995MHz	-2dBμ (typ.)

※測定値は、JAI A(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定値によります。

※定格、外観、仕様などは、改良のため予告なしに変更することがあります。

A

AF FIL	92
AMラジオ	29
ANT	84
AP OFF	85
ATT	31

B

BEEP	82
BEEPLV	83
B-LINK	90

C

CANCEL	89
CHARGE	92
CIVADR	93
CIVBAU	93
CIVTRN	93
CI-V (リモート)について	102
アドレスの設定	93
基本フォーマットについて	103
コマンド一覧表	104
トランシーブの設定	93
ボーレートの設定	93
CODE	89
CONT	92
CP-18のヒューズ交換のしかた	13

D

[DIAL]と[▲]/[▼]に割り当てている機能を入れ替える ..	31
D SEL	82
DTCS	
DTCS位相反転機能の設定	89
DTCSコードの設定	89
DTCS P	89
DUP	87

E

EXPAND (拡張機能)	80
拡張機能のON/OFFの設定	84

F

FMラジオ	ix
-------------	----

L

LIGHT	83
LOCK	84

M

MONI	85
------------	----

O

OFFSET	87
--------------	----

P

PAUSE	86
P-LINK	91

さくいん

PRIO	82
P SAVE.....	83
PSKIP	63, 70

R

RESUME	86
--------------	----

S

SETモード	80
SKIP	70
SPEED	85
SQL	23
STOP B	86

T

TFRQ	90
TONE	88
TSQL	88

V

VFOモード	20
VFOモードのスキャン	57
ALL	57
BAND	58
P-LINK 0～9.....	59, 91
PROG 0～24	40, 58
VSC	90, 100

あ

アッテネーター機能を使う.....	31
アフターサービスについて.....	108
アンテナ	
切り替える	29, 84
取り付ける	7
オートパワーオフ機能の設定.....	85
オートメモリーライトスキャン.....	64
オートメモリーライト用チャンネル.....	33, 64
消去する	65
登録する	64
呼び出す	65
オールリセット.....	106
オフセット周波数の設定.....	87
音量.....	23
[DIAL]と[▲]/[▼]に割り当てている機能を入れ替える.....	31

か

外部電源を使用する.....	12
各部の名称と機能	
正面/側面パネル.....	14
ディスプレイ	18
キーロック機能の設定.....	84
キャンセラー機能.....	27, 89
MSKキャンセラー.....	27
TRAIN (空線キャンセラー)	27, 90
空線信号周波数の設定	90
クローニングについて.....	101

故障かな?と思ったら…………… 107
 故障のときは…………… 108

さ

充電…………… vi, 9
 充電を終わる…………… viii
 充電をはじめ(充電設定)…………… vii
 通常充電後の充電方法の設定…………… 92
 周波数
 周波数を大きく変える…………… 25
 周波数を小刻みに変える…………… 24
 受信する周波数を設定する…………… 22
 受信バンド(周波数帯)について…………… 21
 受信モード(電波型式)を設定する…………… 22
 消去
 オートメモリーライト用チャンネルを消去する…………… 65
 メモリーを消去する…………… 43
 スキップ(SKIP, PSKIP)
 スキップする、しないを設定する…………… 63
 スキャン中に不要な周波数をスキップ指定する…………… 63
 メモリーチャンネルごとにスキップを指定/解除する…………… 70
 スキャン…………… 55
 VFOモードのスキャン…………… 57
 オートメモリーライトスキャン…………… 64
 スキャン一時停止タイマーの設定…………… 86
 スキャン再スタートタイマーの設定…………… 86
 スキャン中にできる操作…………… 56
 スキャン停止時ビープ音の設定…………… 86
 スキャンの基本操作…………… 55

スキャンの方向を変える…………… 56
 プライオリティスキャン…………… 71
 メモリーモードのスキャン…………… 66
 スケルチレベルを調整する…………… 23
 設定項目の一覧表…………… 81

た

ダイヤルスピードの設定…………… 85
 ダイヤルセレクトの設定…………… 25, 82
 チューニングステップ…………… 24
 定格…………… 112
 ディスプレイ
 各部の名称と機能…………… 18
 コントラストの設定…………… 92
 バックライトの設定…………… 92
 デュプレックス通信…………… 94
 オフセット周波数の設定…………… 87
 デュプレックスモードの設定…………… 87
 電源について…………… 8
 電池の入れかた…………… vi
 登録
 オートメモリーライト用チャンネルに登録する…………… 64
 周波数をバンクに登録する…………… 45
 メモリーチャンネルに登録する…………… 37
 メモリーチャンネルをバンクに登録する…………… 47
 トーン/DTCGSを使った通信を受信する…………… 96
 トーン周波数の設定…………… 88
 トーンスケルチ受信モードの設定…………… 88
 トーン/コードスキャンのしかた…………… 99

さくいん

な

ニッケル水素電池の充電のしかた	vi, 9
ネームを使う	
入力する	50
メモリーチャンネル表示を切り替える	52
メモリーネーム、バンクネーム表示にする	49

は

パーシャルリセット	106
パワーセーブ機能の設定	83
バンク	44
バンド	21
ビーブ音	23, 82, 83
付属品	i
ハンドストラップを取り付ける	7
ベルトクリップを取り付ける	7
プライオリティースキャン	71, 82
プログラムスキャン用チャンネル	33, 40
設定を書き換える	42
別売品	109
ボイススケルチコントロール機能について	100
ボイススケルチコントロール機能の設定	90

ま

メモリーチャンネル	33
各機能を書き込む	53
自動繰り上げ登録機能を使う	38
消去する	43

登録する	37
メモリーチャンネルごとにスキップを指定／解除する	70
メモリーチャンネルの切り替え	35
メモリーチャンネルをバンクから削除する	48
メモリー内容をVFOモードに転送する	38
メモリー内容をほかのメモリーチャンネル番号に コピーする	39
呼び出す	x, 36
メモリーバンク	33, 44
各機能を書き込む	53
登録する	45, 47
メモリーチャンネルをバンクから削除する	48
メモリーモード	20
メモリーモードの基本操作	34
メモリーモードのスキャン	66
B-ALL	67
BANK-*	67
B-LINK	68, 90
M-ALL	66
モニター機能を使う	26
モニターホールド機能	26, 85

ら

ラジオを受信	ix
リセットするには	106
ロック機能の使いかた	29
キーロック機能の設定	84

IC-R6

操作ガイド

■電源のON/OFF

- [ON]を長く(1秒以上)押して、電源を「ON」にします。
※電源を「OFF」にするときは、再度[ON]を長く(1秒以上)押します。

■音量の調整

- [▲]/[▼]を押して調整します。(押しつづけると連続動作)

■スケルチの調整

- [SQL]を押しながら[DIAL]を回して調整します。

■VFOモードとメモリーモードの切り替え

- [V/M]を短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。

■受信バンドの切り替え

- VFOモードにし、[BAND]を短く押して、受信バンドを選択します。
※押すごとに「AM放送(1M)」→「5M」→「50M」→「FM放送(76M)」→「航空無線」→「144M」→「300M」→「430M」→「800M」→「1200M」→「AM放送(1M)」と受信バンドが切り替わります。

■周波数の設定

- ① [V/M]を短く数回押して、VFOモードにします。
- ② [DIAL]を回して、設定します。

■チューニングステップを変える

- ① [TS]を短く押すと、チューニングステップを表示します。
- ② [DIAL]を回して、チューニングステップを選択します。

■受信モード(電波型式)の設定

- [MODE]を短く押すごとに、受信モード(電波型式)が切り替わります。

■ロック機能の設定

- [FUNC]を押しながら[BAND]を長く(ビップ、ビーと鳴るまで)押すと、ロック機能を「ON/OFF」します。

■オールリセットのしかた

- ① [ON]を長く押して、いったん電源を切ります。
- ② [FUNC]と[V/M]を押しながら[ON]を長く押して、電源を入れます。
「CLEAR」表示したあと、初期表示になります。

■パーシャルリセットのしかた

- ① [ON]を長く押して、いったん電源を切ります。
- ② [FUNC]と[TS]を押しながら[ON]を長く押して、電源を入れます。
「CLEAR」は表示しません。

■メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた

- ① [V/M]を短く数回押して、メモリーモードにします。
- ② [BAND]を短く数回押して、メモリーモード表示にします。
- ③ [DIAL]を回します。

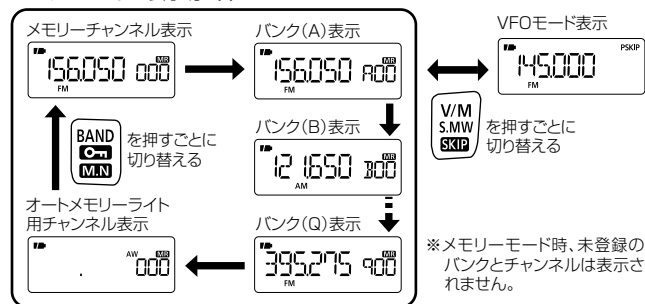
■M-CHへの書き込みかた

- ① [V/M]を短く数回押して、VFOモードにします。
- ② [BAND]を短く数回押して、受信するバンドを選びます。
- ③ [DIAL]を回して、周波数を設定します。
- ④ [V/M]を長く(ビップ、ビーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライト状態にします。(M-CH表示部が点滅します。)
- ⑤ [DIAL]を回して、M-CHを選択します。
※[VF]を選ぶとVFO、[00A/00B ~ 24A/24B]を選ぶとPROGRAM-CHに書き込みます。
- ⑥ [V/M]を長く(ビップ、ビビと鳴るまで)押すと、メモリー内容を表示してVFOモードに戻ります。

■メモリーモード時の表示切り替えについて

- [BAND]を短く押すごとに、「メモリーチャンネル」→「バンク A」→「バンク B」→「バンク Y」→「オートメモリーライト用チャンネル」→「メモリーチャンネル」と表示を切り替えます。

●メモリーモードの表示切り替え



■メモリー内容を消去する

- ①メモリーモードまたはVFOモードを選択して、[V/M]を長く(ビップ、ビーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
- ②[DIAL]を回して、消去したいM-CHを選びます。
- ③[MODE]を短く数回押して、「CLEAR」項目を選択します。
- ④[V/M]を長く(ビップ、ビビと鳴るまで)押すと、メモリー内容を消去します。
- ⑤消去後、[V/M]を短く押します。

■ SETモードの設定

- ① [TS]を長く(ビッ、ビーと鳴るまで)押します。
- ② [DIAL]を回して、設定したい項目を選択します。
表示は約1秒後、設定内容表示に変わります。
- ③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、設定内容を選択します。
- ④ [TS]を短く押すと、SETモードを解除します。

■ VFOスキャン

- ① [V/M]を短く数回押して、VFOモードにします。
※スキップスキャンを選択するときは、[FUNC]を押しながら[V/M]を短く押して、「P SKIP」表示を点灯させます。
再度、同じ操作をすると「P SKIP」表示が消灯します。
- ② [MODE]を長く(ビッ、ビーと鳴るまで)押します。
- ③ [DIAL]を回して、VFOスキャンの種類「ALL」(オールスキャン)/「BAND」(バンドスキャン)/「P-LINK0~9」(プログラムリンクスキャン)/「PROG 0~24」(プログラムスキャン)を選択します。
- ④ 選択後、[MODE]を短く押すと、スキャンを開始します。
※スキャン中に[BAND]を短く押して、バンドまたはプログラムスキャン範囲を切り替えることができます。
- ⑤ [MODE]を短く押すと、スキャンを解除します。

■ オートメモリーライトスキャン

- ① [V/M]を短く数回押して、VFOモードにします。
- ② [MODE]を長く(ビッ、ビーと鳴るまで)押します。
- ③ [DIAL]を回して、スキャンの種類「ALL」(オールスキャン)/「BAND」(バンドスキャン)/「P-LINK0~9」(プログラムリンクスキャン)/「PROG 0~24」(プログラムスキャン)を選択します。
- ④ 選択後、[MODE]を短く押すと、スキャンを開始します。
- ⑤ [V/M]を短く押すと、「MR」表示が点滅して、オートメモリーライトスキャン動作となります。
※すべてのオートメモリーライト用チャンネルが書き込まれている状態では、オートメモリーライトスキャンへの切り替えはできません。
※再度、[V/M]を短く押すとオートメモリーライトスキャンを解除します。
- ⑥ 信号を受信すると、5秒間一時停止して、受信した周波数をオートメモリーライト用チャンネルの最下位(***000)に書き込みます。
※書き込み時、ピープ音が「ビビッ」と鳴り、書き込み後は、自動的に再スタートします。
※それ以前に書き込んだオートメモリーライト用チャンネルがあれば、順次上位チャンネルにシフトします。
※すべてのオートメモリーライト用チャンネル(200CH)を書き込んだときは、ピープ音を「ビー」と鳴らしてスキャンを解除します。
- ⑦ [MODE]を短く押すと、スキャンを解除します。

■ メモリースキャン/メモリーバンクスキャンの操作

- ① [V/M]を短く数回押して、メモリーモードにします。
- ② [BAND]を短く数回押して、メモリーモード表示/バンク表示を選択します。
- ③ [MODE]を長く(ビッ、ビーと鳴るまで)押します。
- ④ [DIAL]を回して、スキャン範囲「M-ALL」(メモリーオールスキャン)/「B-ALL」(バンクオールスキャン)/「B-LINK」(バンクリンクスキャン)/「BANK-A ~Y」(バンクスキャン)を選択します。
※なお、バンクスキャン中に[BAND]を短く押して、バンクを切り替えることができます。
- ⑤ [MODE]を短く押すと、スキャンを開始します。
- ⑥ [MODE]を短く押すと、スキャンを解除します。

■ スキップ機能の設定

- ① [FUNC]を押しながら[V/M]を短く押すごとに、「SKIP」→「P SKIP」→「消灯」(解除)→「SKIP」と表示が切り替わります。

■ VFOモード時

- [FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、SETモードの「D SEL」(ダイヤルセレクトの設定)で設定している周波数ステップで、周波数をアップまたはダウンします。(初期設定値:1MHzステップ)
- [FUNC]を押しながら[TS]を押すと、[DIAL]と[▲]/[▼]に割り当てている機能を反転します。(反転機能動作時は「VOL」表示が点灯します。)
- [FUNC]を押しながら[SQL]を押すと、アッテネーター(ATT)機能を「ON/OFF」します。

■ メモリーモード時

- [FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、M-CHを10CHステップでアップまたはダウンします。
- [FUNC]を押しながら[BAND]を短く押すごとに、「周波数表示」→「B NAME」(バンクネーム)→「M NAME」(メモリーネーム)→「CH-***」(チャンネル表示)と表示を切り替えます。

高品質がテーマです。

A-6809H-1J-②

Printed in Japan

© 2010–2015 Icom Inc.

この印刷物は環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32